

会長のページ	年頭所感	河野 雅行	3
年 頭 所 感	日本医師会長	松本 吉郎	4
年 頭 所 感	宮崎県医師会顧問	秦 喜八郎, 稲倉 正孝	6
年 頭 所 感	各郡市医師会長		7
年 頭 所 感	各専門分科医会長		12
年頭のご挨拶	宮崎県知事	河野 俊嗣	19
年頭のご挨拶	宮崎大学長	鮫島 浩	20
年頭のご挨拶	宮崎県選出国會議員, 日医推選国会議員		21
新春随想 (その1)			26
	谷口 二郎, 河野 秀一, 河野 通久, 北村 恵子, 名越 敏郎, 長沼弘三郎, 七島 篤志, 中山 健, 宝珠山 弘, 眞柴 晃一, 宮尾 雄治, 満留 武宣, 鳥原 康治		
エコー・リレー (569)		玉置 昇, 堀之内謙一	39
身近なお困りごと相談室		高山 桂	40
診療メモ 不眠症の薬物療法		治田 彩香	92
宮大医学部学生のページ	宮崎大学清花祭 第18回～撥雲見天～	開催報告 村社 優介, 野村新太郎	94

あなたできますか? (令和3年度医師国家試験問題より)	38
表彰・祝賀	41
令和4年1月～12月までの叙勲及び表彰・祝賀受賞会員	42
宮崎県感染症発生動向	44
各種委員会(介護保険委員会)	46
第2回各郡市医師会長協議会	48
九州医師会連合会第404回常任委員会	50
九州医師会連合会令和4年度第1回各種協議会	52
日医インターネットニュースから	64
医師協同組合だより	66
医師国保組合だより	68
会員の異動・変更報告	70
ベストセラー	71
理事会日誌	72
県医の動き	78
ドクターバンク情報	79
行事予定	85
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	87
あ と が き	100

お知らせ	カット・イラストの募集	36
	第31回日本医学会総会	37
	県医師会館大規模修繕工事について	51
	医療勤務環境改善支援センター	63
	医師の求人・求職は日本医師会女性医師バンクをご利用ください!	77
	日州医事へのご意見・ご感想	83
	宮崎県医師会メーリングリストのご案内	90
	医師年金ご加入のおすすめ	91
	郡市医師会への送付文書	96
	日州医事原稿募集のお知らせ	99

医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年3月12日制定)

〔表紙作品：書〕

恭 則 壽

礼儀正しく丁寧であれば、ないし慎み深ければ長生きするものである。周武王帯銘といわれているものです。

宮崎市 やま うち つとむ
山 内 励

年 頭 所 感

宮 崎 県 医 師 会

会 長 ^{かわ}河 ^の野 ^{まさ}雅 ^{ゆき}行



新年、おめでとうございます。

昨年は社会の混乱により医療機関も多大の影響を受けました。先ずコロナとウクライナ戦争で、さらには近隣諸国との領土や貿易を巡る問題、テロに端を発した宗教がらみの問題等々の難問で今でも混乱が続いています。

少し振り返ってみますと、昨年6月、日医執行部が中川会長から松本会長に交代されました。医療行政はさまざまな圧力に曝されています。新執行部のご活躍を期待いたします。県医師会も執行部選挙がありました。ベテラン役員が勇退され、若手の優秀な先生方に加わっていただき、業務繁多に応じて常任理事を定数の範囲内で増員しました。

7月には、参議院選挙があり県医連推薦の比例区で自見先生、選挙区で松下先生が当選されました。今後の活躍が期待されています。また、参議院選挙中に安倍元首相が銃撃され、それに関連して統一教会問題や国葬問題が出てきました。日医の講演「テロから身を護るために」では、元首相が銃撃された際、1発目の銃声で聴衆は音がした方に何かと駆け寄った人が多かった。これはテロの場合には大変危険である。銃声（と分かれば）がしたら、直ちに身を伏せる、次に逃げ出すか余裕がなければ少しでも身を隠すことが重要であるとの話でした。わが国ではテロがほとんどないので、そのような対応は国民の大多数が未経験です。医療関係者が犠牲となる痛ましい事件もありました。医療機関の安全のために県医師会では県警との協力を密にする協議を行っています。それでも超緊急の際には、先ず自分で身を守ることが最重要です。しかし咄嗟の行動には訓練が必要ではないでしょうか。県医師会では今後も県警との協議を重ねてゆきます。

秋には強烈な台風により河川の氾濫や土砂崩れによる道路の寸断、断水や停電等の長く続いた地域もあり、死亡者も報告されました。医療機関でも水漏れや停電等で苦勞されたようです。毎年ながらも予防対策を上回る自然災害があり、被害の根絶は困難なようです。

また、物価高騰により医療機関も深刻な影響を受けています。国では補助金制度を設けましたが、給付は各自治体の裁量で異なり総額も充分ではありません。物価に対応して国内企業の85%が従業員の給与を昇給させるそうです。しかし、医療機関は診療報酬の関係で簡単には昇給できません。他職種と比べて差が広がれば医療関係者の確保はますます困難になるでしょう。

年末には県知事選挙が行われ、現職と元職との一騎打ちとなりました。この稿が皆様に届くころには結果がでていることと思います。県医連は県行政と協調して医療問題に取組む必要があり地域医療に理解の深い現職を推薦しました。本年は統一地方選挙があります、ご協力をお願いいたします。

今年は、干支のうさぎのごとく明るい未来に向けて飛躍する良い一年となることを切に願うばかりです。皆様のご多幸を祈りまして、新年のあいさつとさせていただきます。本年もよろしく願いいたします。

年 頭 所 感



日 本 医 師 会

会 長 ^{まつ}松 ^{もと}本 ^{きち}吉 ^{ろう}郎

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、年明けの寿ぎも束の間に、昼夜を分かたず、新型コロナウイルス感染症をはじめ、あらゆる医療の現場でご尽力いただいている会員、医療従事者の皆様には心からの敬意と感謝を申し上げます。

わが国の医療界が新型コロナウイルス感染症と向き合い始めて、丸三年の月日が経とうとしています。この間、会員の先生方におかれましては、発熱外来における診療やワクチン接種、あるいは通常医療の分担など多岐にわたる取り組みをいただくとともに、物心両面で筆舌に尽くしがたいご負担をおかけしてきたものと拝察いたします。

こうした医療従事者の献身により、わが国の新型コロナウイルス感染症による死亡率は諸外国と比べて極めて低く抑えられてきました。この事実は、世界に誇るべきものであると思います。

昨年はこれまでで最大規模となる「第七波」を経験しましたが、新たな変異株の出現、季節性インフルエンザとの同時期流行が予想されるなど、今後の動向はなお予断を許しません。

そのような中であっても、全国の会員の先生方が医療の現場で培われたご知見をもってすれば、必ずやこの感染症を克服して穏やかな日常を取り戻し、明るい未来へと繋げていくことができるものと確信いたします。

新型コロナウイルス感染症に限らず、わが国の医療提供体制を支えさらに前へ進めていく原動力は、全国津々浦々で日々、患者さんと向き合っておられる会員の先生方お一人お一人の経験に裏打ちされた情報やご意見、ご提言の数々に他なりません。そして、このような経験知の総和が、学術専門団体である日本医師会のさまざまな施策や政策提言を形作っていくものと考えます。

日本医師会は昨年11月に「地域における面としてのかかりつけ医機能～かかりつけ医機能が発揮される制度整備に向けて～(第1報告)」を公表しました。地域に根差して診療されている先生方には、自院での診療以外に、平日夜間・休日輪番業務などの「地域の時間外・救急対応」や、学校医・産業医活動などの「地域保健・公衆衛生活動」等を連携して行い、地域住民の健康を守るため、二次医療圏や市区町村等それぞれの地域を面として支えていただいています。「地域における面としてのかかりつけ医機能」は、医療機関間の連携とネットワークにより、さらに強く発揮され、そこから得られる膨大な知見は、わが国の医療提供体制を充実・発展させるうえでの貴重な財産となります。

日本医師会はこうした活動に深く感謝申し上げるとともに、引き続き全力で支援して参ります。併せて、国民の皆さんに対しても、地域医療が地域医師会及び会員の先生方の多大なるご尽力のもとに成り立っていることを広く知っていただくよう努めて参ります。

このような「面としてのかかりつけ医機能」を一段と高めるためには、医師会の組織強化が不可欠となります。その一環として、日本医師会では令和5年度より、現在臨床研修医に適用している会費減免の期間を医学部卒業後5年まで延長することといたしました。

この取り組みを通じて、より多くの先生方が医師会活動に参画しその重要性を体感いただくとともに、わが国の医療を支える担い手として、共に歩みを進めていただきたいと考えております。また、組織強化の取り組みは、三層すべての医師会が足並みを揃えることによって実効性が高まるものですので、地域医師会の先生方におかれましては、格段のご理解とお力添えを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

年 頭 所 感



宮崎県医師会顧問
秦 喜八郎

明けましてお目出度うございます。

新型コロナの第8波の襲来が報じられています。第6波、第7波と経験する中で多くの課題が整理されwithコロナの社会が構築されつつあります。2価ワクチンの第5回目接種、国産内服薬（ゾコーバ）の登場に期待しています。なにより大事なものは人材の育成です。新型コロナ対策3年間の教訓を地域医療構想や第8次医療計画に書き込まねばなりません。

近藤邦夫全医連会長は、医師国保組合の抱える最大の問題は、第1に国庫補助の削減・廃止、第2が高額医療費問題であるとし、全協、日医を動かし国会議員との連携を深め着々と成果をあげています。

全医連国保問題検討委員会の篠原彰委員長は、医師国保組合の将来像についてもタブーのない検討を始めるべきとしています。中四国ブロックの島根、鳥取、岡山、徳島の4県では新しい切口として基幹システムが同じ4県合併時のシミュレーションを発表しています。全医連でも事務（局）長連絡会で、「医師国保組合の統合・合併について」の研修が行われる予定です。先見性に富む渡邊芳樹全協会長は今後、統合・合併の動きがあれば必要な費用を国庫負担にする道を拡げたいと発言しています。

我国の2021年の出生数は81万人と予想を超えた減少となりました。一方地球の総人口は80億に達し8億人近くの飢餓人口を抱えています。人類の知恵がためされています。

新しい年に幸多かれと祈ります。



宮崎県医師会顧問
稲 倉 正 孝

新年明けましておめでとうございます。

わが国は災害多発国です。世界で観測されるマグニチュード6以上の地震の約2割がわが国周辺で発生しています。前触れない突然の火山噴火、地球温暖化の影響と考えられる大型台風、大水害、すさまじい土石流が頻繁にみられます。記憶に新しいところでは、東日本大震災・熊本地震・西日本豪雨災害など枚挙にいとまがありません。

コロナ感染症の大流行と重なって、大規模災害が起きる可能性も想定されます。コロナ対策も3年目、行政・国民も抜本的な対応を迫られています。ここ3年間に、我々はこの手強いウイルスの性質・弱点を多く学びました。複合災害発生時に大切なことは、初動対策で、行政の適正でぶれない指導・指揮と現場（国民1人1人と医療関係者等）の忠実な連携と協力・実行です。

不幸にも新型コロナの流行と大規模災害が同時に起きた場合には、人命救助を第一に、初動時からしっかりと感染対策を行う必要があります。コロナ患者の受け入れに当っては、感染拡大防止を目的にゾーニングが必要となります。感染対策は平時同様の「標準予防策」を徹底しなければなりません。年頭に当たっての診療に従事する者の希望としては、もっと効果の確実なワクチンの開発と効果的な内服薬の開発を望んでいます。

年 頭 所 感



宮崎市郡医師会長
高 村 一 志

新年明けましておめでと
うございます。旧年中は当
医師会に多大なるご支援を

賜り厚く御礼を申し上げます。特に昨年秋に「宮崎市郡医師会病院の医学研究充実に係る寄附金」のお願いを始めた所、多数の先生方に多額のご寄付を賜りました。重ね重ね厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の対応が始まり4年目になろうとしています。相変わらず感染の波は繰り返し押し寄せ、そのたびに医療機関は翻弄されています。厚労省はこの冬シーズンはインフルエンザとの同時流行を危惧し、新型コロナウイルスの自己検査だけでなくインフルエンザまでも同時に診断できるキットを用い自宅で検査をする事を認めました。医療逼迫を考えれば拙速な対応として仕方がないことかも知れませんが、将来新型コロナがcommon coldになった時にインフルエンザの自己検査が続くようであれば私たちのインフルエンザ検査料と診断料は奪われてしまいます。重症者が減少している現在、変えるべき医療体制は一部の「診療・検査医療機関」がコロナ患者を検査診療することではなく、多くの（全ての）医療機関がコロナ患者を診る体制をつくることではないでしょうか。そのためには法的変更にかかる時間のかかる病類の変更ではなく、以前のインフルエンザ流行時と同じように簡便な発熱患者との隔離で済むようなコロナ診療体制を認めるべきだと思います。そのように裾野を広げる医療体制ができるならば、重症者も確実に必要な医療に結びつけられるのではないのでしょうか。と勝手に新春の夢を見えています。

本年こそ感染症に振り回されることなく本来の医療に戻る新医療元年になることを祈念しまして新年の挨拶とさせていただきます。



都城市北諸県郡医師会長
田 口 利 文

新年あけましておめでと
うございます。旧年中は当
医師会に多くのご支援を賜

りまして、本当にありがとうございました。

3年間、新型コロナウイルス感染症の出現により、通常の診療に大きな影響があり、ご苦労されたことと思います。都城市郡医師会病院では重症・中等症を中心に現在まで700名近くの新型コロナ感染患者を受け入れました。今後も先生方と連携して、感染患者に対応していきたいと考えています。昨年、都城健康サービスセンターは50周年を迎えました。設立当時の会員先生方が残された記録に「医師会が学術集団として医療水準向上と公衆衛生活動の充実に図る」という理念がありました。この思いを現在計画している高度急性期病床の増床・設備充実に反映させたいと考えております。血管内治療など迅速な治療により、脳卒中後遺症を最小化するために、SCU（脳卒中集中治療室）を整備します。心筋梗塞や心不全、ハイブリッド手術室を設置して心臓血管疾患も幅広く対応できる体制を構築し、会員の先生方の日常診療の助けになるようにしたいと考えています。

志願する学生の減少に伴い、看護学校の運営はさらに厳しくなっております。当地域で活躍してくれる看護師の養成は、医師会の使命と考え引き続き頑張っていきます。

本年も当医師会に対するご支援、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。新しい年が皆様にとりまして、さらに良い年となりますよう心より祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



延岡市医師会長
佐藤 信博

明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして良い年であります

よう心よりご祈念申し上げます。

新型コロナウイルス感染症第8波のなかで迎える新年となりますが、これまでの知見により開発されましたワクチンや治療薬により、いよいよwithコロナの時代が見えてきたと感じます。

さて、延岡市医師会は県北の地域医療を守るため、会員と行政、住民が一体となって取り組みを進めてまいりましたが、令和5年の課題をいくつか紹介いたします。

まず、平成21年から脳卒中と消化管出血を輪番制により対応していますが、令和6年度からの医師の働き方改革により、これまで輪番制を担当していただいた医療機関の対応が難しくなる可能性があり、何としてでも解決しなければならない課題と考えています。

次に、アフターコロナを見据えた医療機関対策です。コロナ治療に軸足を移した運営からの転換を円滑に進める必要がございます。延岡市医師会病院では病棟再開を如何にするかが課題となります。

また、延岡市では骨折予防プロジェクトを発足させ、産学官が連携して骨粗鬆症患者の特定、骨粗鬆症検査、治療の開始と継続を延岡市内全体で取り組み、最終的には二次骨折の減少、寝たきり老人の減少により、「自分の足で100年歩ける健康長寿のまちづくり」を目指して参ります。

更には国のデジタル田園都市国家構想推進交付金を活用した事業も検討が進められています。

今年も盛り沢山の課題を抱えたスタートとなります。皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。



日向市東白杵郡医師会長
千代反田 晋

明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が世界を震撼させて丸3年が経とうとしています。莫大な犠牲をはらってもなおウイルスは手を替え品を替え私たちに襲ってきます。そのような中、昨年2月にはウクライナ戦争が勃発しました。時代錯誤的なロシアの振る舞いには唖然としました。理不尽な戦争により悲惨な生活を余儀なくされたウクライナの人々には慰めの言葉もありません。昨年9月9日には当医師会の甲斐史朗先生のご尽力で、友人でもある国境なき医師団の門馬秀介先生の特別講演を開催することができました。日本人として初めて戦時下のウクライナに入り、医療従事者への技術研修や避難所での診療を行っています。戦争という非日常的な環境での医療活動について詳細なお話を頂きました。救急医としてのスキルや思いだけでは如何ともしがたく、現地の人々の自主的な救援活動に寄り添った活動が長期的観点から大切であるとの事でした。戦争や多くの大規模自然災害で活動されてきた経験談に門馬先生の強い使命感を感じました。新型コロナウイルス感染症もウクライナ戦争も予想に反して長期化し、世界経済の停滞やサプライチェーンの寸断に世界中が困窮しています。

今年こそは新型コロナウイルス感染症が収束し、ウクライナの荒廃した畑を再び小麦が埋め尽くし、ウサギが跳びはねる日が来ることを願っています。



児湯医師会長
永友和之

明けましておめでとうございます。

最後、最後と言いながら11期目の会長を務めています。それにしてもこの20年は、あっ！という間に過ぎてしまいました。歳をとると whyなぜ、1日1年の時間が速く流れるのでしょうか？「それはねえ、ドキドキわくわくときめくことがないから…」とチコちゃんが教えてくれました。さすがチコちゃん、小生もそう思います。

よって今期からは医師会活動の全てのことに興味をもって、わくわくときめきながら任務を果たしてまいります。

1) 2025年問題について

- ① 地域医療構想→すでに10数回の調整会議が終了。コロナでの3年休眠から再燃いたしました。頑張ります(75点)。
- ② 地域包括ケアシステムの推進→多職種交流会やスキルアップ研修会などを開催して盛況であります(90点)。
- ③ 在宅医療→講習会は(90点)、実行は都農町国保病院(100点)、その他の医療機関は(20点)。

2) 児湯准看護学校の運営(60点)。

3) 新型コロナウイルス感染症対策(100点)。

4) その他諸々(60点)。

児湯医師会員69名、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



西都市西児湯医師会長
松本英裕

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願い致します。

昨年末サッカーW杯日本代表の活躍に沢山の元気を貰いました。西都市は野球、サッカーのキャンプも盛んです。中でも昨年セリーグ優勝チーム“東京ヤクルトスワローズ”の二軍にキャンプに来て頂いており、昨年の流行語大賞“村神様”の村上宗隆選手も新人時代に西都市でじっくり育てられました。今後も怪我無く活躍、飛躍して頂けることが、少しでも関わった西都の関係者に元気が貰えることと思います。

今年も「卯年」で検索してみました。卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」。また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきており、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われているようです。今年も卯年でも十干十二支では「癸卯(みずのとう)」となり、「癸」は物事の終わりと始まりを意味する他、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。また「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるようです。この2つの組み合わせである癸卯には「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起良さがあります。いきなりですが、是非、それらの意味に乘っかり、西都児湯医療センター新病院建設に向けて大きく前進することを祈念します。卯(兎)が入った四字熟語を探してみました。“鳶目兔耳(えんもくとじ)”「鳶の目は遠くのことで目ざとく見つけ、兎の耳は些細な事も聞き漏らさないという意味」で、そんな耳と目を持った情報収集能力の高い人間になりたいものです。行政と良好な関係を築き、三師会での連携も密にし、更なる多職種間の顔の見える関係づくりに尽力していきたいと思っております。

最後に、今年も皆様方に当医師会への更なるご指導、ご鞭撻をお願いし、会員の先生方の健康と幸せを祈念申し上げます。



南那珂医師会長
中村 彰 伸

新年明けましておめでとうございます。皆様方には健やかに初春をお迎えるのこととお慶び申し上げます。旧年中は当医師会へ格別なご厚情を賜り、ありがとうございました。

南那珂におきましても昨年8月初旬をピークとする新型コロナ感染爆発が occurred。その中で理事の先生方の協力もあり、理事会をリアルで開催し学術講演会も人数制限はしましたがリアルで開催しました。令和2年3月から中断していた日南在宅ケア研究会を昨年7月から再開し、11月には300回記念大会に約90名の参加がありました。ただコロナ感染者の入院や外来治療を一手に担っている県立日南病院において患者や医療スタッフのクラスターが発生し、入院受入れ停止や一部診療科外来中止等の措置のため医療機能低下する時期がありました。

丸3年コロナと向きあい、どんな患者さんなら軽症で経過し、どんな患者さんが重症化するリスクについても把握できるようになりました。投与できる内服薬も開発され一般処方も可能となりましたが新規感染者は減少せず第8波に突入したと考えられます。重症化リスクの低い人の感染が疑われる場合の行動指針や発熱等症状のある人が受診する際の手順が県民全体に周知徹底されていない感があります。

私共はワクチン接種と平行して検査体制の更なる充実、積極的な治療への関与、自宅療養者への丁寧なフォローアップに努め、医療提供体制を堅持しなければなりません。

県や県医師会の指導の下、住民の健康と生活が守れる医療を提供し続けられるように医師会運営に努めていきます。これまで以上にご指導ご鞭撻お願い致します。

最後になりますが皆様のご健勝ご活躍を心より祈念申し上げます。



西諸医師会長
内村 大 介

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年を迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。旧年中は当医師会への格別なご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

また、この年末年始も発熱外来診療はもとより、救急診療や休日診療など、医療現場でご尽力頂いている会員の先生方をはじめ多くの医療従事者の皆様に心からの敬意と感謝を申し上げます。

2023年は卯年で、卯年はうさぎの跳び姿から「飛躍」「向上」を示し景気などが回復すると言われています。うさぎにあやかって大きな飛躍の一年になればと期待しております。

さて、本会立の小林准看護学校は開校より64年が経過し、残り3ヵ月で最後の学生が卒業を迎えようとしております。これまでに多くの外来講師の先生、実習施設並びに地域の皆様の多大なるご協力に支えられ、2,200名を超える准看護師を地域に輩出してきました。閉校まで残り僅かではございますが、最後まで一人ひとりの生徒に寄り添った教育を熱意をもって行い地域医療のチームの一員として活躍できるような准看護師を送り出す所存です。

また、学校の閉校にも伴って、老朽化した会館の解体及び新会館の建設の検討に入ることを令和4年6月に開催された定時総会にて会員の先生方よりご了承をいただきました。現会館は昭和48年に竣工され今年で約50年が経ちます。現在、会館建設・解体検討委員会を立上げ検討に入っているところでございますが、今後、会員の先生方のご意見を賜りながら、新たなご負担をいただかないような形で解体と建築ができるよう検討を進めていければと考えております。

最後になりますが、本年も当医師会に対しまして、これまで以上のご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。併せて本年が皆様にとって実り多い素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



西白杵郡医師会長
植 松 昌 俊

新春を迎え、謹んで新年
のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、新年をお健やかに迎え
にいられたこととお慶び申し上げます。

この原稿を執筆している11月上旬現在、新
型コロナの感染状況について、感染拡大が今後
も継続し「第8波に入りかかっていると考える
ことも出来る」との報道も出てきています。こ
の3年間パンデミックに翻弄されながら、ウィ
ズコロナの新しい生活様式で求められるさまざ
まな課題に真摯に向き合い、私たちは新型コロ
ナウイルスに関する多くの知見を獲得し、その
対応を行ってきました。

一方、昨年10月20日の東京市場では、ド
ル円レートは1ドル150円台に乗せ、32年来の
安値水準を更新しました。その円安による物価
上昇や資源高騰が病院経営を圧迫しているのは
周知の通りです。輸入品が多い医薬品や医療機
器なども軒並み値上がりし、値上がりだけなら
まだしも、中国のゼロコロナ政策のあおりをう
け医薬品の原材料が入荷しないなど、地域医療
の存続に関わると危機感を感じています。

2023年は、「ラグビーワールドカップ2023フ
ランス大会」、2024年は「第33回オリンピック
競技大会（パリ）」と心躍る大型イベントの開
催が続きます。感染状況が落ち着いて、観客を
招いた中で実施され、大いに賑わうことが期待
されます。

今年こそは明るい笑顔で過ごせることを願
い、新年の挨拶とさせていただきます。本年も
どうぞ宜しくお願い致します。



宮崎大学医学部医師会長
帖 佐 悦 男

明けましておめでとうご
ざいます。穏やかな新年を

お迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中
は、大変お世話になり、当会会員一同心より御
礼申し上げます。新型コロナ感染者数は増減を
繰り返しており、さらに新たな変異株の出現な
どもあり未だ先行きが見えず、日ごろの業務に
加え大変な日々をお過ごしのことと存じます。

「Withコロナに向けた」医療従事者として私
たちができることは、「プラス思考でプラス行
動」を行い、一歩ずつ着実に進むことです。イ
ンフルエンザ相当の5類感染症への引き下げに
なったとしても、今回経験した感染症対策のお
かげでインフルエンザへの罹患も少なくなっ
ているため、心配されている新型コロナウイルス・
季節性インフルエンザの同時流行に備えて
も同様の対策をすることで乗り切れると信じて
います。また、「働き方改革」も喫緊の課題で、
医師少数県の宮崎県はより厳しい状況ですが、
医師会の先生方と知恵を出し合うことで、大学
病院も「地域医療を守る」ために貢献する所存
です。

コロナウイルス感染症対策をはじめ日常診療
において、医師会との連携をより一層緊密にす
ることで、県民の皆様の期待に応え、信頼に沿
うべく努力を続けていく所存ですので、今後と
もご指導を賜りますようお願い申し上げます。

年 頭 所 感



内科医会長
比 嘉 利 信

明けましておめでとうございます。健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し

上げます。

まる3年を経た新型コロナウイルス感染症に加え、昨年2月に始まったウクライナ戦争もなかなか終息の道が見えません。世界中が少なからずこれらの影響を受けて、混沌としています。

昨年も4月の日本臨床内科医会（日臨内）をはじめ、ほとんどの学会、会議、講演会などはWEB開催となりました。5月の宮崎県内科医会の総会・学術講演会は、ハイブリッド形式で行なわれ、新型コロナウイルス感染症、リウマチ・膠原病における保険診療、冠動脈疾患における至適抗血栓管理についての発表や講演が行われ、大変充実した内容でした。11月の沖縄県担当による日臨内九州ブロック会議・九州各県内科医会連絡協議会（九内協）・同審査委員懇話会（九内懇）では、とくにリフィル処方、オンライン診療についての話題が集中しました。リフィル処方は、中医協でも十分審議されないままスタートしましたが、実績は約0.03%に過ぎず、定着しそうな状況です。オンライン診療にしても、特殊な状況を除き、基本的には患者との対面診療が原則と考える意見で一致しました。

また県内科医会では、ホームページを刷新すべく準備してきましたが、明るい色彩を取り入れていよいよオープンいたします。学会や各講演会の案内、主な会議の早期報告など、会員の声を生かしながら、魅力のあるツールになるよう工夫していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



小児科医会長
高 村 一 志

明けましておめでとうございます。昨年もCOVID-19の診療と、小児のコロナ

ワクチンに忙殺された1年でした。昨年秋から生後6ヶ月から4歳までのコロナワクチンが開始されましたが、接種率が向上せずモヤモヤとしながら2023年が始まったことと思います。COVID-19診療のために診療報酬は昨年が最高となった医療機関も多いかと思いますが、受診者数は確実に少なくなっていることは日本小児科医会でも認識しています。COVID-19が終息した後に小児科経営が安定する方策を今のうちから考える必要があると思っています。

2022年10月9日に宮崎県において日本小児科医会生涯教育セミナーを日本小児科医会と共催することができました。日本小児科医会は学術集会に関して総会フォーラムと生涯教育セミナーを二本柱としていますが、今回の生涯教育セミナーは宮崎県で初めての日本小児科医会関連の学術集会となりました。COVID-19の流行が心配されていましたが、10月には感染も比較的落ち着き実に4年ぶりの現地開催ができました。参加者は現地参加143名、オンデマンド受講者236名でしたが、各方面の支援により何とか収支は予算内に収まりました。ご支援いただいた宮崎県医師会、宮崎県医師協同組合、宮崎大学小児科同門会、宮崎市郡医師会、宮崎市郡小児科医会に感謝いたします。

昨年11月に第1回宮崎県かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会が開催されました。発達障害やそれに起因する不登校などは全ての小児科医が対応すべきではないかと考えますが、スタッフの教育、学校・園との関わり方が見えてこないなど、小児科医一人では難しい部分があります。第2回研修会も予定されていますので是非診療に役立ててもらえれば幸いです。



外科医会長
白尾一定

2023年（令和5年）新年、皆様、明けましておめでとう御座います。今年は癸卯年です。新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。

2022年は新執行部となり、副会長は宮本耕次先生と土居浩一先生の体制となりました。引き続き新型コロナウイルス感染症対策に追われた1年で、WebあるいはHybridで講演会を開催しました。

2022年2月28日冬期講演会を完全Web開催しました。一般演題は7題で、「熟練外科医から若手外科医へ」は、南部病院の八尋克三先生でした。合併症時には、何度でも訪室、正直に話して信頼関係を得るなど貴重な助言を頂きました。

2022年8月5日夏期講演会をHybridにて開催しました。一般演題は6題で、「若手奨励賞」は、宮崎大学心臓血管外科の明利里彩先生が受賞されました。「熟練外科医から若手外科医へ」は、市来内科・外科の市来斎先生でした。年齢を感じさせない発表で、大学時代から現在の状況を講演して頂きました。診療も継続され、今もゴルフに汗を流されています。

2022年9月9日に完全Webにて秋期講演会を開催しました。講師は宮崎大学医学部外科学心臓血管外科分野の古川貢之教授でした。宮崎大学ハートチームの活動（TAVI手術）、弁置換治療への新たな取り組み、新型コロナ下の急性大動脈解離手術、小切開弁膜症手術のビデオを供覧されました。特に選んでもらえる外科教室を考える上で①医師また一人の人としても誇りある人生を送る②心理的に安全な場所としての居場所の提供③弱さの共有、協力しやすい環境などを紹介されました。

宮崎県外科医会は、外科医の魅力を発信し、若手外科医を育てることを大きな目標としています。新型コロナウイルス感染症と向き合いながら外科診療が滞りなく行われることを望んでいます。引き続き宮崎県外科医会HPで情報発信していきます。皆様のご多幸をお祈り致します。



整形外科医会長
川越正一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症は、爆発的な増大の時期を含め一定数以上の感染状況を呈していました。政府は基本的な感染対策の維持を指示しながらも、一般の社会生活の制限は緩和する流れとなっています。

学会、研究会は、従来の対面形式の現地開催形式が増えてきました。令和4年5月に神戸での日本整形外科学会学術総会は現地開催、一部オンデマンド配信されました。10月には日本整形外科学会基礎学会が宮崎市で開催され、帖佐悦男先生が会長を務められました。

宮崎県整形外科医会総会は令和4年7月に開催され、新執行部が発足しました。11月5日に行われました宮崎県整形外科医会研修会では、国保審査委員からは税所幸一郎先生が、社保審査委員からは福嶋秀一郎先生が宮崎県における保険審査基準を説明されました。さらに、宮崎大学整形外科の舩元太郎先生に講演して頂きました。

また、令和4年10月には、日本臨床整形外科学会研修会が、平川俊一会長、実行委員の先生方の運営のもと、宮崎市で行われました。

県整形外科医会は、医師会の開催する各種委員会の委員、市民公開講座の講師、宮崎日日新聞生活情報誌『きゅんと』の執筆、『生きる力』を育む健康教育充実事業の講師などの推薦を業務として行っております。偏り無く、広く受け持って頂きたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いします。

県医師会会員の皆様のご多幸をお祈りいたします。



皮膚科医学会長
田 尻 明 彦

新年明けましておめでと
うございます。謹んで新春

のお慶びを申し上げます。

コロナウイルス感染症は4年目に入りますが、少しも改善のきざしはありません。重症化する症例が減少しているのが唯一の救いでしょうか。

コロナを恐れて感染しないように細心の注意を払うことは当然ですが、これほど長期になれば、コロナと共存して医会活動を行うことを考えなければならないと考えています。

昨年的一般市民向けの講演会は感染対策しながら行い、案内状のQRコードを読み込めば視聴できるようにハイブリッド形式としました。参加者は今までで最高の500名を越えており、今年もこの方式で開催しようと考えています。コロナがなければ考えつかない開催方法でしたので、ピンチをチャンスに変えたと言えると思います。

また、毎年制作している市民向けのポスターも作りましたが、制作会議を行った翌日に参加者の1名から「コロナに感染した」と言う報告がありました。幸い、他の参加者からは、感染者はでませんでした。感染していれば宮崎市内の6軒の皮膚科が1週間休診になるところでした。講演会や会議を開催するかどうかの判断は難しい問題ですが、こういうことが実際に起こるのがコロナだと思います。全ては結果論で、感染がなければ講演会や会議は成功、感染があれば開催しなければ良かったということになります。

医会活動をどう運営していくかは、今年も苦労することになりそうです。



産婦人科医学会長
川 越 靖 之

新年明けましておめでと
うございます。謹んで新年

のお慶び申し上げます。

2022年4月に産婦人科医学会長を拝命し、同時に宮崎大学から宮崎県立看護大学に異動となりました。

現在、宮崎県では人工妊娠中絶率の高さ、出生数の減少、梅毒の蔓延など多くの解決すべき難題を抱えております。その中で2024年度からは医師の“働き方改革”が始まります。24時間の対応が要求される分娩取り扱い施設にとっては当然そのハードルは高く、宿日直許可が得られるよう医会を中心に強力に推し進めて参ります。また今年度から約9年ぶりにHPVワクチンの再勧奨が始まり周知活動を行っています。今のところ小児科、内科の先生方のご協力もあり、昨年度と比較し約2.5倍の接種数となっております。特に子宮頸がんは当県に多くしかも30-40代の若年世代を中心に発生しており、子宮がん検診を含め更なる普及のため鋭意努力して参ります。

昨年12月には初の試みである“性教育シンポジウム”を開催いたしました。性教育は予期せぬ妊娠の予防だけではなく、将来の妊娠、育児に関するプレコンセプションとして学生に情報提供できる貴重な機会です。今後は行政および宮崎県助産師会等の関連諸機関と連携し、小回りの利く医会として各種の説明会、講演会等を各地で開催し宮崎県全体の女性の健康の底上げを目指します。本年も何卒よろしく願い申し上げます。



泌尿器科医会長
福田 聡一郎

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2022年も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった1年でありました。ウイルスが変異を繰り返す中で、我々もこのウイルスと上手に共存していくニューノーマルな生活を創造し、日常を取り戻す時期が来るものと信じています。

当会は総勢84人の小世帯ではありますが、昨年で第238回（隔月開催）を迎えた泌尿器科医会では全国トップレベルの講師をお招きし、皆で研鑽を積んでおります。その中、宮崎大学で長期に渡り活躍された寺田直樹先生が福井大学の教授にご栄転されたのは医会にとって大変うれしいニュースでした。賀本敏行教授が宮崎大学に赴任した当初にMiu-Net（宮崎県泌尿器科連携）を立ち上げ、病診連携の一環として大規模コホート研究が行われています。2014年からは潤和会記念病院の月野浩昌先生が論文化されました「BPH大規模コホート研究」が実施され、県内での前立腺肥大症の疫学が明らかになりました。2018年からは上述しました寺田直樹先生が中心となり「MUCD(宮崎泌尿器癌データベース)構築 宮崎県における泌尿器科癌発症率と予後に関するコホート研究」が走り始め、既に、4000例程の登録をいただいています。この研究から得られる知見が泌尿器癌の早期発見や治療成績の向上につながり県民の皆様の幸福に繋がることを期待しています。

最後になりましたが、泌尿器科疾患は種々の合併症を持つ高齢者に多く、他科の先生方の御協力なしでは治療はできません。多々ご迷惑おかけしますことと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

会員の皆様にとって、今年も卯のごとく、飛躍する1年になることを祈念しております。



眼科医会長
中村 彰伸

新年あけましておめでとうございます。宮崎県眼科医会では宮崎中央眼科にて

理事会を奇数月に開催していますが、新型コロナウイルス感染流行状況によって、完全リモート開催であったりハイブリッド開催であったりとその都度対応しました。学術講習会も講師の都合や感染状況でほとんどハイブリッド開催で出席者同志の情報交換無しです。全国学会や日本眼科医会主催の会議も完全WEB、あるいはハイブリッド開催であったため、学会や会議に参加したという実感のない1年でした。県内における眼科関連トピックスとしては市町村で実施している3歳児健診に屈折検査が導入され、実施率70%超となったことが挙げられます。日本眼科医会の働きかけで、自治体の屈折検査器導入に国の助成金が支給されたことで一気に検査機器が普及したことによります。幼児の屈折異常の早期発見は可能になると期待されますが早期治療に繋げられるか今後検証が必要です。またACジャパンの緑内障TVコマーシャルを目にされたことがあるかと思いますが、宮崎県眼科医会も数年前から実施している世界緑内障週間のグリーンライトアップ運動とともに、緑内障の早期発見、早期治療啓発プログラムの一環として日本眼科医会が企画しました。来年は網膜疾患について啓発活動を展開していく予定とのことで、県眼科医会も日眼医と歩調を合わせ県民の目の健康、QOVの維持のため活動していきます。宮崎県医師会、各郡市医師会、各分科会の先生方におかれましては、私共の活動にご理解を賜り、今まで以上にご支援いただけますようお願い致します。

末筆ですがこの1年が皆様にとって良い年となりますようお祈り申し上げます。



耳鼻咽喉科医会長
井 手 稔

新年あけましておめでと
うございます。謹んで初春
のお慶びを申し上げます。

令和4年10月1日に宮崎大学医学部感覚医学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野教授として高橋邦行先生が赴任されました。宮崎医科大学耳鼻咽喉科学教室の初代教授は森満保先生で昭和52年に九州大学から赴任しました。退任後、宮崎医科大学学長とされています。2代目教授の小宗静男先生は九州大学卒で森満先生と共に宮崎医科大学にいられています。退任後小宗先生は九州大学耳鼻咽喉科教授にいられています。3代目教授の東野哲也先生は宮崎医大第2回卒業生です。いずれの教授も耳鼻咽喉・頭頸部外科の手術が上手く、特に耳科手術においては高名な先生方です。4代目教授とされた高橋邦行先生は新潟大学耳鼻咽喉科の准教授から宮崎の地にいられました。新潟大学耳鼻咽喉科は明治43年の開講以来、歴代の教授が中耳手術を得意とする伝統があり、高橋先生は耳科手術やめまい疾患にも造詣の深い先生です。高橋先生は宮崎県の耳鼻咽喉科医の育成、宮崎県の耳鼻咽喉科医のレベルアップ、宮崎県内外の耳鼻咽喉頭頸部疾患患者の治療、さらには日本世界の耳鼻咽喉頭頸部外科学の発展に貢献されていかれると考えます。

最後に、宮崎県医師会の先生方には、本年も宜しくご支援、ご指導をお願い致します。そして、共に新型コロナウイルス感染症を克服致しましょう。



精神科医会長
吉 田 建 世

明けましておめでと
うございます。謹んで新春のお
慶びを申し上げます。

コロナ禍の中、3回目のお正月を迎えます。各先生方には治療現場で大変ご苦勞されておられると思いますが、感染対策にも慣れてきたように感じます。オミクロン株も変異を繰り返しておりますが、まだ重症化傾向が強くないのが幸いです。今年は、一般科で気軽に使える治療薬が出てくることを期待しています。

精神科において、患者様の精神状態を把握するには、顔を見ながらの対面診療が何よりも大切ですが、感染対策を講じながらの診察も普通になってきました。ただ、施設入所の認知症の患者さんなどは、外出が制限されて診察ができない事例も多く、今後ITなどを活用した診療が必要になるのではと感じております。

今年4月には、精神保健福祉法が改正される予定です。トピックスとしては、精神科病院に虐待通報義務が課せられることになりそうです。昨年は病院や介護事業所での事件等もあり、人権擁護の観点から大変重要なことであると考えます。しかしながら、精神科においては、医療従事者が患者様の被害妄想の対象になることは珍しいことではなく、それが事実であるのか、十分に検証するための院内委員会等の組織が必要となってきます。医療従事者に対し不都合のない法改正である事を望んでおります。

最後になりますが、会員の先生方の、本年のご多幸をご祈念致しまして、年頭のご挨拶にさせていただきます。



放射線科医学会長
杜 若 陽 祐

新年、あけましておめでとうございます。

現在(2022年11月末)、コロナ第8波の発生が予想されていますが、昨年と違うのは社会生活での活動制限が比較的緩くなっていることです。とは言うものの医療関係者は簡単に制限を緩めることはできません。私の勤務する病院ではコロナ警報レベル2の段階(0～4段階)ですが、会食や県外移動には制約があります。コロナに罹患し職場に与える影響を考えると、旅行などの自由な行動ができないのが現状です。

放射線科医学会の会合も3年間中止されていますが、コロナがやや落ち着いてきた昨年11月には大学放射線科の同門会が3年ぶりに開催されました。一つのテーブルに一人が座るなど、コロナ対策を行っての集まりでしたが、新入医局員や同門の先生方と直接会って話ができただことは嬉しい出来事でした。個人的にもコロナ前に行っていた馴染みの店へ3年ぶりに行きましたが、お店が持ちこたえてくれていて安心したところです。

コロナにより対応を迫られたWEBでの学会や研究会の開催も定着してきているようです。放射線学会総会もコロナ発生の年はWEBのみの開催でしたが、最近はハイブリッド開催(現地とWEB)となっています。特に海外での学会はコロナ前にもなかなか行けませんでした。現在はWEBのおかげで参加できています。WEB学会に慣れてくるとなかなか良いところも多く、このまま続けてほしいものです。

今年もコロナに加え、ロシアのウクライナ侵攻、物価高、環境問題など大きな課題をかかえた年になりそうです。放射線科医学会としては早く元の活動に戻り、会としての役割を果たして行こうと考えています。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。



東洋医学会長
川 越 宏 文

明けましておめでとうございます。

宮崎県東洋医学会より新年の挨拶を申し上げます。

いつも東洋医学会をご支援いただき有り難うございます。また、会の運営に対して各委員会委員への参加、保険審査等の労務をお願いしている先生にはさらに大変感謝申し上げます。

昨年、当医学会の会計として長きに渡りお支えいただいた済陽英道先生がご逝去されました。先生の貢献に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。また、その会計の引き継ぎと当医学会会則の制定の労をおとりいただいた大森内科院長大森史彦先生に深謝します。

さて、昨年も新型コロナ対応に終始した1年となってしまいました。日常診療に加えてワクチン接種業務、感染患者対応で振り回されました。それに加えて、コロナ罹患後に継続する疲労感やブレインフォグ等の治療に関し既に漢方の有用性が報告されており、今後はこの領域での当医学会の役割は増すことになるかと覚悟しています。医療の世界でも学会・講演会はウィズコロナの時代を迎え、オンライン開催が増えました。開催地より遠い医師にとって移動の時間とコスト節約はありがたいことです。宮崎県東洋医学会も年度末の総会やそれ以外の講演会をオンラインと会場のハイブリッド方式での総会を企画しています。今年は国際疾病分類のICD11に「東アジアの伝統医学」という章が追加され、ついに漢方医学は世界標準の医療に格上げされます。多くの先生におかれましても、当たり前の医療として漢方に取り組みされますことを願ひします。



透析医会長
藤元 昭一

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は会員の先生方には色々とお世話になり、厚くお礼申し上げます。

2022年も引き続き、コロナ問題が当医会の医療現場でも緊張感を持って臨むべき課題となりました。一般のコロナ感染と同様、透析患者においても2022年早々の第6波、4月よりの第7波に見舞われましたが、国のルールに合わせて全例入院対応を基幹病院などに行っていました。どの医療機関もスタッフの感染者増、入院受入れの縮小などもあり、大変であったようです。県からのご依頼もあり、6月より患者のコロナの症状に応じて、かかりつけ医療機関での外来透析をお願いすることになりました。そのこともあり、7月からコロナ患者数が急激に増加した第8波も、各透析医療機関のご尽力

により乗り越えることができたと思ひ、皆様にも感謝いたします。まだまだ安心できない状況が続きますが、今後も他医会様のご協力も仰ぎながら、コロナ問題を乗り越えていければと思っています。

コロナ禍で各種の透析関連の講演会・研究会も未だ完全WEB開催あるいはハイブリッド開催（一部現地開催+WEB開催）が続いています。Withコロナ時代（日常生活への緩やかな回復）に向かっていると思ひますが、オンライン形式では得られないFace to Faceのオンサイト開催形式に早くなることができればと思っています。そのためにも、医療現場での皆様のご尽力と医師会や行政の方々のコロナ対策推進の継続をお願いしたいと思います。

本年も皆様の当医会へのご指導とご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

謹んで年頭の

ご挨拶を申し上げます

”	監	”	”	”	理	専務理事	”	副理事長	理事長
”	事	”	”	”	事	市	小	吉	河
宮	桑	吉	大	赤	中	来	牧	田	野
田	原	村	塚	須	山	能		建	雅
純	正	雄	康	郁				世	行
一	知	樹	二朗	太郎	健	成	斎		

事務職員一同

宮崎県医師協同組合

年 頭 の ご 挨拶



宮 崎 県 知 事
河 野 俊 嗣

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

宮崎県医師会の皆様には、日頃から県政の推進につきまして温かい御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、医療や感染症対策の最前線で昼夜を分かたず業務に従事いただいている皆様に深く敬意を表します。

長引くコロナ禍や原油価格・物価高騰などにより、本県は「百年に一度」とも言うべき難局に直面しており、県民生活や地域経済は大きな影響を受けております。

このため、感染拡大防止のため医療提供体制の確保やワクチン接種を進めるとともに、きめ細かな施策を機動的かつ継続的に実施し、全力で宮崎の再生に取り組んでまいります。

また、県では、令和5年度の予算編成に当たり、「コロナ禍・物価高騰等からの再生・復興」

「中山間地域の暮らしの維持・活性化」「経済・産業成長の促進」「次世代育成，若者・女性活躍の推進」「安全・安心な県土づくりの推進」という5つの視点から施策を構築することとしております。

特に、長期にわたり人口減少が進行する中、市町村等と連携しながら、産業や福祉・医療を支える人材の確保など、県民が将来にわたり住み慣れた場所で安心して暮らせる環境づくりに取り組んでまいります。

今後とも、県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、安心と希望あふれる宮崎県づくりに全力で取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

謹んで年頭の

ご挨拶を申し上げます

宮崎県医師国民健康保険組合

事務職員一同

監	事	理	常務理事	副理事長	理事長
”	”	”	”	”	”
山	棚	河	北	上	玉
路	田	原	村	山	置
	敏	勝		貴	
	健	文	博	洋	子
					昇
					一
					信
					究
					教
					郎
					喜
					八
					郎

年 頭 の ご 挨拶



宮 崎 大 学 長
鮫 島 浩

宮崎県医師会の皆様、新年あけましておめでとうございます。穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、2003年10月に旧宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、今年は20年の節目を迎えます。この間、「世界を視野に 地域から始めよう」のスローガンの下、宮崎大学は地域の知の拠点として発展してきました。また、医学部は来年2024年に創立50周年を迎えます。そこで今回は、医療に関する近未来の「初夢」を順不同で列挙いたします（全くの私見ですでお許ください）。

例えば、「少子高齢化に対応する医療がさらに推進される。Web診療の活性化により都市部と地方との連携が強化され、感染対策や過疎地対策などにも応用される。外科系ではロボッ

ト支援・コンピューター支援手術が更に発展する。内科系は医学全般の基本として統合されたコア部門を作り、その部門と全診療科間連携が推進される。基礎系では国内・国際連携によって医学研究を飛躍的に発展させる。医療情報の集約、有効活用で、データサイエンスに基づく研究、教育、診療が進む…」等々。

どのような将来を迎えても、患者-医師間の信頼こそが医療の基本である以上、十分な知識と技能を持ち、かつ沈着な姿勢と平静の心を持つ、人間性豊かな医師を育成することがわれわれの務めです。働き方改革の中でも、医療に精一杯取り組もうとする熱い心を持った若手医師が宮崎の将来の医療を引っ張るであろうと期待しています。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

謹んで年頭の

ご挨拶を申し上げます

理事長 獅子目 賢一郎

理事長代理兼理事 飯田 正幸

理事 相澤 潔

監事 中村 啓子

” 竹内 茂

常務理事 杉田 恵美子

事務職員一同

宮崎県病院企業年金基金



衆議院議員（1区）
渡 辺 創

謹んで年頭の御祝福を申し上げます。今年も日向灘

から昇る初日が宮崎の大地を照らしました。改めて私たちの故郷・宮崎が悠久の歴史の中で、太陽の恵みとともに歩んできた尊い地であることを実感します。

新型コロナウイルス感染症による社会の混迷が続いています。ただ、社会を覆った戸惑いと不安は、少しずつの知見と社会全体での経験を重ねる中で、この災禍と向き合い、いかにして停滞から脱するかという基調に変わってきました。この間、大きな犠牲を払いながら、新型コロナとの闘いの先頭に立ち、国民の命と暮らしを守るために最前線で奮闘を続けて下さっている貴会の皆様に心から感謝と敬意を表します。

常に局面が変わり続ける新型コロナ禍です。昨年は大きな流行「第7波」もありました。また今冬はインフルエンザとの同時流行も懸念され、医療現場の負担は高まるばかりです。社会の要請として、医療界の皆様は無理な負担をお願いしている以上、そのバックアップをきちんと構築することが、政治の使命であると改めて肝に銘じるところです。

また、皆様の取り組みは、感染症との闘いとどまりません。働き方改革や地域医療を取り巻く環境の変化に加え、マイナンバーカードなどデジタル化への対応にもご負担をおかけしております。どうぞ今後とも県民の「安心」のためにご尽力賜りますようお願い申し上げます。

末筆となりましたが、貴会のますますのご繁栄と、会員の皆様のご多幸を心からお祈りし、新春のご挨拶と致します。



衆議院議員（2区）
江 藤 拓

謹んで新春のお慶びを申し上げます。宮崎県医師会

の先生方におかれましては、平素より格別の御支援、御指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との闘いが長期化する中、先生方には、感染症対応や通常医療の維持に御尽力いただいていることに心より感謝申し上げます。我が国の新型コロナ対策は、「ウィズコロナ」に向けた段階へと移行しつつありますが、こうした取組を進めていくためには、ワクチン接種の促進や治療薬の確保、医療提供体制の整備等も必要となりますので、引き続き、先生方のお力添えを賜りたく存じます。

昨年から続く物価高騰により、医療機関の経営も大きな影響を受けていると承知しております。国は、これまでも、医療機関を対象に、交付金による物価高騰対策支援を講じてきたところでありますが、医療機関の経営の安定化に向けて、今後も必要な支援が適切に行われるよう取り組んでまいります。

また、少子高齢化が進む中で、全世代対応型の持続的な社会保障制度の構築が求められております。私といたしましても、医療提供体制や医療保険制度の改革に向けた議論の動向を注視しながら、先生方に御活躍いただける環境をつくり、安全・安心な医療提供体制を確保してまいります。

結びに、宮崎県医師会の今後益々の御発展と皆様方の御健勝・御多幸を祈念申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。



衆議院議員（3区）

古川 禎久

新年明けましておめで
とうございます。宮崎県医師

会の先生方におかれましては、健やかに新年を
迎えられたことと心からお慶び申し上げます。
また、日頃より県民の健康管理のため献身的に
ご尽力賜り衷心より敬意と謝意を表します。

我が国で新型コロナウイルスの感染が確認されてから
丸3年が経過しようとしています。この間、先
生方はじめ医療関係の皆様には、検査、診療、
ワクチン接種など、各般にわたるご対応を続け
ていただいておりますことに、重ねて心より感
謝申し上げます。

昨年、これまでの新型コロナ対応を踏ま
え、感染症の発生・まん延時における保健・医
療提供体制の整備等を行う感染症法の改正を行
いました。本年は、感染症対応の総合調整を行
う内閣感染症危機管理統括庁（仮称）を創設す
るための法整備を行うこととしています。国民
の命と健康を守るためには、こうした感染症の
取り組みを進めるとともに、日頃より各地域で
必要とされる医療がしっかりと提供される体制
を整備することが大変重要であると考えます。

また、電子処方箋、オンライン資格確認をは
じめ医療DXの取り組みが推進されるなど、医
療を取り巻く環境も変化しておりますが、県民
の皆様が安心してより良い医療を受けられるよ
う、医療機関の経営の安定化など、しっかりと
した医療基盤を築いていくことが何より大切で
あると認識しております。今後共、宮崎県の医
療環境充実のため、全力で取り組んで参ります。

終わりに、宮崎県医師会の更なるご発展と先
生方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、
新年のご挨拶といたします。



衆議院議員（比例）

武井 俊輔

新年、明けましておめで
とうございます。宮崎県医
師会の皆様方には、平素よ

りあたたかいご支援を賜り、厚く御礼申し上げ
ます。

特に3年にもわたるコロナ禍におきまして
は、医療ひっ迫の中、県民の命と健康を守る信
念のもとワクチン接種体制充実へ献身的な医療
活動を展開され、感染拡大防止に向け責務を遂
行してこられました。皆様のご尽力に心から感
謝申し上げます。

我が国は、年間出生者数が80万人を下回り
急速な高齢化社会を迎えつつあります。それに
伴い、社会保障費の膨張・医療保険財政の悪化
などが大きな課題です。このような将来の医師
減少にもつながりかねない人口減少や様々な課
題の多い中、県医師会におかれましては、生活
習慣病対策のかかりつけ医受診体制のシステム
構築など、地域医療充実に従来お力を戴いてお
ります。

また、大学や行政の協力のもと、県内での勤
務を前提とした医学部の地域卒の人数を拡充さ
れるなど、医師偏在問題にも積極的な取り組み
をされています。行政、医師会、大学の一体的
な医師確保への取り組みは画期的です。関係機
関の連携は、地域の安全・安心意識を醸成し、
豊かな生活環境の形成にもつながりました。皆
様方の活動は地域社会にとって大変心強いもの
となっています。地域医療の充実・発展に向
け、ますますのご尽力を期待申し上げます。

私も国政の場におきまして、医療機関の経営
の安定化、かかりつけ医の普及・推進、医療現
場における労働環境の改善など、諸課題解決に
向け一段の努力を重ねてまいります。

結びに、貴医師会のご発展と会員の皆様のご
多幸を祈念し、新年のご挨拶といたします。



衆議院議員（比例）

長 友 慎 治

謹んで新春をお祝い申し上げます。日本がコロナ禍

に直面し丸3年となりました。この間、宮崎県医師会をはじめ医療関係者の皆様には、我が県における感染拡大防止に最大限ご尽力、ご奮闘いただいておりますことに心からの敬意を表します。

急激な円安の進行やロシアのウクライナ侵攻等に伴う物価高騰の影響は、医療の現場にも及んでいます。政府は経済安全保障の観点から、特定重要物資の指定、安定供給確保の取り組み方針をまとめました。医療現場（特に手術の実施）における感染症予防・治療のためには抗菌薬の使用が不可欠です。供給が途絶すると、感染症の治療や必要な手術の実施ができなくなるなど、国民の生存に直接的かつ重大な影響を及ぼします。中でも、注射用抗菌薬に多く用いられるβラクタム系抗菌薬は、その原材料のほぼ100%を海外に依存しています。2019年に製造上のトラブルから原薬の輸入が途絶した際には、一部の医療機関において手術を実際に延期したなどの深刻な事例も発生しました。このように早急に安定供給確保に努めなければならない抗菌性物質製剤（抗菌薬）は、特定重要物資に指定し、その原材料及び原薬の製造設備導入、また備蓄体制の整備のための予算を553億円計上しています。製造設備の整備により国産原薬を提供可能とすることに加え、海外からの原薬の供給が途絶した場合も、医療現場に切れ目なく安定供給する体制を整備して参ります。油断できない状況がまだまだ続きますが、医師会の皆様と一緒に、国民の生命、県民の生命を守ることに尽力する所存です。本年もご指導の程よろしくお願い申し上げます。



参議院議員

松 下 新 平

謹んで新年のお慶びを申し上げます。宮崎県医師会

の皆様には日頃からの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、宮崎県の地域医療のために日々ご尽力いただいていることに、心からのお礼を申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、医療関係者の皆様におかれましては、感染のリスクがある中で、新型コロナに係る検査・ワクチン接種の体制確保、一般医療と両立した医療提供体制の構築を始めとして、多大なるご尽力をいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

国としては、新型コロナウイルスへの対応と社会経済活動の両立をより強固なものとする「Withコロナ」に向け、医療提供体制の強化・重点化に全力を挙げてまいります。

団塊の世代の方々々が75歳を迎え始め、2025年までに毎年約200万人が75歳以上となると見込まれている中、持続可能な医療サービスの提供に向けて、皆様にはますます重要な役割が期待されております。

長らく我が国の医療の課題となっている医師の地域的偏在は、人口10万人あたりの医師数をベースとした医師偏在指標で見ると、宮崎県の医師数は210.4人と、全国平均の239.8人を下回っており、県が直面する大きな課題の一つでもあります。

医師の働き方改革を始めとして、引き続き、地域の実情に応じた医療提供体制の確保を進めるための取組を行ってまいります。

最後に宮崎県医師会の今後の更なる発展と、会員の皆様のご健勝を祈念して、新年のご挨拶といたします。



参議院議員
長 峯 誠

あけましておめでとうございます。宮崎県医師会の先生方、ご家族の皆様におかれましては、輝かしい令和5年のお正月をつつがなくお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行が始まって3年目となりましたが、我が国では、医師会の先生方をはじめとした医療関係者の皆様方の献身的なご尽力によりまして、国民の命と健康を守りながら社会経済活動を止めることなく、乗り切ることができました。医療、福祉の現場を支えていただいている皆様に、改めて厚く御礼を申し上げます。

今年もインフルエンザとの同時流行に警戒が必要です。オミクロン株対応ワクチンの接種を推進し、医療体制の確保に万全を期すと共に、雇用の維持、中小企業の経営支援、農林水産業の支援、観光産業の復活等に向けて全力で取り組んで参ります。

昨年8月には、経済産業大臣政務官兼内閣府大臣政務官に就任させていただきました。これもひとえに皆様方の御支援の賜物であり、衷心より深く感謝申し上げます。

我が国の経済は、ロシアによるウクライナ侵略と円安に伴うエネルギー価格や物価の高騰、世界の景気後退懸念など、大きなリスクに直面しています。食料品やガソリンの値上りを抑える対策に加え、家計、企業の電気料金の負担を直接的に緩和する思い切った対策を講じて参ります。

地元の皆様方のご意見によく耳を傾け、政務官の職責をしっかりと果たすと共に、国家・国民のため、ふるさとのために誠心誠意努力して参ります。

結びに、宮崎県医師会のますますのご発展と、今年一年のご多幸を祈念し、新年のご挨拶といたします。



厚生労働副大臣・参議院議員
羽生田 俊

新年あけましておめでとうございます。

平素よりの皆様方のお支えにより、参議院議員として10年目の新年を迎えることができました。

また昨年8月12日に厚生労働副大臣を拝命し、2024年4月からはじまる医師の働き方改革を含む労働・福祉・年金が担当であります。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症との戦いが続く中、感染症法改正を議論してまいりましたが、本年は働き方改革と何より診療報酬改定を含むトリプル改定（医療・介護・福祉）の議論が本格化して参ります。

一方的な財政論に押されるのではなく、国民ひいては患者に寄り添った医療・介護福祉の提供が過不足なく行えることは必須であり、真に求められる提供体制の確立が必要です。財政論だけで語ることはできない、受ける側と提供する側の信頼関係と、人と人が支え合う、公助・供助・自助によって成立するべきものであります。

是非とも皆様のお声を聞かせ頂き、この国の医療介護現場の実状に合った、安心安全に暮らせる医療介護環境を担保し、日本が迎える高齢化社会が悲惨な未来ではなく、健康で人生を謳歌し寿命を全うできる社会保障を構築し、この国に生まれて良かったと思える社会を築かねばなりません。

私も、国政に送って頂いた責任と使命を果たすべく、しっかりと努力し、取り組んで参ることをお誓い申し上げ、新年の決意とさせていただきます。

本年もご指導・ご鞭撻を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



参議院議員

自 見 はなこ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。河野雅行会長をはじめ、宮崎県医師会の先生方におかれましては、日頃より地域医療に貢献され、昨年末からのコロナウイルス第8波への対応など、国民の健康を守るため最前線を担ってくださり、また、旧年中より格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。とりわけ、選挙期間中に宮崎県を訪れた際にも熱烈なご支援をいただき、大変勇気づけられました。

8月には、第二次岸田改造内閣において内閣府大臣政務官を拝命し、幅広い分野を担当させていただくことができるのは、ひとえに皆様のご支援の賜物と、感謝の念に堪えません。

そのほか、昨年は4月にHPVワクチンの積極的勧奨再開が実現しました。9価ワクチン定期接種化も来年4月から始まります。男性への定期接種も実現に向け精進してまいります。6月には「こども家庭庁設置法」と「こども基本法」が成立するなど、これまでの取り組みに大きな進展がありました。「こども家庭庁」は、来年4月の発足に向けて担当政務官として準備を進めております。行政の縦割りを解消し、こ

ども達を真ん中に置いた社会を作り、全世代型社会保障の実現に向けしっかりと魂を込めてまいります。

物価高騰対策も急務です。昨秋から物価高騰の波が押し寄せ、医療・介護・福祉にも大きな影響が出ています。地方創生臨時交付金の活用などの対策を行ってまいりましたが、まだまだ足りているとは思えません。先生方をお支えすべく、今年も全力で頑張ります。

本年4月からは、オンライン資格確認の導入が保険医療機関・保険薬局に対し原則として義務づけられることとなりますが、現場のお声をよく聞き、日本医師会と二人三脚で混乱が起きないように努めて参ります。

そのほか、かかりつけ医機能が発揮される制度整備の議論など社会保障を取り巻く課題は山積しておりますが、安心の医療・介護・福祉を次世代に伝えるため、全力で頑張ります。宮崎県医師連盟の先生方におかれましては、本年も変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。結びに、新年が先生方にとって幸多き一年となることを祈念申し上げて、年頭のご挨拶といたします。

新春随想

その1

新春随想を募集いたしましたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございます。1, 2月号にわけて掲載させていただきます。

奇妙な縁

宮崎市 たにぐちレディースクリニック たに ぐち じ ろう 谷 口 二 郎

大淀川の天満橋のたもとにシャトレゼという店がある。お菓子が中心だがワイン、アイスクリーム、ケーキ、おせんべい何でもありである。すべて添加物などを使わず自然にとれたものを使っている。売り物は70%カロリーオフのアイスクリームである。1個ぺろりと食べてもカロリーは78キロカロリーに過ぎない。しかも美味しい。私はいつも10個くらいまとめて買って冷凍庫に入れてある。昼食後食べるのが楽しみなのである。

ケーキなども種類豊富で、先日孫のためにベースケーキを買ったらとても美味しく、評判が良かったので鼻高々だった。プリンなども100円なのにこれで100円？というくらいの美味しさである。人気があるのでいつも駐車場は一杯で、中々車を停めることができない。だからいつも自転車で行くことにしている。夏は特にアイスが人気なのでとても店内も混んでいる。

先日買いに行った。カゴ一杯入るくらい買いレジに並んだ。いつものように会計を済ませお金を払おうとすると「谷口先生、お世話になりました」と店員の方が言われた。何かお世話な

んかしたことがあるのだろうかと思っていると、「子どもも今年33歳になります。先生には私の子ども2人取り上げてもらったんですよ。そうだったのか。もう30年以上も前のことですっかり忘れていたが、相手はマスク越しでも私のことがすぐ分かったらしい。

よくいろいろな人とすれ違ったり買物をしていると、私が赤ちゃんを取り上げたお母さんに会う。もう1万人以上の赤ちゃんを取り上げたので、その一人ひとは覚えてはいないのだが、そういう人に会うと大変な思いをしてお産をしたのだろうかと思うと同時に自分の頑張りを褒めなくなる。

シャトレゼがある場所には、昭和60年(1985年)から平成12年(2000年)まで谷口産婦人科医院があった。ところが天満橋がかかるということになり、今の上野町のたにぐちレディースクリニックへ移転したのである。当時はもの凄く忙しく、1日6人も生まれたこともあり、寝る暇もなかったくらいだった。年間600人もの赤ちゃんたちが産声を上げたのだ。

考えてみればこのレジがある所が分娩室のあった所なのである。何となく不思議な縁。その人の子どもたちがここで産声をあげたのだ。これだから産婦人科医はやめられない。つくづく今まで頑張ってきたかいがあったと思った一日

だった。

ちなみに令和4年（2022年）8月20日で開業
37周年を迎えました。



COVID-19 今後の動向

日南市 河野医院 か の しゅう いち
河 野 秀 一

新春随想の寄稿依頼が10月中旬に届きました。10/22現在宮崎県はCOVID-19が収束傾向にあります。他の都道府県は新規感染者数が先週と直近1週間比率が1を超え、更に10/11から海外からの訪問客条件の緩和と4回目のコロナワクチン接種率低下（南那珂地域でさえ60歳以上で20%前後の低下）もあり、今後増加すると思われます。

新型コロナウイルスの種類でも今回国内で第7波での中心となったBA.5以外に米国でのBQ.1系統、シンガポールで10月になり急峻に増加しているXBB.1の動き以外に、ほぼ3年間流行のなかったインフルエンザについても抗体量低下も懸念されており感染拡大が気になります（当地では9月に県南高校で50名近くの集団感染があり、その後の集団感染は報告されていないようです）。

厚労省が10/13に新型コロナ、インフルエンザ同時流行時のタスクフォースを立ち上げ、小学生以下の子ども、妊婦、基礎疾患がある方、高齢者以外は新型コロナ検査キット（研究用除き厚労省認可）での自己検査で判断とされており現場含め混乱が懸念されます。

さて、2023年1月の状況はどうなってますでしょうか？

会員の皆様もどうかご自愛ください。

分娩数10,000例達成

高鍋町 河野産科婦人科医院 かほのまちひさ
河野通久

平成2年1月、最初の分娩を取り上げて以来、分娩数が令和4年9月に10,000例に達した。年平均306例、経膈分娩8,873例（普通分娩4,294例、無痛分娩4,579例）、帝切1,127例（緊急499例、予定628例）であった。

「学生さん、あなたが産婦人科医になったらお産のあの痛みをどうにかしてくれないかしら」。臨床実習で担当した患者さんから言われた言葉である。開業したら無痛分娩をやると決意した。田舎での開業なので2次周産期センターまで遠い。その弱点を補うのに緊急時の帝切はできるだけうちでやると決意した。この2つは開院以来一貫してやってきたことである。

無痛分娩は、「和痛」と評されるのが嫌で、「完璧な無痛」になるよう症例ごとに検討し直し、それを次の症例に生かすことを長年続け無痛の麻酔技術を磨いてきた。

大きな逆風が3つあった。平成16年福島県で、前回帝切、全前置胎盤の妊婦を帝王切開して大量出血し母体が死亡、執刀した産科医が逮捕された県立大野病院事件は、「結果が悪かったら産科医は犯罪者扱いだ」と思わせ、分娩に対する緊張感が一段と高まった。平成18年に当院で羊水塞栓症を経験した。「分娩は何が起るか分からない」ことをあらためて思い知らされ、分娩に臨む緊張感は更に高まった。平成23年から29年にかけて、いずれも関西であったが無痛分娩で母体死亡5件を含む7件の事故があった。その後無痛分娩に対する規制が厳し

くなり、無痛操作に対しての緊張感が一層高まった。しかし、「無痛操作後は痛みがうそのようになくなりいきむことに集中でき、赤ちゃんが産まれる瞬間を感じとれて感動しました」などの言葉は私を勇気づけてくれた。

そんな中で10,000例達成は私にとって最大の目標であった。分娩は陣痛発来で入院されたときから緊張が始まり、終了して解放される。無痛分娩をやっていると夜は半徹夜になる。しかも分娩は夜が多い。開業は医師免許証があれば誰でもできるが、実績は開業への思い入れがいかにかを強く示す一つの指標である。10,000例を達成できて、今清々しい気持ちである。産科開業は2・3次施設がなければやっていけない。高次施設の先生方には感謝しかない。また予定帝切の応援に来てくださった宮崎大学産婦人科、麻酔科の先生方には大変お世話になった。深謝です。最後に休日、夜間の緊急帝切に嫌な顔をせず出て来てくれた当院のスタッフに感謝したい。

ポールネイロンはなぜ死んだのか

日南市 北村胃腸科眼科 きたむらけいこ
北村恵子

5月初旬、車で移動中に通りがかりの花屋で目に止めた一株のバラに一目ぼれ。誕プレと称して、夫に買って来てもらったポールネイロンだ。屋上ガーデンできたてのころ、その花屋で求めたストロベリーアイスに続いて2本目だ。

花卉はショッキングピンク調の八重咲きで、芳香があり、葉色は若緑色のオールドローズである（和名は“陽台の夢”）。さっそく石積み調の大きなプランターに植え替えた。大輪の花が咲き乱れ、すっかりお気に入りになった。ところが盛夏を過ぎたあたりから株立ちが1つ、また1つと根元から枯れ始め、あれよあれよとすべての枝が枯れてしまった。今までこれほど早く枯れてしまったことがなく、理由が分からない。ホームセンターで偶然見つけたオレンジのグラデーションが綺麗なミニバラを、同じプランターと一緒に植えたのだが、これも一足先に枯れていた。夫は、夏場に水をやりすぎて根腐れを起こして枯れたのだろうと推測した。果たしてなぜ??

季節は移ろい、秋晴れのその日、朝から二人で毎年恒例の植木市に出かけ、この一年で枯れたバラの欠落を埋めるため、数株のバラの苗木を買ってきた。そしてついに真相が暴かれるときが来た。ポールネイロンの大株を引っこ抜くと、力も要らずポコッと抜けた。そして太い根の真ん中に3～4cmほどの幼虫が居据わっていた。土壌を掘り返すと同じ幼虫がコロコロ10匹ほども出てきた。まさしく、現行犯逮捕だ。

最近の研究によれば、植物同士は、ニューロンのネットワークと同じように、グルタミン酸や化学物質を放出してコミュニケーションを取るそうで、虫に食べられたりすると近くにある植物が毒物を産生したり、危険を伝えたりするそうだ。隣のミニバラが虫にやられたとき、私がメッセージを解していたら、植え替えることにより、命を助けられただろうか。

私のささやかなSDGs

宮崎市 名越内科 名越敏郎

もう10年近く前の話です。今も通っているダイビングショップが企画したダイビングツアーでマレーシアの島に行く機会がありました。参加者は社会人と卒業旅行を兼ねた大学生が半々の総勢6名でした。大学生はこつこつとバイトで貯めたお金で参加しており、1円でも無駄にできないとお土産も電卓片手に値段交渉する姿はとても微笑ましく、レート計算が面倒くさくてどんぶり勘定となっていた私にとってはとても新鮮でした。その中にホテルやレストランの食事で食器を洗ったかのようにきれいに残さず食べる男子学生がいました。聞くと実家が米農家を営んでおり、食べ物を作る苦勞がわかるので、残すとただ捨てられる運命だからとのことでした。このときは食欲に任せてとりあえず取って食べられるかは後で考えるとしていた私は恥ずかしい気持ちになりました。

このツアー以降、私も少なくともビュッフェ（バイキング）スタイルの朝食や立食では、食べられそうな量を吟味して、残さない努力をしています。それで少なければもう一度取りに行けばよいと。今はビュッフェに並んだ食材を厳選してとることは楽しくなり、減量にも成功したように感じております。

ただ新型コロナウイルス感染症が流行後、学会で行くホテルでのビュッフェスタイルの朝食や懇親会の立食スタイルが今は少なくなっていることは寂しく、早く収束することを望んでいます。

峠道讃

延岡市 長沼医院 ^{ながぬま} 長 沼 ^{こうぞぶろう} 弘三郎

実家の裏山から澄んだ秋空に雁の渡るのを目で追い、北の尾鈴からはるかに延びる奥山を見やっていたのは何時の頃だったのだろうか。根っこからの隣百姓のなかで“うっせぼ”で育ったせいか、物心がつくとその山々のかなたの山人^{やまうど}の郷にあこがれいろいろと想いをめぐらせていた。それはさておき、この齢になってようやく彼の地を歩こうと思っておよんだ。

手始めに高千穂押方を起点に五ヶ瀬に向かって、旧国道を津花峠を越し“しだれ桜”の浄専寺から六峰街道を上りつめ“あけぼのつつじ”で満開の二上山にお参りした。2日間で40kmの足馴らした。

途路南の笠部の山肌に一筋の峠道を見つけ、あそこをたどればその先は椎葉と見てとった。他日そのくねった県道202号鞍岡赤谷線を足でかせいで鞍岡でひむか神話街道(国道265号)に合い、更に足を延ばして本屋敷、国見トンネル北口まで20kmを5時間、3万歩かけて歩いた。

翌週は国見峠越だ。落石や決壊で車止めになった旧道を歩いた。蝉しぐれに相まってカジカがかしましく鳴き、かつ溪流の瀬音が谷間にみなぎっても山そのものは深閑そのものだった。55年前この峠道を単車で走り抜けたが、当時の国見峠からの幾重にも重なった山々は、繁った樹木にさえぎられ展望はまったく効かなくなっていた。トンネルを通れば5.5kmですむものを18.5km余分に歩いた。この日の歩行は24km、3.7万歩。

明るく週、歩き再開。標識では国見峠南口から上椎葉まで13kmだが仲塔、十根川を通過^{かなすび}鹿野遊から山坂にそれ、野老ヶ八重の集落から急坂を下り手掘りのトンネル越で上椎葉をめざした。16km2.5万歩の行程だった。

残すは上椎葉から湯山(水上村)までだ。

旅館鶴富屋敷に前泊し早朝3時30分に出立。上椎葉ダム堰堤に立ち、ダム湖の北岸を縫って走る県道142号を夜行した。松木で夜が明け不土野橋を渡ってダムと別れ奥椎葉に入る。古枝尾、不土野の集落を横目に往時の“駄賃付街道”を黙々と上ったが、ふりかえると北の山の中腹に“ポツンと一軒家”がちらほら見てとれた。

水処で岩清水をくみ県境の不土野峠で一息入れた。この峠を車で越せるようになったのはほんの55年前でそう昔のことではない。麓の古屋敷までまだまだ遠く湯山まではなおさらだったが、峠を下ると西日に輝く市房山が目に入り気が晴れた。歩数が増すにつれ、足裏、膝、腰と順に痛みを覚え、最後は骨盤にひびいた。ともかく46kmを13時間、6.8万歩数えて歩き通した。これが今の自分で一日で歩ける限度か。

延にして130km弱を約17万歩かけて踏破したが、これは昔の峠道(杣道)をなぞって歩いたようなものだ。“おまえは年齢に逆らってせかせかと動きすぎだ。もっとのんびりしたら”と言われる。しかしできそうもない。今日も峠道から“行こう、行こう”と誘われ、また足が同じように“歩こう、歩こう”と物言う。山は逃げないが峠道は“なんかのせいで”閉じられそう。

だから今歩くのだ。

消化器（外科医）診療の今昔

宮崎大学医学部外科学講座 教授 なな七 しま島 あつ篤 し志

宮崎に赴任して8年、微力ながら消化器外科診療に携わってきました。当初から同じ九州ながら県を跨いで大きな診療の違いに直面したことが多々あったことは事実でした。これまで知らずにいたことを宮崎の先生方から学ばせていただいたことも少なくなく、50代となっても更に手術や知識の向上に結び付けた成果は自身の驚きと喜びです。

さて2015年ごろから外科領域のさまざまな技術や動向が数年おきに激変を繰り返しています。“10年ひと昔”の言葉がありますが、現代のアンケートだとひと昔3～5年の回答だそうで、確かに10年前を思い出しても何をしていたかさ定かではありません。医療者の心や考え方もそれに応じて変化しながら、何か新たなことを得るには忘れていかなければ、もしくは関われない何かもあり、その選択のバランスは労働環境の厳しさの高い外科医にとって安寧な暮らしも不安になる危惧は誰しも感じています。診療の隔たりに話を戻すと、本県の消化器外科医の負の遺産・課題の最大なものは内視鏡診療です。大学や一部の病院を除いて全県に渡って、外科医が診断のみならず消化管出血対応、特殊な内視鏡検査を行わなければ地域診療が回らない過酷な現状です。循環器や呼吸器診療は内科のきちんとした下支えがあるのに消化器だけはなぜ外科医に？最初に愕然としながら数年間、教授職にいながら何も解決できず反省すべき点です。隣県にもない異なる環境も、外科医

志望者不足ワースト〇位を毎年維持する本県の実状の一因を反映しているようです。内視鏡を毎日握り卓越した技術と経験のある内科医が多くいらっしゃる、その一方で内視鏡訓練もなく学会員でもない外科医に内視鏡治療が送られ続けている現状に、県医師会会員、県の医療政策関係者の皆様に医療の根幹を揺るがす喫緊の課題として提起申し上げたいと筆を執りました。私自身は治療内視鏡を依頼されたのは卒後5年目程度まででしたから、ひと昔6世代分の過去と昔の状態を、現代のひと昔程度に改善しなければその先の将来はどうなるか、新春の悪夢で終わらせたいたいものです。



九死に一生,,,

宮崎市 中山医院 なか やま 中 山 けん 健

小生、本年は年男ゆえのご下命で駄文を草しますが、来し方を顧みるにあわやという出来事がいくつかありましたので挙げてみます。

幼少時、青島の海水浴場で親の手から離れて海底へ。記憶は一面の青世界。

小学校低学年時、自転車で走行中欄干のない橋から転落し川底へ。後から自転車が降ってきて頭を直撃。一時意識なし。

ほぼ同じころ、学校で塀のない長い廊下を疾走中、人と衝突してセメント張りの足洗い場へ頭からダイビング。一時意識なし。

小学校中学年時、湿性肋膜炎に罹患。薬はなく安静と時々胸水除去のみ。結果は休学。

高校1年時、肋膜炎再発。薬はあったがSMの副作用に苦しむ。再び休学。

インターン時、仲間と四国一周ドライブの旅を敢行。無理が祟り運転中しばしばまどろむ。後続の仲間曰く、お前よく生きてたな。

医局員時、鹿児島県名瀬市で先輩らと新月・干潮の夜、サンゴ礁の連なる磯で魚取りに挑戦。気が付くと周りに人の気配なく帰りたいが漆黒の闇で方角不明。カンテラで見る足元には満潮の兆しあり。ときに閃きあり、「波は陸の方へ進むよね」。

S 59年、身内から熊本産辛子蓮根の真空パックを貰う。好物だがとりあえず冷蔵庫に。まもなく宮崎市郡医師会病院の若い医師が製造日一致の当商品によるボツリヌス中毒の発症例を報告。他県では死亡例あり。

ほぼ同じころ、当地で開催の男子プロゴルフでの一コマ。ショートホールのグリーンサイドに居た私を球が襲い背中に当たってグリーン上へ。その球は当然後で頂いた。

昨年、4月下旬での北海道旅行を計画したが急な都合で6月に延期。4月23日、知床半島沖での事故発生。初めの計画には観光の目玉としてこれが入っていた。

それと気付かなかったことはまだまだあった筈で、もう余生への繰り越し分はないでしょう。

私のつぶやき（グチとも云う）

延岡市 ほうしやま子どもクリニック ほうしやま 宝珠山 ひろし 弘

令和5年新年おめでとうございます。

- ① 年齢を重ねるとついブツブツ云うクセがあるものだ。
- ② 教育と医学は広い意味で同じである。
- ③ 人生は生まれ変わらないと思う。まさに人生とは人生はである。
- ④ 忘れようと思っても忘れないものがある。これこそ「教育と医学」であると思うこのごろである。
- ⑤ 孝行したいときは親はなし。
- ⑥ 「ボロは着てても心は錦」の心が大切である。
- ⑦ 先のことは分からない。私は小学1年生よりドクターになるまでカゼを引いて休んだことはない。前進の心と信念の心が大切であると思う。

- ⑧ 人生は短いユメマボロシの如しと云う。
- ⑨ 1日1日を大切にしていれば嬉しかったら笑い、悲しかったら泣いたらいい。
- ⑩ 何クソ精神が大切に、健康こそ第一である。
- ⑪ 父に母に感謝の心を忘れず（山より高く海より深い）子どもはいかにして報いるべきか？

Distanceを超えた医療提供

宮崎市 宮崎県立宮崎病院 ま しば こう いち
真 柴 晃 一

SARS-COV-2の世界的流行により、“うつさない”、“うつされない”感染対策としてdistanceの確保が提唱され、ヒトの社会活動は一変した。ソーシャルディスタンスは、人的交流を制限し、フィジカルディスタンスは、仕事、教育、スポーツ、芸術の在り方を根幹から揺るがし、アクリル板や画面越しとなった。医療にも大きく影響し、目に見えないウイルスの感染対策により診察は制限され、触診情報が得にくく、患者と意思疎通や共感を得ることが難しくなった。

社会環境や診療形態の変化を懸念していたところ、偶々NHKで紹介されていた伊藤亜紗著の「手の倫理」に出会った。同書では、“コロナ下でも触覚の持つ価値は、形を変えてでも受け継がれる必要がある”と論じられており、日常診療への重大なメッセージと感じた。『触る』は、英語で“touch”だが、日本語では、『さわる』と『ふれる』と二つのこまやかな情緒表現

がされる。『さわる』は、「傷にさわる」と表現すると、相手の気持ちを意識せずに一方的な行為で痛いと感じる。『ふれる』は、「傷にふれる」と表現すると、そっと優しく手当てをしてもらえるような、相手の気持ちを汲んだ相互的な行為と感じる。『触る』ことは、人に身を預け、接することであり、軽んじてはならない人と交わる重要な行為であると述べられており、我が意を得た。

仮想現実を新たに生み出そうとしている現代社会は、視覚と聴覚を介して情報交換を行っており、『ふれる』『さわる』触覚を介する機会はコロナ禍で更に減っている。しかし、触覚は、相互理解や信頼に繋がる重要な五感の一つであり、診察、ケア、看取り、子育ての場面では極めて重要な感覚である。

ウィズコロナ、アフターコロナの新たな時代を迎え、distanceを超えた医療は重要であり、『ふれる』価値を意識した医療の提供に取り組みたいと考えている。



心の余白

川南町 国立病院機構宮崎病院 ^{みや}宮 ^お尾 ^{ゆう}雄 ^じ治

2023年は癸卯（みずのとう）ということで、私にとっては生まれた年の干支、つまり還暦の年である。60年を振り返ると失敗や反省も多いのだが、これから先の人生は、神様からいただいた新たな1歳からのスタートと考え、なるべく楽しいことや世のため人のために尽くしていければと考える。楽しいことと言っても趣味がそんなにあるわけでもないが、コロナ感染症蔓延時はできなかった美術館巡りを、2022年くらいから再開した。元々大学時代（熊本）も部活は本学の書道部に在籍し、自分の同期が卒業するまでの4年間は活動した。その後は全く日常で筆を握ることはなくなったが、それでも若いころは正月の年賀状くらいは、墨を擦りちょっとだけ筆を加えて書いたりしていた。しかし今は筆や硯さえ、どこにいったか分からない。普段書くカルテの文字も、悪筆すぎて笑えてくるほどだ。芸術全般、鑑賞するのは好きなので、美術館での鑑賞は絵画が主であるが、今までも学会出張などでいろいろな都市で、時間があれば美術館やギャラリーに立ち寄ることもあった。書道の作品は、基本的には白と黒で表現される世界、白の余白も重要な作品の要素である。背筋を伸ばして墨を擦り、青墨の香りの中、邪念を払い、無に近い状態で全身を使って筆を運ぶ。禅寺で修行などはしていないが、本で知る禅の瞑想につながるような印象がある。この歳になって思うが続けていれば良い趣味かもしれない。

市場経済的な観点からは、無理無駄を省き、選択と集中だと地域医療構想でも声高に叫ば

れ、できるビジネスマンは、メールも時候の挨拶などなく用件のみが正解らしいが、コロナのパンデミックのように、余裕や余白がないと世の中が回らなくなることもある。地域に医療を提供し続けるためには経営的な面も大事だが、営利企業ではないため、心に余裕が持てるような診療、病院運営が必要だと思う。自分の心の余裕と余白を作るためにも、また芸術に触れる機会を今年も作っていききたいと思う。

秋の放課後（2022年10月26日）

串間市 ^{みつ}みつとめ眼科 ^{とめ}満 ^{たけ}留 ^{のぶ}武 宣

開放感

手術を終わらせた夕方、福島港から沖に出る
薄くなった髪が海風に遊ぶのを感じながら、
夕陽に向かって船を出す

釣果を目指して10分ほど走らせるとmyポイントに到着する

アンカーはかけずドテラ流しで気楽な釣り
原由子の歌をかけて、釣り糸を垂らす
波に揺られて海の上の時間を過ごす

1時間以上当たりがない、さすがに退屈してきた

夕まずめの時間が迫ってくる
 気分転換でZAZの歌に変えてみる
 どういうわけかこれをかけているときによく釣れる…
 ..と、いきなり当たりが
 長めの当たりの後、ドラッグが鳴ってラインが出始めた
 「かかった！」
 やり取りしながら巻き上げる、叩くような引き「これは真鯛だ」
 ..が..ふっと手応えが消えた「バレた」
 熱くなりかけた気持ちが冷えていく「やり直し」
 タックルを回収、船をポイントに戻し、鯛ラバをチェックして再度投入

達成感

また、当たりが遠のいた
 もうすぐ午後6時、暗くなり始めた
 ..と、つつくような当たり、リールを巻き続けると、叩くような引きに変わった、合わせを入れた、ドラッグが鳴る、ラインが引き出される
 これは大きめの真鯛の引きだ
 高揚しながら、楽しみながら、やり取りしているうちに暗くなり始めた海面を通して、銀色に反射する魚体が見えてきた「もう少しだ」
 腹を上に向けて海面に上がって来た魚体は、なかなかのサイズ
 タモを手に取り、慎重に取り込んだ、55cmの真鯛だ
 さっきまで萎んでいた気持ちが一気に膨らんだ

満足感

エンジンをかけて帰路につく
 最高の気分で夕暮れの海を疾走する
 薄暮の港に着いて、もやいを結んだ



港 串間市福島港

船 ヤマハ AS21

ドテラ流し 船を風と潮まかせで流すこと

原由子 ご存じ桑田佳祐の奥様

当たり 魚信

ZAZ フランス人女性シンガーソングライター

ドラッグ ラインが切れないように魚の強い引きを逃がす部品

鯛ラバ ルアー（擬似餌）の一種

タイからのお客さん

高鍋町 たかなべ耳鼻咽喉科クリニック 鳥 原 康 治

10/23から11/4までタイ人の女医さんが高鍋町の我が家に滞在されました。3回目の来日です。タイ南部パッタニ県出身、ソクラ大学2年生の19歳のころに宮崎大学での1か月滞在中で耳鼻科見学を選択してくれて、留学生の世話は教育医長の私がしていた縁で、妻とも仲良くなりラインで連絡を取り合っています。現在はバンコクの大学病院で放射線科レジデント2年目の秋休みを利用して来てくれました。滞在中に同じ放射線科医である野津手加来内科の加来志保先生とも交流してもらえました。

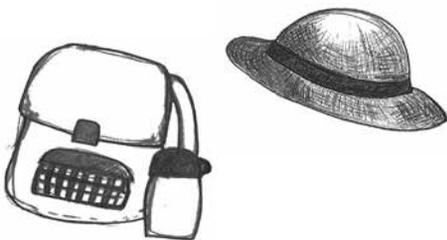
当然ですが生活環境、文化、宗教など日本とは大きく異なり、考え方も違います。昔から謙虚が美德とされている日本人は自己表現や人とのコミュニケーションを苦手とする人が多いです。当院スタッフには来日の前週によろしくお祈りしますと話しておきました。滞在中は灯籠祭り、高鍋町民文化祭、レストランなどに家族、スタッフとともに連日出掛け、英語でやりとりするわけですが、3日目には家族、当院スタッフ達の片言の英語と身振り手振りの無茶ぶりでもなじんでくれて趣味やファッション、おしゃれ、いろいろな会話を楽しんでくれました。

た。祭りでは高鍋町出身の芸人ジェラードンの生コントを2日続けて見せ、食事にも連日馬渡餃子が出てきました。その結果、高鍋町は餃子とジェラードンで有名な町なんだと彼女は理解していました。8歳の孫でさえ英語風の日本語で盛んに話しかけてスイッチのゲームで毎日勝負していました。外国人の友達を持つとコミュニケーションを取るために英語に触れる時間が増え、習得にも積極的になれるため英語を覚えやすい環境が手に入ります。優しい気持ちで相手を尊重する姿勢も大事です。今回のことで当院スタッフの外国人への対応や気持ちの持ち方のステップアップになったことを確信しています。私自身は「ボキャブライダー」という5分間の番組をNHKラジオのホームページから毎日聞いています。



お知らせ

カット、イラストの募集



日州医事のページを飾るカットやイラストを募集しております。ぜひ、作品をお寄せください。

なお、白黒での掲載になります。採否は広報委員会にお任せください。

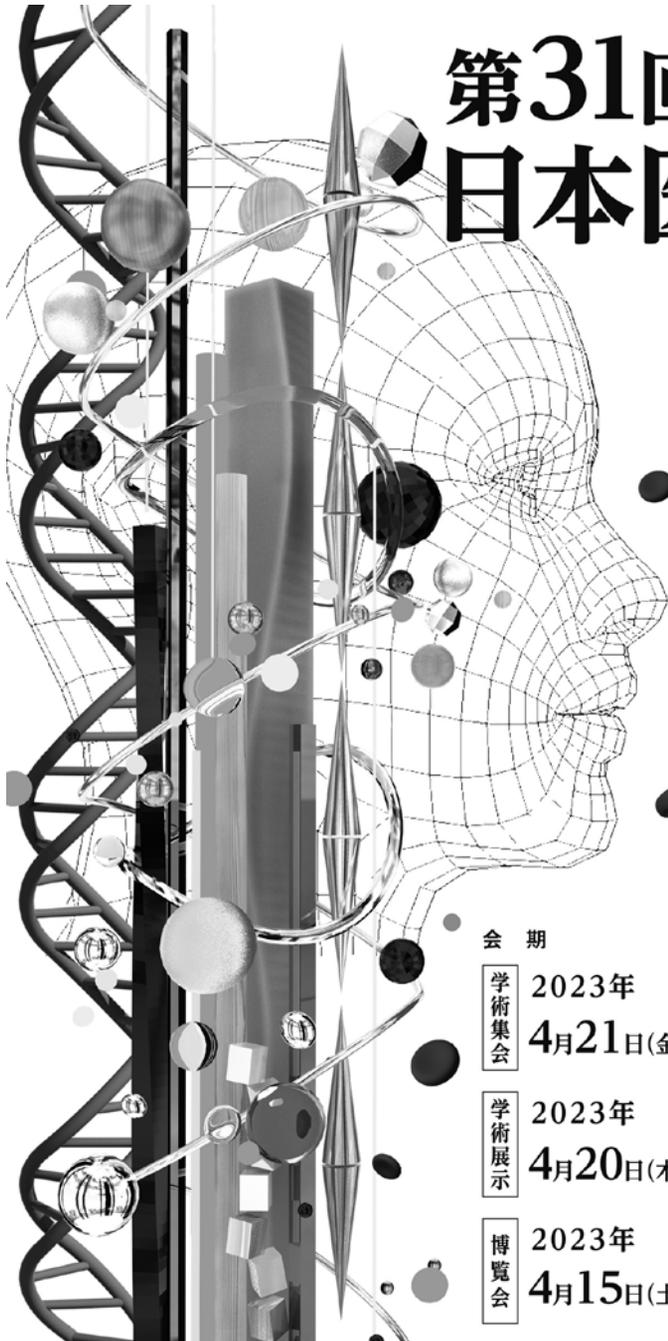
原稿宛先

宮崎県医師会広報委員会

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101
genko@miyazaki.med.or.jp

第31回 THE 31ST GENERAL ASSEMBLY OF THE JAPAN MEDICAL CONGRESS

日本医学会総会



ビッグデータが拓く
未来の医学と医療

豊かな人生100年時代を求めて

会 期

学術集会 2023年
4月21日(金)～23日(日)

学術展示 2023年
4月20日(木)～23日(日)

博覧会 2023年
4月15日(土)～23日(日)

会 場 東京国際フォーラムおよび丸の内・有楽町エリア

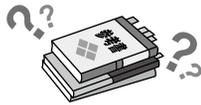
会 頭 春日雅人 朝日生命成人病研究所長
国立国際医療研究センター名誉理事長

- 主催機関
- 主 催 日本医学会
 - 実行機関 第31回日本医学会総会
 - 主務機関 東京大学医学部、東京医科歯科大学医学部、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、杏林大学医学部、昭和大学医学部、東京医科大学、東京女子医科大学、東邦大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、国立がん研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター、東京都医師会
 - 後援(予定) 日本医師会、日本歯科医師会、文部科学省、厚生労働省、環境省、経済産業省、国土交通省、総務省、東京都、日本放送協会(NHK)、日本病院会、日本看護協会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、東京新聞、共同通信社

事務局 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院中央診療棟2(8F)
TEL 03-5800-8971 FAX 03-5800-6412 E-mail office@isoukai2023.jp



第31回日本医学会総会
WEBサイト



あなたできますか？

—令和3年度 医師国家試験問題より—

(解答は76ページ)

1. 加齢に伴う変化について正しいのはどれか。
 - a 腎血流量増加
 - b 尿濃縮力低下
 - c 糸球体ろ過値上昇
 - d 硬化糸球体数減少
 - e 機能ネフロン数増加
2. 高齢者の個性と尊厳を尊重する介護の在り方について適切なのはどれか。
 - a 親しみを込めるように高齢者の名前を「ちゃん」づけで呼ぶ。
 - b 転落しないようにベッドに体幹をバンドで固定し安全を図る。
 - c 排泄の自立が困難な高齢者にトイレの場所を大声で指図する。
 - d それぞれの高齢者の習慣や生活ペースに合わせた介護を行う。
 - e 移動の自立が困難な高齢者に介護老人福祉施設の入所を勧める。
3. 経管栄養を目的とした仰臥位での経鼻胃管の挿入について適切なのはどれか。
 - a 挿入前に鼻腔にリドカインを塗布する。
 - b 挿入時に患者の頸部を後屈させる。
 - c 標準的な成人では鼻孔から35cmの深さまで挿入する。
 - d 挿入後生理食塩液を注入し流入音を確認する。
 - e チューブ先端位置をエックス線写真で確認する。
4. 「がん対策推進基本計画（平成30年3月）」において推進されるべきとされている緩和ケアについて誤っているのはどれか。
 - a 終末期になってから導入する。
 - b 患者の家族に対する対応を含む。
 - c 医療用麻薬に関する啓発を行う。
 - d 精神腫瘍医の役割についての記載がある。
 - e 医師以外の医療従事者も緩和ケアに関わる。
5. 滲出性胸水をきたす疾患に含まれないのはどれか。
 - a 肺梗塞
 - b 肝硬変
 - c 急性膵炎
 - d 結核性胸膜炎
 - e 全身性エリテマトーデス
6. 炎症性疾患にみられるCRP上昇に最も関与するサイトカインはどれか。
 - a IL-1
 - b IL-6
 - c TGF- β
 - d TNF- α
 - e インターフェロン γ
7. 心不全の分類で肺動脈楔入圧と心拍出量（心係数）で定義されるものはどれか。
 - a AHA（American Heart Association）心不全ステージ分類
 - b Child分類
 - c Forrester分類
 - d Nohria-Stevenson分類
 - e NYHA心機能分類
8. 咽頭痛を認める小児で咽後膿瘍を疑う症状はどれか。2つ選べ。
 - a 難聴
 - b 鼻出血
 - c 頻呼吸
 - d 顔面麻痺
 - e 嚥下困難
9. 血痰の原因を検索するうえで優先度が低いのはどれか。
 - a 喀痰細胞診
 - b 内服薬の確認
 - c 呼吸機能検査
 - d 喀痰抗酸菌検査
 - e 胸部エックス線写真
10. 医師の行動として適切なのはどれか。
 - a 診断のため本人の同意なく患者の家系を調べた。
 - b 診療の内容を患者の実名を含めてSNSに投稿した。
 - c 検体の血液が余ったので本人の同意なく遺伝子配列を解析した。
 - d 学習のため本人の同意なく患者の皮膚所見をホームページに載せた。
 - e 虐待が疑われるため家族の同意なく児童の情報を児童相談所に通報した。

エコー・リレー

(569回)

(南から北へ北から南へ)

ワンコはマイフレンド

綾町 たまきクリニック 玉置 昇



私は犬が好きだ。思い起こせばいつもそばに犬がいた。宮交シテイのペットショップでもらったミックス犬が初代ワンコ。小さいころはコロコロして可愛かったが(名前はコロ)、成犬になると別の犬のようになった。その後、患者さんか

ら秋田犬の子イヌ(リリー)をいただいた。リリーは1匹だけ男の子(太郎)を産んだ。太郎は素晴らしい秋田犬に育った。同じころ、宮崎医科大学の実験動物だったビーグルの雌の子イヌ(ヌーピー)を飼い始めた。更に太郎のお嫁さんに雌の秋田犬(花子)も飼い始めた。花子は5匹産んだが育児放棄で死なせてしまった。今でも悔やまれる。ヌーピーは5匹出産し、そのうち雄(梅吉)が1匹残った。ヌーピーはその後また出産したが、子イヌの容姿がビーグルらしくなかった。後に「秋田ビーグル」と判明し大笑いした。その後黒いミニチュアダックス(ベル)も飼った。とても可愛い犬だった。どの犬にも申しわけなかったのだが、いろいろな事情で知人や親戚に引き取られたので死に目には逢っていない。一番最近飼ったのがトイプードル(エル)である。子イヌのときからどこへ行くのも一緒に、本当の家族のように過ごした。帰宅するといつも尻尾を振り出迎えてくれた。ワンコはワンワン言うけれど人の悪口も不服も言わず嘘もつかない。無償の愛情を持って相対してくれる。そのエルが今年12歳で亡くなった。最後は苦しそうで見ているのも辛かったが、エルはよく頑張った。火葬用の車に来てもらい茶毘に付した。ペットロスに陥り、写真を眺めて過ごす毎日。「夫を亡くしたときよりも犬が死んだときの方がずっと応えた」という患者さんがいた。犬との結びつきには人とは違う独特の深さがある。今もエルが家の中にいる錯覚に陥る。ペットは人の心にやすらぎを与えてくれる。ペットを飼う高齢者はQOLが高いともいう。最近YouTubeでペットの動画をよく観ているが、新しいワンコを飼う気にはまだなれない。

[次回は、宮崎市の田中 宏幸先生をお願いします]

今年もFun Run

宮崎市 まなび野耳鼻咽喉科 堀之内 謙一



新春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。私も細々とながら市民ランナーの端くれで、軽い腰部椎間板ヘルニア持ちでもあり、アスリートならぬ「腰さすりーと」です。週に2~3日

10kmほどですが、走っていると花粉症の原因となる雑草の状態が目についたり、診療効率化のアイデアが浮かんだり、リフレッシュしながら仕事にとってもいい時間になっています。

フルマラソン後は3日ほど足を引きずりながらの診療となり、常連の患者さんたちからは嬉しそうに「お大事に〜」と慰められます。

還暦を目前にして肩関節周囲炎(いわゆる「五十肩」)を患って暫く怠け、再開して3か月。ブランクで落ちたタイムも次第に56歳時の10kmレースで出た自己ベストに近づきつつあります。それだけ低レベルということですが、マイペースでこれからも楽しんでいければと思っています。

20年ほど前、青太フルのゴール直後、まだ幼かった5人の我が子に囲まれていると、テレビカメラが来て「お父さん、感想を一言」。とっさに「マラソンも子作りも頑張りました!」。後日の青太特番でまさかのオンエア。田舎の父は孫たちの姿に目を細めた直後、愚息の一言に目が点だったとか。

老化へのfun run(反乱)でした(山田くーん、座布団3枚持って行って)。華麗なる加齢を…(もう全部持って行って)。皆様、よい一年でありますように。

[次回は、宮崎市の藤田 晴吾先生をお願いします]

身近なお困りごと相談室

本コーナーでは、「医療機関での身近な疑問や質問」について、各分野の専門家が回答いたします。

第16回 患者の保険解約手続と医療機関の関与



Q.

高齢の入院患者の長男より、患者本人が契約者である保険解約のために郵便局に外出させたいとの申し出がありました。コロナ禍であり、外出禁止である旨を伝えたところ、長男は患者に記入してほしいと委任状用紙を持参しました。患者は軽い認知症があり、日常会話や住所氏名の記載は可能であるものの、理解力・判断力の低下はあります。患者には複数の子がいます。後日問題が起きた場合、書類の受け渡しをした医療機関の責任が問われる可能性があるのでしょうか。どのように対応するのがよいのでしょうか。

ご質問のケースは、患者の財産に関する手続であるところ、もし患者さんがお亡くなりになられた場合、患者の財産は、お子様らなどの相続人が相続することとなります。この場合、もし患者の長男が他の相続人に無断で患者の財産を費消した場合などには、長男と他の兄弟が遺産分割で揉めることが予想されます。

この場合、仮に医療機関が関与して書類作成を行ったとしても、それによって何かしらの責任が問われることは考えにくいでしょう。しかし、その一方で、本当に患者はその書類を理解して署名したのかなどの認知機能や、どのような経緯で署名することになったのかなどの事情について、医療機関に問い合わせや照会、またはカルテ開示請求が来る可能性が考えられます。その場合、医療機関の回答内容次第で遺産分割の内容が変わり得ることから、詳細な回答が必要になるでしょう。

そのため、医療機関としては、事情のよくわからない患者の遺産分割に巻き込まれる事自体が負担でもありますので、患者が行う解約手続の内容には関与しないのがよいでしょう。

具体的には、患者へ必要書類を郵便で送っていただき、親族が直接患者に対して書類の説明を行い、患者自身が署名押印や返送を行なっていただくような方法があり得ます。また、どうしても面会して手続きを要する場合には、医療機関としては感染対策を講じた面会場所のみを提供し、その中身には一切関わらないようにする手段も有効でしょう。

(回答 弁護士法人きさらぎ 弁護士 高山 桂)

A.



<医療機関での身近な疑問、質問をお寄せください>

- 文字数：200字以内
- 質問はメール (genko@miyazaki.med.or.jp), FAX, 郵送などでお送りください。
※匿名での掲載になります。採否は広報委員会にご一任ください。

表彰・祝賀

労働基準行政関係功勞により厚生労働大臣表彰

まつ だ ひろ ひこ
松 田 弘 彦 先生（南那珂）

令和4年11月23日、労働基準行政関係功勞により厚生労働大臣表彰をお受けになりました。
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



松田 先生



令和4年1月～12月に 叙勲、褒章及び各種表彰を受けられた会員の先生方等

叙勲・褒章

【宮崎市郡医師会】

学校保健功勞により瑞宝双光章（令和4年4月29日） 杉 田 幸 雄

【延岡市医師会】

学校保健功勞により瑞宝双光章（令和4年11月3日） 赤 須 正 道

【日向市東臼杵郡医師会】

保健衛生功勞により旭日双光章（令和4年4月29日） 和 田 徹 也

保健衛生功績により藍綬褒章（令和4年11月3日） 鮫 島 哲 郎

各種表彰

【宮崎市郡医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和4年1月26日） 市 原 美 宏

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和4年1月26日） 田 中 俊 正

医療功勞により県知事表彰（令和4年1月27日） 石 川 智 信

公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年2月25日） 獅子目 賢一郎

公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰（令和4年2月25日） 獅子目 輯

医療功勞により県知事表彰（令和4年9月1日） 川 名 隆 司

産科医療功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年9月9日） 古賀総合病院

国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰（令和4年10月14日） 阿久根 広 宣

精神保健福祉事業功勞により県知事表彰（令和4年10月15日） 岩 切 美千代

精神保健福祉事業功勞により県知事表彰（令和4年10月15日） 牧 田 昌 平

社会保険診療報酬支払基金関係功績により厚生労働大臣表彰（令和4年11月1日） 比 嘉 利 信

【都城市北諸県郡医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和4年1月26日） 中 山 郁 男

公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年2月25日） 平 田 宗 勝

公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰（令和4年2月25日） 泊 直十郎

医療功勞により県知事表彰（令和4年9月1日） 野 邊 俊 文

救急医療事業功勞により県知事表彰（令和4年9月5日） 佐々木 幸 二

救急医療事業功勞により県知事表彰（令和4年9月5日）	田 中 穰 式
救急医療功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年9月9日）	安 藤 健 一
学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰（令和4年11月10日）	海 田 紀 夫

【延岡市医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和4年1月26日）	野 田 省 治
医療功勞により県知事表彰（令和4年1月27日）	林 田 中
公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年2月25日）	牧 野 剛 緒
医療功勞により県知事表彰（令和4年9月1日）	宮 田 純 一
救急医療事業功勞により県知事表彰（令和4年9月5日）	野 田 寛
精神保健福祉事業功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年10月14日）	松 藤 正 彦

【日向市東臼杵郡医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和4年9月1日）	渡 邊 裕 之
------------------------	---------

【児湯医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和4年1月27日）	高 山 修 二
医療功勞により県知事表彰（令和4年9月1日）	前 田 正 幸

【西都市西児湯医師会】

公衆衛生功勞により県知事表彰（令和4年1月26日）	岩 見 晶 臣
公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会会長表彰（令和4年2月25日）	佐 藤 幸 憲

【南那珂医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和4年1月27日）	河 野 秀 一
労働基準行政関係功勞により厚生労働大臣表彰（令和4年11月23日）	松 田 弘 彦

【西諸医師会】

医療功勞により県知事表彰（令和4年1月27日）	高 崎 直 哉
学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰（令和4年11月10日）	堀 英 晴

【宮崎大学医学部医師会】

国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰（令和4年10月14日）	鈴 木 斎 王
-----------------------------------	---------

宮崎県感染症発生動向 ～11月～

令和4年10月31日～令和4年11月27日（第44週～第47週）

■全数報告の感染症

- 1類：報告なし。
- 2類：○結核7例（男性4例・女性3例）：宮崎市（6例）、都城（1例）保健所管内から報告があった。年齢は70歳代と90歳代が各2例、30歳代、50歳代及び80歳代が各1例で、病型は肺結核が4例、無症状病原体保有者が3例であった。

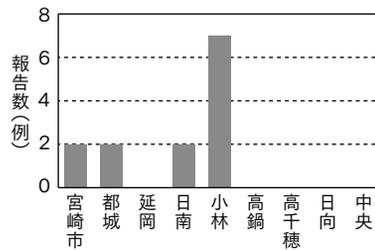


図1 つつが虫病 保健所別報告数(例)

表1 つつが虫 年齢別報告数(例)

年齢	報告数
20歳代	1
30歳代	1
40歳代	1
50歳代	1
60歳代	1
70歳代	6
80歳代	1
90歳代	1

- 3類：○腸管出血性大腸菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は20歳代で、無症状病原体保有者であった。原因菌はO血清型不明（VT型不明）であった。
- 4類：○つつが虫病13例：保健所別報告数は【図1】、年齢別報告数は【表1】のとおりであった。主な症状として頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹等がみられた。
- 日本紅斑熱2例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢はいずれも70歳代で、ダニの刺し口が確認できた。主な症状として発熱、発疹、肝機能異常がみられた。
 - レジオネラ症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は70歳代で、病型は肺炎型であった。主な症状として発熱、呼吸困難、肺炎がみられた。
- 5類：○カルバペネム耐性腸内細菌感染症2例：都城、高鍋保健所管内から報告があった。年齢は0～4歳と90歳代で、主な症状として尿路感染症、肺炎がみられた。
- 急性弛緩性麻痺1例：都城保健所管内から報告があった。年齢は5～9歳で、主な症状として弛緩性麻痺、深部腱反射低下、筋萎縮、髄液細胞数増加がみられた。
 - 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は90歳代で、主な症状として腎不全、DICがみられた。
 - 侵襲性インフルエンザ菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は70歳代で、主な症状として発熱、ショック、肺炎、菌血症、多臓器不全がみられた。
 - 梅毒9例（男性7例・女性2例）：宮崎市（7例）、延岡、高鍋（各1例）保健所管内から報告があった。年齢は20歳代と30歳代が各3例、40歳代が2例、10歳代が1例であった。病型は早期顕症梅毒Ⅰ期が2例、早期顕症梅毒Ⅱ期が4例、無症状病原体保有者が3例であった。主な症状として初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹、梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹がみられた。
 - 播種性クリプトコックス症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。年齢は60歳代で、主な症状として意識障害、中枢神経系病変がみられた。

■病原体検出情報（微生物部）

■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は1,102人（定点あたり31.5）で、前月の111%、例年の59%であった。

前月に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と水痘で、減少した主な疾患は手足口病であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はRSウイルス感染症と感染性胃腸炎であった。

		検出病原体	件
細菌		EPEC (OUT:H21)	1
		EHEC (O157:H7 VT2)	1
		EPEC (OUT:HUT)	1
		Salmonella Thompson(O7:k:1,5)	3
		Salmonella Alachua(O35:z4,z23:-)	1
		Salmonella Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	1
ウイルス		ヘルペスウイルス6	1
		ライノウイルス	1
		サイトメガロウイルス	1

RSウイルス感染症の報告数は73人（2.0）で前月の約1.1倍、例年の約1.9倍であった。小林（13.0）、都城（3.5）保健所からの報告が多く、6ヵ月から3歳が全体の約8割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は671人（18.6）で前月の約1.3倍、例年の約1.1倍であった。日南（32.3）、中央（28.0）、都城（24.3）保健所からの報告が多く、1歳から3歳が全体の約4割を占めた。

■月報告対象疾患の発生動向〈2022年11月〉

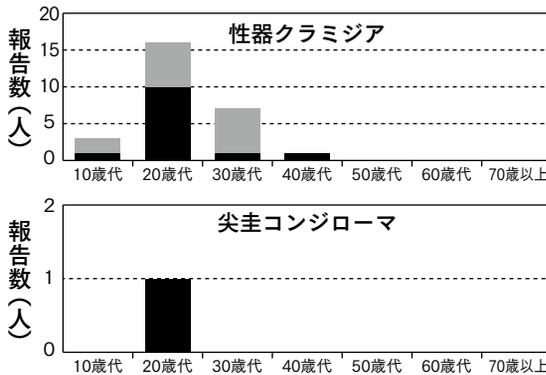
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は44人（3.4）で、前月比126%と増加した。また、昨年11月（3.6）の約0.9倍であった。

《疾患別》

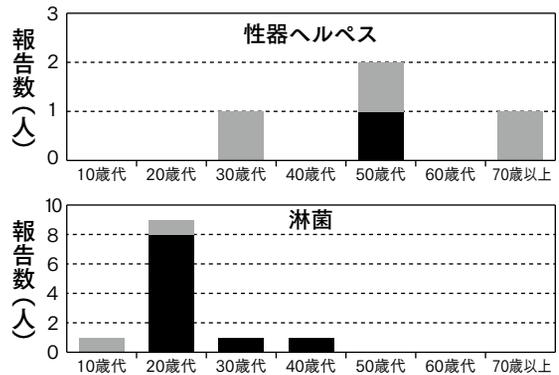
- 性器クラミジア感染症：報告数27人（2.1）で、前月の約1.2倍、昨年11月の約1.1倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた。（男性13人・女性14人）
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人（0.31）で、前月の0.8倍、昨年11月の約0.4倍であった。（男性1人・女性3人）
- 尖圭コンジローマ：報告数1人（0.08）で、昨年11月と同率であった。（男性1人、前月報告なし）
- 淋菌感染症：報告数12人（0.92）で、前月の約1.7倍、昨年11月の約1.1倍であった。（男性10人・女性2人）



■男 ■女

	2022年11月		2022年10月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	5	0.1	0	0.0	
RSウイルス感染症	73	2.0	67	1.9	★
咽頭結膜熱	38	1.1	34	0.9	
※溶レン菌咽頭炎	43	1.2	46	1.3	
感染性胃腸炎	671	18.6	507	14.1	★
水痘	24	0.7	13	0.4	
手足口病	137	3.8	176	4.9	
伝染性紅斑	3	0.1	2	0.1	
突発性発しん	63	1.8	83	2.3	
ヘルパンギーナ	32	0.9	36	1.0	
流行性耳下腺炎	6	0.2	3	0.1	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	7	1.2	10	1.7	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	0	0.0	0	0.0	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.0	0	0.0	

★例年同時期（過去3年の平均）より報告数が多い
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は18人（2.6）で、前月比58%と減少した。また、昨年11月（3.0）の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数18人（2.6）で、前月の約0.6倍、昨年11月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

（宮崎県衛生環境研究所）

－ 各種委員会 －

介護保険委員会

と き 令和4年11月18日(金)

ところ 県医師会館, Web (Zoom)

石川常任理事の司会により開会し、本会全理事協議会において委員長に福嶋秀一郎先生、副委員長に中島紫織先生が選任されたことが報告された。続いて河野会長の挨拶の後、委員の自己紹介が行われた。

次に、河野会長から福嶋委員長へ「かかりつけ医の介護予防・日常生活支援総合事業への関わり方について」諮問され、福嶋委員長の進行で議事に入った。

1 令和4年度主治医研修会について

まず、石川常任理事から、研修の目的や留意点について説明があった。その後、今年度の研修内容について検討が行われた。

研修会の日程は、令和5年2月17日(金)に現地とWebのハイブリッド形態にて開催する。内容については、行政からの説明の他、下記3つの事例検討を実施することとなった。詳細は、委員長および担当理事に一任された。

- 1) 介護保険審査会の視点から
- 2) 訪問薬剤師の視点から
- 3) 高次脳機能障害や嚥下障害の評価の仕方について

2 諮問事項について

諮問事項である「かかりつけ医の介護予防・日常生活支援総合事業への関わり方について」、議論が交わされた。

国において、要介護1、2の方のデイサービスや日常生活支援を介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）に移行する検討がなされており、医療的介入が必要な方々が医療者の手から離れかねないとの懸念が挙がっている。総合事業は「介護予防」「生活支援」を謳っており、地域のサービス、支援体制が十分に整っていれば、健康寿命延伸に寄



与することにつながるものの、現状は自治体ごとに取り組み内容に差が見られるとのことであった。医師が総合事業にどの程度まで関与することが可能か現時点では不明瞭な部分が多いが、地域の取組みに積極的に関与していくことの重要性を本委員会が伝えていくことが大事であるとの意見がまとめられた。

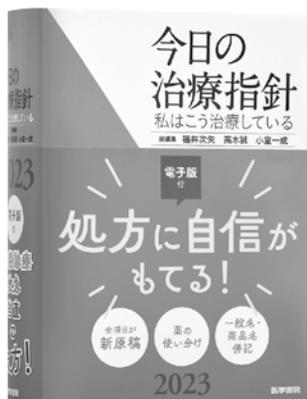
出席者

県医師会館－福嶋委員長、中島副委員長、
隅・松岡・早稲田委員

Web (Zoom)－池田・谷島・上山・飛松・
荒川・牛谷委員、
山中・河原理事

(県医) 河野会長、山村副会長、
荒木・金丸・石川・吉見常任理事、
玉置理事、野尻課長、横山主事

最新の医療情報は、 日々の安心感と即戦力に。



今日の治療指針 2023年版

好評
発売中

New 処方例が商品名・一般名併記

- 疾患頻度を3段階表示
- 診断の手がかりをアンダーラインで強調

- ポケット判 (B6) 頁2192 2023年 定価17,050円 (本体15,500円+税10%) [ISBN978-4-260-05034-0]
- デスク判 (B5) 頁2192 2023年 定価22,000円 (本体20,000円+税10%) [ISBN978-4-260-05035-7]



治療薬マニュアル 2023

好評
発売中

- 警告・禁忌・副作用を含む全情報を収載
- 適応外使用の情報も随所に
- 後発医薬品情報がさらに充実

- B6 頁2900 2023年 定価5,500円 (本体5,000円+税10%) [ISBN978-4-260-05054-8]

いずれも高機能なWeb電子版付。2冊併用なら、電子版が連携しグレードアップ!

- 約1200疾患項目、薬剤約2万品目の情報から瞬時に検索
- [処方例→薬剤情報] [薬剤情報→関連疾患] がワンクリックで参照できる

スマホ・PCが“総合診療データベース”に大変身!



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp

第2回各郡市医師会長協議会

と き 令和4年11月22日(火)

ところ 県医師会館

1 開 会

市来常任理事の司会により開会し、河野会長の挨拶の後、報告・協議に入った。

2 報告および協議

1) 県から

河野俊嗣県知事から、3期12年の実績や新型コロナウイルス感染症、物価高騰、台風災害等に対する対応、今後の「宮崎再生」に向けた政策の説明があった。

2) 11/15(火)都道府県医師会長会議について

河野会長から、11月15日に行われた第2回都道府県医師会長会議において協議された医療従事者の安全を確保するための対策について、8つの医師会によるグループ討議の報告および各県医師会からの事前質問に対する日医の回答等について報告があった。

また、本県における医療従事者の医療安全の確保についても、各県での取組みを参考にしながら県警察本部と連携を強化し対応していくことが報告された。

3) 県医師会から

① 地域医療構想データについて

宮崎大学医学部附属病院患者支援センター長の鈴木齋王先生から、県内262医療機関に依頼し実施している地域医療構想の議論のための医療資源調査に関する説明があり、引き続き協力依頼があった。

② 次期宮崎県医療計画策定にともなう入院患者実態調査への協力について



金丸常任理事から、第8次医療計画策定の前年度となる今年度、県から委託を受けて行う県内医療機関の入院患者実態調査について、調査目的等の説明があり各郡市医師会に対し協力依頼があった。県内各医療機関における入院患者の実態や二次医療圏ごとの流入・流出を把握し、医療圏ごとの基準病床数を定めるための調査で、県内すべての病院および有床診療所に入院するすべての患者を調査対象として12月1日付で行われる予定。調査票は、本会が各医療機関へ郵送し回収は各郡市医師会が行う。

③ 医師会組織力強化について

市来常任理事から、10月19日に開催された都道府県医師会医師会組織強化担当役員連絡協議会の資料にもとづき、医師会組織強化に向けた更なる取組みについて説明があった。

医療現場の声を国の医療政策に結び付けるためには、医師会の組織率を上げる

ことが重要であるが、日本医師会の組織率は年々下がっており、令和2年は51.2%となっている。50%を切る事態は何としても避けなければならないということで、現在臨床研修医を対象に実施している会費減免期間を卒後5年目までに延長することを、都道府県医師会、郡市医師会に求めており、本会においても実施する予定である。本会から各郡市医師会へも実施について要請を行った。

④ 外来感染対策向上加算の届出に係る連携機関について

嶋本常任理事から、4月の診療報酬改定で新設された外来感染対策向上加算について、九州厚生局へ施設基準を届出する際、要件である感染対策向上加算1届出医療機関（以下「加算1医療機関」）や郡市医師会との連携が難しい場合には、本会を連携機関として届出をするよう案内していたが、今後新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築等に向けて、連携先を本会から各地域の加算1医療機関に変更する旨の説明があり、各郡市医師会長宛に通知をしたことの報告と未連携の診療所および新たに連携を行う診療所への支援等について協力依頼を行った。会員に対する周知はFAXニュースで行う。

⑤ 医療・福祉分野における物価高騰対策緊急支援事業について

赤須常任理事から、7月と10月に県に要望していた物価高騰に対する医療機関への支援については、県議会11月の臨時会において、「医療・福祉分野における物価高騰対策緊急支援事業」を含む一般会計補正予算が承認され、病院と4床以上の有床診療所は1床あたり3万円、4床未満の有床診療所と無床診療所は10

万円などの支援が決定したことが説明され、各郡市医師会に対し会員周知の協力依頼を行った。

出席者

各郡市医師会長

高村（宮崎）・田口（都城）・佐藤（延岡）・千代反田（日向）・永友（児湯）・松本（西都）・中村（南那珂）・植松（西臼杵）・帖佐（宮大医）会長、井尻（西諸）副会長

県医師会

河野会長，山村・小牧副会長，
荒木・市来・吉田・金丸・池井・石川・高木・嶋本・赤須・大塚・吉見常任理事，
峰松・佐々木・玉置・上山・田畑・落合・山中・河原・吉村理事

事務局

竹崎局長，園山次長，
久永・松本・牧野・野尻課長，湯浅課長補佐，
杉田医師国保組合事務長，
鳥井元医師協同組合課長

九州医師会連合会第404回常任委員会

と き 令和4年11月25日(金)

ところ ホテル日航大分オアシスタワー

1 開 会

2 挨拶

1) 九州医師会連合会河野会長

(大分県河野会長)

2) 日医松本会長

3 報 告

1) 九州医師会連合会事業現況について

(大分)

大分県内田副会長から、令和4年7月1日から10月31日までの事業現況(常任委員会4回, 委員総会1回, 各種協議会1回など)について報告があった。

2) 九州医師会連合会歳入歳出現計について

(大分)

大分県植山副会長から、令和4年10月31日現在の歳入歳出現況(収入済額128,762,319円, 支出済額13,767,643円)について報告があった。

3) 第122回九州医師会連合会総会及び医学会関連行事について (大分)

大分県内田副会長から、令和4年11月25日(金)の前日諸会議, 26日(土)の合同協議会, 総会・医学会, 27日(日)の分科会の概要について報告があった。

4) 九州学校検診協議会会則改正の最終案について (福岡)

福岡県蓮澤会長から、九州学校検診協議会の会則改正最終案を九州各県医師会に送ったので確認をお願いすることと、今後最終案に対する書面決議をお願いする予定であると説明があった。



5) 日本医師会設立75周年記念式典並びに医学大会における各種表彰者に対する慶祝について (大分)

大分県河野会長から日本医師会最高優功賞および医学研究奨励賞受賞者に対し祝電を送ったことが報告された。

6) 秋の叙勲等受章者に対する慶祝について (大分)

大分県河野会長から秋の叙勲等受章者に対し祝電を送ったことが報告された。

7) 柏木明先生「お別れ会」への弔意について (大分)

大分県河野会長から九州医師会連合会役員等慶弔規程に基づき対応したことが報告された。

4 協 議

1) 第122回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について (大分)

大分県河野会長から、宣言・決議(案)については、原案を大分県医師会で作成し、九州各県医師会に意見を求め、第403回常任委員会で最終確認を行ったことが説明され、本案を臨時委員総会に提案することが

承認された。

2) 九州医師会連合会令和4年度第2回各種協議会の開催日変更及び開催種目について (大分)

大分県河野会長が、日程については、第403回常任委員会において、2月4日に開催することを承認していただいたが、別大マラソンでホテルが確保できないため2月11日に変更することと、開催種目については事前に九州各県に照会していた希望種目の結果を報告し、地域医療、医療保険、介護保険としたいと説明され承認された。

3) 令和5年度(第45回)九州各県保健医療福祉主管部長・九州各県医師会長合同会議の開催について (大分)

大分県河野会長から下記のとおり大分県

医師会の主催で開催することが提案され承認された。

日時 令和5年6月30日(金) 17:00

場所 ホテル日航大分オアシスタワー

4) 九州医師会連合会第19回事務局長連絡協議会の開催について (大分)

大分県河野会長から下記のとおり開催することと、内容については大分県医師会に一任すること提案され承認された。

日時 令和5年3月17日(金) 16:00

場所 大分県医師会館

5 その他

6 閉会

出席者－河野会長、久永課長

県医師会館大規模修繕工事について

現在、宮崎県医師会館は、竣工から15年目の大規模修繕工事を行っております。

工事中は、騒音や駐車場の減少などご迷惑をおかけいたします。

安全確保に十分な対策をしておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

工事期間

令和4年9月12日から令和5年2月初旬(予定)

工事時間

8:00~17:00

※ 近隣住民への配慮および会議・研修会などへの影響をできるだけ減らすため、土・日・祝および平日17:00以降は原則作業をしません。

九州医師会連合会令和4年度第1回各種協議会

と き 令和4年10月1日(土)

ところ ホテル日航大分オアシスタワー

九州医師会連合会令和4年度第1回各種協議会（地域医療対策協議会、医療保険対策協議会、介護保険対策協議会）は、10月1日、大分市・ホテル日航大分オアシスタワーにおいて行われた。それぞれの協議会の概要は次のとおりである。

地域医療対策協議会



地域医療対策協議会は、江澤常任理事（日医）の出席のもと開催された。協議は、各県より提案された7項目について江澤常任理事（日医）より日医の見解が説明された後、質疑応答が行われた。

1 医師の働き方改革の推進状況について

（鹿児島県）

<提案要旨>

勤務医の時間外労働規制が、2024年4月からスタートする。鹿児島県医師会では、令和2年度から「医師の働き方改革検討委員会」を立ち上げ、県医療勤務環境改善支援センターなどと連携し、県医報への特集連載「働き方改革」やセミナーを企画するなど、情報提供に取り組んできた。

鹿児島県医師会では、会員医療機関の働き方改革の進捗把握のための実態調査を実施し、現状をふまえ、客観的労働時間の把握方法、36協定の締結、宿日直許可申請を重点事項として、県、県医療勤務環境改善支援センター、労働局と連携し、セミナーや医療機関の個別相談などを企画して対応する予定である。

医師の働き方に対する各県の取組み状況と、医師派遣元となる大学病院などの協議状況などがあればご教示いただきたい。また離島へき地を多く抱える鹿児島県においては、医師の偏在、医師不足が解消されていない中での医師の働き方改革を求めることは、地域医療の崩壊が大いに懸念される。離島の会員からも厳しい意見が上がっている。日本医師会におかれては、医師の働き方改革により地域医療が崩壊することのないよう、地域医療の特性に合わせた弾力的な対応を国に求めていただきたい。

各県回答 各県から医師の働き方改革の実施に向けた取組み状況、協議状況などが報告された。

江澤日医常任理事 各県共通しているのは、宿日直許可申請に関することだと理解している。厚労省から都道府県に発出された「医療

機関の医師の宿日直許可に関する取扱いについて」は、日医と厚労省が協議を重ねて発出したものであり、宿日直許可申請が今後着実に進むことを期待している。現状において困った点があれば、日医へ相談していただきたい。

4月に日本医師会は、医療機関の勤務環境評価センター指定法人に指定された。評価事業を通じて取組みの支援を行うことが役割と考えている。

日医としては、地域医療が崩壊することがないように進めていくことを強く主張していく。

2 医療DXの進め方について（長崎県）

<提案要旨>

令和4年6月7日に開かれた臨時閣議にて「骨太の方針2022」が決定された。この中には“2023年4月までにマイナンバーカードを用いた保険証のオンライン資格確認の義務化”が記載されており、全医療機関がこれに対応しなくてはならなくなった。

各県医師会、郡市医師会、特に日本医師会は「ただDXを推進する」と説明するだけでなく会員に対し

①どのようにしたら医療データをアナログからデジタル化できるのか。

②デジタル化の費用対効果

③デジタル化のためのさまざまな医療関連、

医療事務関連企業の紹介

などを具体的に示し、過保護すぎるくらい指導を行うべきである。

日医には今後の具体的な医療DX推進についての方策をお聞かせ願いたい。また、日医および九州各県医師会にオンライン資格確認導入の具体的な対応についてお尋ねしたい。

各県回答 各県ともオンライン資格確認の導入について、医療機関への周知を行っているが、導入困難な医療機関への対応などはこれ

からという状況であった。

江澤日医常任理事 日医では、医療DXは推進するものだと考えており、安心・安全で質の高い医療の提供を目的として共有している。オンライン資格確認については、中医協で議論する中で、補助金の拡充、診療報酬上の新たな加算が設けられた。基本診療料が恒常的に上乘せされることは異例である。

お困りごとがあれば、日医の相談窓口へ相談していただきたい。

3 専門医制度における医師偏在対策への対応について（熊本県）

<提案要旨>

新たな専門医制度においては、シーリングを行うことにより、効果的な偏在是正を行うこととなっている。本制度は地方としては一定の評価ができるものである。

一方で、日本専門医機構で新設が検討されている「特別地域連携プログラム」については、他県から専攻医を受け入れた場合の本県内での研修の流れなどが不明瞭であり、その対応に苦慮している。九州各県での「特別地域連携プログラム」に対する見解をご教示いただきたい。

また、都道府県ごとの偏在対策のみならず、県内の地域偏在対策にも資する制度となるよう期待しているが、日本医師会の見解をお願いしたい。

各県回答 各県から現状についての報告があった。また、特別地域連携プログラムに対しては、あまり九州には影響がないのではないかという意見があった。

江澤日医常任理事 専攻医のシーリングについては、専門研修による医師の地域偏在などが助長されないように、日本専門医機構が具体的な方策を立案することになっている。構

内の地域医療定員問題検討委員会には、日本医師会からも委員として参加しているので、しっかりと主張していきたい。

また、2年に1度の医師届出票の提出が近づいている。日医の主張より、主たる勤務先ではなく、従たる勤務先、兼業先も把握するようになったため、こうしたデータも活用しながら地域の实情に応じて推進していくことが必要である。

4 地域における医師確保について（佐賀県）

<提案要旨>

地域医療対策協議会は各県に設置されているが、佐賀県では、医師の臨床研修に関する事項の調査検討のため、佐賀県地域医療対策協議会の下に臨床研修ワーキンググループが設置されている。

今年度は、研修プログラムの名称見直し、学生のニーズに合ったプログラムの見直し、研修プログラムの魅力化を図り、学生へ働きかけることについて協議、意見交換していくこととしている。

各県においては、研修医の県内定着のために、どのような取組みや工夫をされているかお伺いしたい。

各県回答 各県からマッチング状況や研修医県内定着のための取組みについて報告があった。

江澤日医常任理事 日医では、研修医の県内定着について、全国医学部長病長会議などで提言し推進しているが、松本会長になり日医として力を入れているのが医師会の組織率強化である。研修医の先生方に医師会、そして、地域医療に従事していただく大切さを理解していただきたい。

来年度より減免期間の対象を卒後5年目まで延長する方向としており、各都道府県・各郡市区医師会が足並みを揃えることが効果的

である。財政などの影響もあるため、ご協力いただける場合にはご検討いただきたい。

5 新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正について（沖縄県）

<提案要旨>

新型コロナウイルスは新型インフルエンザ等対策特別措置法を根拠に多様な現場対応がなされている。この特措法は、鳥インフルエンザが季節性インフルエンザと同程度の感染力を獲得した際への対応根拠の法律である。そして各県において具体的な実行計画が策定されている。

しかしながら事前に準備されている計画はほとんど意味をなしていないようにも感じる。今後の法改正においては拙速を避け、今回の事態の十分な振り返りと課題整理の後行っていただきたいと考えるが、各県および日医のご意見をお伺いしたい。

各県回答 各県ともに、提案内容に同調する意見であった。

江澤日医常任理事 新型コロナウイルスのこれまでの状況をふまえ、感染症法、地域保健法、健康保険法、医療法などの改正を予定している。常に日医執行部は厚労省と協議を重ねているが、先生方のご意見をふまえながら国としっかりと協議していきたい。知事の権限強化により、公立公的医療機関などと病床確保や発熱外来の協定を締結することになっているが、これは全国地域で築き上げてきたコロナの医療提供体制を着実に安定化しているとするものであることをご理解いただきたい。

今後、予防計画策定にあたって、協議の場が設けられると想定されるが、医師会が関与し、意見を述べることが重要だと考えている。

6 医療従事者の安全確保について（福岡県）

<提案要旨>

全国で医師を含む医療従事者が診療に関連する事件に巻き込まれるケースが多発していることから、福岡県では、県行政および県警察本部、訪問看護ステーション連絡協議会の協力のもと、暴力・暴言への対策啓発ポスターおよびチラシを作成し会員医療機関に配布した。

更に、6月末には県警と協議し、県警から各警察署に対し各医師会と緊密な連携および安全確保に資する必要な支援を的確に実施するよう指示がなされた。

今後も県警と緊密な連携を図り、医療従事者の安全確保のための取組みを推進していくが、各県における医療従事者の安全確保に向けた取組みについてご教示いただきたい。

各県回答 多くの県で医療従事者の安全確保のための協議や講演が実施、または実施予定であった。鹿児島県では県警、県防犯協会、医師会などで構成する協議会を設置し具体的な取組みを行っていた。

江澤日医常任理事 医療、介護、特に訪問の現場において注意すべき共通の重要課題であると認識している。日医では「医療従事者の安全を確保するための対策検討委員会」を設置した。

今後喫緊に取り組むことは、「危険察知力の情勢」、「応召義務の正しい理解」、「相談窓口の構築」、「警察との連携構築」、「各医療機関における防犯対策」、「地域における危険情報を共有するネットワークの構築」としている。現実には危機が差し迫った状況では、警察との連携が極めて重要であるという意見が委員会で強調されたことを受けて、日本医師会長から警察庁長官宛に、医療機関の安全支援

を的確に行っていただくよう文書で依頼し、同日に警察庁から全国の警察本部に通知が出されている。医師会と県警が連携して対応いただきたい。

7 外来機能報告制度について（宮崎県）

<提案要旨>

外来機能報告制度が創設され、医療機関が都道府県に対して外来医療の実施状況や紹介受診重点医療機関となる意向の有無などの報告が始まろうとしている。各県の状況についてお伺いしたい。

また、かかりつけ医の機能強化の議論も始まってきている。日医のお考えをお伺いしたい。

各県回答 各県から進捗状況や今後の進め方について報告があった。各県ともに外来機能報告の結果を受け、地域医療調整会議で紹介受診重点医療機関の協議を行うこととなっている。

江澤日医常任理事 10月1日から従前の病床機能報告に加えて外来機能報告が始まっている。紹介受診重点医療機関は医療資源を重点的に投入するような外来となり、その医療機関でしかできないような外来治療、放射線治療などを中心的に担っていただき、かかりつけ医においては、一般的な疾患をご対応いただくこととなる。外来機能計画は、役割分担と連携をしっかりと図っていくためのものである。

地域医療構想調整会議が主になって紹介受診重点医療機関として相応しいかどうかという議論を行うこととなる。今年度中の選定が求められているので、来年早々にも各地区で議論が始まると思うが、地域の医療提供体制に支障をきたさないように協議していただきたい。

出席者－山村副会長、
市来・吉田・金丸・赤須・大塚常任理事、
峰松・山中理事、田崎係長

医療保険対策協議会



医療保険対策協議会は、吉賀常任理事（大分県医）の開会宣言の後、協議に先立ち、内田副会長（大分県医）および長島常任理事（日医）の挨拶があった。続いて、慣例により担当県の内田副会長（大分県医）が議長に選出され、各県からあらかじめ提出された8つの提案事項について協議が行われた。

1 重症度、医療・看護必要度について（長崎県） ＜提案要旨＞

A項目（専門的な治療・処置）、B項目（患者の状況など）、C項目（手術など）の3項目の組み合わせで算定される「重症度、医療・看護必要度」（以下、看護必要度）は、2020年および2022年の診療報酬改定で見直されたが、例えばB項目については、今回意思疎通や危険行動の有無は評価から外された。看護の本質と言えるB項目だが、むしろ医療処置必要度の要素が強く、看護本来の要素は排除されている。手がかかる患者さんが多くても看護基準は得られないので、看護配置は充分にできなくなり看護の量、質共に低下、つ

まり医療の質は下がらざるを得ない。本来の看護、看護必要度を評価せずに医療必要度（医療処置）中心で看護基準を評価するのは、今後の医療を考えると問題が大きく、時代の要請に即していない。今後のB項目の評価に関して今一度再考する必要がある。

各県回答 各県賛同。福岡県からは、当初看護配置を評価するための指標として導入された経緯があるが、現在は機能分化を推し進めるためのツールになっている。医療必要度と看護必要度を分離し、現実に即した診療報酬上の評価をすべきとの意見が出た。

長島日医常任理事 中医協の議論では、「コロナの影響で医療提供体制が逼迫する中、急性期医療の評価対象を厳格化する議論は到底賛成できない。新興感染症にも対応できる充実した医療提供体制を構築するため急性期入院料を評価するのであれば、現行より更に充実した評価がなされるべきで、到底承認できるものではない」と主張してきたが、診療側と支払側の主張の隔たりが埋まらず結果的には公益裁定となり今回の改定内容となった。改定の影響については今後引き続き調査検証を行うこととなっているため、今回改定の評価とともに見直しのための意見をエビデンスとともに提出していただきたい。

2 光熱費等の高騰に係る診療報酬の手当について（熊本県）

＜提案要旨＞

物価高騰の影響を受けている医療機関に対し、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用が示されているが、熊本県では、県の予算化は、困難となっている。地方自治体において診療報酬として補填されることを要望されているようだが、各県の現状と今後の見通しについて日医の考えをお伺い

したい。

各県回答 福岡県では、病院および4床以上の診療所に対し1床あたり3万円、3床以下の診療所に対し10万円に加え薬局や介護施設などへの給付も決定している。その一方、予算化の予定がない県や予算化されたが医療機関に対する具体的な配分が示されていない県もあり、各県の対応にばらつきがあった。鹿児島県からは、市町村や都道府県での格差が生まれ不平等感があるため全国统一した基準での補助となるよう国への働きかけについて要望があった。また、長崎県と宮崎県からは、診療報酬での補填を要望した。

長島日医常任理事 本交付金については、6月に医療機関などにおいても地方公共団体の判断で活用できるという厚労省の事務連絡が発出されたが、実際には医療機関の活用が少なかったため、7月に日本医師会をはじめ全日本病院協会などを含む10団体連名で、厚生労働大臣へ医療機関・介護事業所などにおける物価高騰への支援の拡充に関する要望書を手交した。9月、本交付金の増額強化として6千億円の創設が決定し、その後の閣議決定で事業者支援の筆頭に医療・介護施設などがあがった。交付金の活用については、各自治体での予算化が極めて重要であるため、各県医師会において県、市町村行政および議会に対し働きかけをお願いしたい。また、診療報酬による対応もごもっともな意見であるが、非常に大きな財源の確保が必要となるため、今後、全国の医師会が丸となって政治的対応を含め取り組む必要がある。

※3～6は一括協議

3 外来感染対策向上加算に係る施設基準の要件について（福岡県）

<提案要旨>

令和4年度の診療報酬改定で外来感染対策向上加算が新設された。令和4年8月1日時点で当該加算の届出受理医療機関数は740件で、県内診療所の2割にも満たない。本加算の施設基準要件17項目を全て満たすことは難しく、医療機関が届出をすることができなかったと推測される。有事にも対応できる体制の構築や、地域全体で対応することを考慮すれば、本加算の要件緩和および点数の引き上げが必要である。

4 外来感染対策向上加算について（鹿児島県） <提案要旨>

外来感染対策向上加算の施設基準で求められているカンファレンスや訓練の内容については、厚労省から疑義解釈が出ているが、実施に向けた十分な内容が示されているとはいえない。感染対策向上加算1（以下、加算1）を届出ている医療機関の負担や各加算に求められるカンファレンスの内容について疑問の声が上がっている。新型コロナの重点医療機関に限られている加算1の対象医療機関の条件や負担の緩和、外来感染対策向上加算に関する中医協などでの検討状況について伺いたい。また、各県においてのカンファレンスや訓練の開催の有無、もし開催されていれば開催形式や内容について、更に県医師会がどのように関与されたかをご教示いただきたい。

5 外来感染対策向上加算について（佐賀県） <提案要旨>

外来感染対策向上加算は、施設基準が厳しい一方、それに見合う点数とは言い難い。また、施設基準にあるカンファレンスおよび訓練を実施することが困難な郡市医師会や感染対策向上加算1医療機関もあり、対応に苦慮している。本加算の施設基準の要件緩和および点数の引き上げを要望する。また、各県お

よび日医のご意見を伺いたい。

6 外来感染対策向上加算について（宮崎県）

<提案要旨>

4月の時点では、どの医療機関が加算1に届出のかかわからない状況であったため、窮余の策として、加算1医療機関または郡市医師会との連携が難しい場合には、宮崎県医師会と記載して届出をするよう案内をしていた。その後、加算1医療機関が主体となり、連携の組み合わせやカンファレンス・訓練の開催について検討され、更に次の段階として、県が主体となり宮崎県医師会も参画して、本加算のことだけでなく感染症医療体制について協議する場が設置される予定である。施設基準にある「地域の医師会」の役割については、多くの疑義解釈が出ているものの非常に分かりにくく、地域の医師会にとってはハードルが高い。また、本加算の趣旨から考えると、できるだけ多くの診療所が届出することが重要であるが、要件の厳しさや、点数の低さもあり、届出は多くはない。日医には国に対して要件の緩和や点数の引き上げを要望する。また、各県の状況や県医師会の関わり方をお伺いしたい。

各県回答 各県賛同。各県とも届出医療機関数が少ない状況があり、要件緩和や点数の引き上げを要望した。また、施設基準のカンファレンスや訓練については、熊本県では、これまでのコロナ対応の延長ととらえ、加算1医療機関や郡市医師会が中心となりすでに開催されたとの報告があったが、まだ実施されていない県がほとんどであった。県医師会の関わり方としては、ほとんどの県で後方支援の立場として考えている状況であった。

長島日医常任理事 九州以外の他のブロックからも批判があがっており、要件緩和や点数

の引き上げについては、次期改定に向けた重要課題として認識している。本加算は、個別の医療機関のみならず地域全体が面となった感染対策などを評価することになっており、更に行政との連携も求められる。この方向性はよいが、届出書も非常に解りにくく日医から例示を示したところである。また、点数については、大変厳しい財源の中で勝ち取ったものである。各地域医師会が中心となり、病院と診療所の連携促進の支援を継続していただきたい。なお、日医社会保険診療報酬検討委員会において、令和4年度改定の評価および次期改定に向けての要望のとりまとめを行うので、具体的な問題点と改善点についてエビデンスをもってご教示いただきたい。

7 新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いについて（沖縄県）

<提案要旨>

新型コロナに係る診療報酬上の臨時的な取扱いを、少なくとも次回診療報酬改定まで継続とするよう要望する。感染力や臨床症状、死亡率、後遺症などの問題を鑑みると、風邪症候群と同等に扱うには時期尚早と言わざるを得ない。例えば、発熱患者などのトリアージや軽症で在宅療養が可能な陽性者に対する電話再診は重要な選択肢の一つとして残すべきで、診療報酬上の臨時的な取扱いは、コロナの出口戦略を考えるうえでも不可欠で、当面継続すべきと考える。各県および日医のご意見を伺いたい。

各県回答 各県賛同。医療現場に見合う適切な評価を要望した。

長島日医常任理事 厚労省保険局から“その77”まで発出されいてる新型コロナに係る診療報酬上の臨時的な取扱いは、期限付きの特例以外は、終了の事務連絡が発出されない限

り継続されるものと考えている。今後も地域医療の状況を勘案し、継続が必要なもの、または新たな評価が必要なものについて皆様のご意見をしっかり受け止め、国に要請していく。

8 医療用解熱鎮痛薬の安定供給について

(大分県)

<提案要旨>

医療用解熱鎮痛剤については、急激な需要の増加に対し、少し多めに注文してしまうのは心情として理解できるが、普段少量ずつしか注文していない零細な院内処方クリニックは在庫が減少しても新たな取引先として相手にしてもらえず、供給不足の影響を受けやすい。今後の感染症の蔓延によっては他の薬剤や検査キット、防護具などにも供給不足が広がる懸念がある。今後は、急激な注文増加に買い込みを抑制するため時限的に実績の報告や大量返品 of 医療機関や調剤薬局の公表など臨時的な対抗策を講じる必要がある。

各県回答 各県賛同。佐賀県と沖縄県からは、国に対して、需要に対応できる万全な供給体制の構築について、国への対策を求めた。

長島日医常任理事 本件については、極めて重要課題として認識しており、8月25日付で、日本製薬団体連合会長、日本製薬工業協会会長および日本ジェネリック製薬協会会長に対し、「解熱鎮痛剤の安定供給に向けた取り組みについて」を発出し、増産に努めていただくよう強く要望し、各団体において対応いただいている。引き続き、その対応を注視し、国に対しても安定供給について要望していく。

最後に吉賀常任理事（大分県医）から、オンライン資格確認システムの県内の導入状況について報告があり導入率の低さなどについ

ての問題提起があった。これに対し、長島常任理事（日医）から、「まずは業者から見積もりを取ることを会員へ周知していただきたい。見積もりを取ることで、業者の対応状況や費用が確認でき、各医療機関における課題が明らかになるので、見積もりを取ったうえで、問題点を日医にお寄せいただきたい」と要請があった。

出席者－嶋本常任理事、玉置・田畑理事、
湯浅課長補佐

介護保険対策協議会



井上常任理事（大分県医）の進行により開会、座長に植山副会長（大分県医）が選出された。協議は各県からあらかじめ提案された6つの議題について、2、6を先に協議して、関連する内容の議題1、3、4、5は一括して今村常任理事（日医）がコメントした。

2 原油価格・物価高騰に対する介護現場への支援について（佐賀県）

<提案要旨>

コロナ禍による感染対策経費負担に加え、原油価格・物価高騰による水道光熱費、ガソリン代、食材費などの経費負担の増加が、収益環境を圧迫している。介護事業者は経営体

力が乏しい中小規模の事業者が多く、値上がり分を事業者側が負担するのにも限度があり、物価高騰による経営難で倒産や撤退が相次ぐ事態になれば、介護サービスの提供に支障が出てくる恐れがある。自治体の判断により「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を介護事業所などを対象とした支援事業に活用できるとされているが、各県における支援事業の実施状況をお伺いするとともに、日医には今後の財政支援の見直しおよび介護報酬による臨時的な措置の可能性などについてお伺いしたい。

各県回答 各県とも介護施設における物価高による経営コスト増は顕著であるが、交付金の活用状況は自治体により異なり、医師会から自治体への更なる働きかけが必要との意見が出された。福岡県では、介護報酬に転嫁すると恒久的財源となり利用者負担が増えるため、県民の理解を得にくいことから、昨年末から県議会に働きかけを行い、補正予算確保のため協議を行ったとのことであった。結果、病院・4床以上の診療所は1床あたり3万円、3床以下の診療所は一律10万円、介護施設は入所者定員1人あたり3万円の給付を行うなど、医療機関および介護事業所への支援の実施に至っていた。

今村日医常任理事 日医からの令和4年9月14日付文書のとおり、新たに6000億円規模の「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」がついた。日医が国とかけあったことで医療・介護への支援が国の推奨事業の一番に挙がっている。県と市町村分の2本立てかつ10分の10の交付金である。県や市町村の負担は無いため、医師会から各自治体に積極的に働きかけていただきたい。具体的な動きは、福岡などを参考にしてほしい。

6 介護人材（外国人材を含む）の中長期的な確保策について（鹿児島）

<提案要旨>

介護人材の確保のための外国人材の受入れについて、鹿児島県では、厚労省がモデル事業として実施した「介護特定技能マッチング支援事業」に参加し、33施設、延べ105人が県内の介護事業所とのマッチングに成功した。他業種と比べ介護分野のニーズが圧倒的に高かったことから、今年度、地域医療介護総合確保基金を活用し、県独自事業として同様の事業を実施する。各県において、介護人材の確保（外国人材も含む）の取組や、好事例などがあればご教示願いたい。

各県回答 各県のさまざまな取組みが紹介された。熊本県では「1 新規参入」「2 定着支援」「3 処遇改善」の3つの観点からさまざまな取組みを行っており、学生へ介護の魅力を伝えるイベントや、介護施設への介護ロボットの導入支援、キャリアパスの導入支援などを行っていた。宮崎県医師会としても、外国人材と国内の若手人材にとって介護職が選ばれる職業となるために、抜本的な対応策が求められていると回答した。

今村日医常任理事 日医では看護職の育成には力を入れているが、介護分野について人材確保までは検討がなされていない。東北では人材不足が10年先行しているが、九州でも厳しい状況となってきた。香川県において、スタッフの半数が外国人となったため、同郷の外国人が村を作って定住し、新規の外国人が安心して働けるという好事例がある。これら好事例について発信していきたい。

1 介護給付と地域支援事業～要介護軽度者への介護サービスが地域支援事業に移行される事態について～（熊本県）

<提案要旨>

昨年末より経済財政諮問会議などにおいて、社会保障制度の財源抑制に向けた議論がなされ、介護保険分野では要介護軽度者に対する生活援助サービスなどの見直しおよび地域支援事業への移行などが提起されている。要介護1, 2の中には医療の介入を必要とする方々が少なくない。これらの方々のケア介入が医療関係者から離れていく状況は国の社会保障制度に対する国民の不安が募る要因となるのではないかと。また、地域包括ケアシステムの充実に向けてADL機能改善や介護重度化防止に努めてきた多くの医療機関の役割はどのように変化し対応すべきか。日医の見解を伺いたい。

各県回答 各県とも、介護予防への取り組みには地域差があり、地域支援事業への移行にあたっては、全体的に受入れ体制が十分と言えない状況であるとの意見であった。鹿児島県からは、持続可能なサービス提供と高齢者やその家族の視点に立ち、制度化の問題点について、大規模実態調査や検証議論がなされないまま地域支援事業に移行するのはリスクが高く、十分に検討を重ねていくべきであるとの回答があった。

3 医師会における高齢者施設等を対象とした感染症対策について（福岡県）**<提案要旨>**

高齢者施設等で感染症が一旦発生すると、クラスターになる可能性が高く、適切な感染予防対策を確実に行う必要がある。一方で、高齢者施設の集団活動は、高齢者の生活機能や認知機能の保持・増進に欠かせないものであるため、集団活動を継続するうえでの感染対策の留意事項を十分に理解しておく必要がある。各県において高齢者施設等における感

染対策として独自に取り組んでいるものがあるれば伺いたい。

各県回答 ほとんどの県で、行政主導もしくは行政との協働により研修会実施などの取り組みが行われていた。独自の取り組みとして、熊本県において、高齢者施設や医師会、医療機関などが二次医療圏ごとに連携し、医療従事者などで構成したチームによる派遣体制を構築し、嘱託医などで対応できない施設を対象に派遣する事業を行っていた。

4 特養における配置医師に関する課題について（長崎県）**<提案要旨>**

新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、福祉施設の感染症への脆弱性が露呈した。特に特養では入所者の介護度や医療必要度が重篤化しており、慢性期医療機関との棲み分けが曖昧になりつつある状況下でのコロナ感染の結果、配置医師が機能しない、もしくは配置医師に限度を超える負担がかかる状況になっている。

今後は医療必要度を見直し、特養と慢性期病棟の差別化を図るとともに、配置医師の制度を再検討し、質の向上を目指すべきと思われる。配置医師どうしが情報交換できる場を日医に作っていただければ有難いと思うが、日医や他県の意見を伺いたい。

各県回答 福岡県より、特養における配置医師制度は老人福祉法下によって制度化されたものであり、古い制度設計が実態に対応できず多くの矛盾を生むようになっているとの回答があった。宮崎県ではクラスターが起きた高齢者施設に対し、医師もしくは医師と看護師のチームを派遣する事業を行っており、複数の医療機関が協力している。配置医師どうしが情報交換を行う場を設けることに対して

賛成の意見が多く挙がった。

5 高齢者施設における看護師との連携について（宮崎県）

<提案要旨>

高齢者施設で点滴治療などの医療行為が必要な際、原則は訪問看護ステーションの看護師に特別指示書と点滴指示書を出して対応している。しかし訪問看護ステーションが定期的に入っていない患者の場合、急変時だけ訪問看護ステーションに依頼することは困難なため、自院の看護師を派遣しているが、コロナ対応により人員の調整ができないことも多い。高齢者施設の看護師に指示を出し点滴などを行うことができればいいが、事故が起きた場合の責任の問題から、施設長が許可しないことがほとんどである。

施設を終の住処とする人が増える一方で、看護師不足も深刻であり、施設看護師の医療行為への関与を求めることが重要だと考える。各県の状況と日医見解についてお伺いしたい。

各県回答 各県より、新型コロナの感染拡大により高齢者施設の医療介入のケースが増え、施設看護師の医療行為への介入について、議論を進めるべきとの回答が多く挙がっ

た。種々の法的整備と看護師個人の資質の担保、施設長の理解および主治医との連携強化も必要であるとの回答があった。

今村日医常任理事 1の問題について、介護支援事業の見直しで、介護予防給付の部分が新しい介護予防・日常生活総合支援事業とまとめられてしまった。今回、要介護1、2の中の、特に訪問型サービスの掃除や洗濯などの日常生活上の支援提供を外そうという声が出ている。今回の見直しは財源上の問題から発している。日医としては、安易な移行は大きな問題があり、争点になると考えている。また、在宅医療介護連携推進事業もすでに始動しているが、行政・医師会・各医療機関が連携して行う在宅医療と介護連携の進捗に、地域間差が出てきている。今回の新型コロナウイルスへの対応において、地域の皆さんからもあらためて医師会の存在の大きさが認められたのではないかと思う。松本会長のマニフェストの1つとして、医師会は今後ますます地域を支援していかなくてはならないと述べられている。医師会が地域に無くてはならない存在として成果を出していただくことで、結果としてしっかりと診療報酬もしくは介護報酬として反映されるのではないかと思う。

出席者－石川・荒木・吉見常任理事、
河原理事、横山主事

医療機関の経営者・管理者の皆様へ

医療勤務環境 改善支援センターを ご利用ください

県下の社会保険労務士と医業経営コンサルタントが県内の医療機関からの医療勤務環境の相談内容に応じて専門的な助言・支援を行います。

医療労務管理相談

- スタッフが長く、安心して働ける職場にしたい!
- 育児・介護中の休み方、働き方は?
- 医師の負担を軽減させたい…

医業経営面

- スタッフのキャリアを磨きたい!
- 補助制度を上手に活用したい。
- 効率良く、経営を安定させたい。

相談
無料



まずは、お電話ください。

宮崎県医療勤務環境改善支援センター

公益社団法人宮崎県医師会内

月曜～金曜 午前10時から午後4時まで

TEL.0985-20-1211

FAX.0985-27-6550

E-mail iryou-kinmukaizen@miyazaki.med.or.jp

日医インターネットニュースから

■コロナの新変異株、割合増加に注視必要 — 松本会長 —

松本吉郎会長は11月30日の会見で、新型コロナウイルス感染症の感染状況について、「国内では現在BA.5系統が主流となっているが、BQ.1系統やXBB系統などの新たな変異株が占める割合の増加についても今後注視が必要だ」と述べた。

松本会長は、現状について「第7波のような爆発的な感染者数の上昇カーブではないものの、連日約10万人規模の新規感染者数となっている」と説明。これまでの変異株はオミクロン株の派生型であり、現在接種が進んでいるオミクロン株対応ワクチンによる重症化予防効果が期待できるとし、「ワクチン接種の一層の推進が重要だ」と強調した。

病床使用率については、地域差があるものの、全国的に上昇傾向にあると指摘。今後、コロナ重症患者の増加が一般医療の制約につながらないよう、感染者数を抑えていくことが必要だとした。「今後の変異株の置き換わり状況や、年末年始に向けて社会経済活動の活発化による接触機会の増加等が、感染状況に与える影響について引き続き注視していきたい」と語った。

コロナと季節性インフルエンザの同時期の流行に備え、都道府県医師会や郡市区医師会が取り組んでいる年末年始に向けた対応状況も紹介。「診療・検査医療機関の数をこれ以上なかなか増やすことが難しくても、全国の医師会は休日・時間外の診療時間を拡大したり、かかりつけ以外の患者にも対応したりして、発熱外来診療体制のさらなる強化に努めている」と力を込めた。（令和4年12月2日）

■同時流行へ外来体制強化の方針発表 — 「最大90万人」診療可能に・厚労省 —

厚生労働省は12月2日、新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの同時流行に備え、外来医療体制の強化に向けた方針を発表した。都道府県による外来医療体制整備計画の強化策や、それに基づく今後の診察能力をまとめたもので、全国の診療能力は最大で1日当たり

90万人に強化できるとした。加藤勝信厚生労働相は2日の閣議後会見で「ピーク時の発熱外来等の受診見込み者数約75万人を、一定程度上回る診療能力が確保される見通しとなった」と述べた。

各都道府県は医師会とも協議した上で、ピーク時の患者数や発熱外来等の受診見込み者数（需要）を推計したほか、発熱外来等の診療能力（供給）を把握した。需要と供給の比較検討を踏まえ、外来医療体制を強化する計画を策定した。

●コロナ・インフル患者、ピーク時81万人

全国の需要推計では、ピーク時の1日当たりの患者数（コロナ・インフル患者数の合計）は約81万人。そのうち、発熱外来等の受診見込み数が約75万人、健康フォローアップセンターに登録して自宅療養する人の見込み数が約7万人だ。

計画に基づく体制強化で、全国の最大診療能力は約90万人に増加し、従来の診察能力の約76万人を上回るとしている。内訳を見ると、最大で、発熱外来等が約87万人、電話・オンライン診療（自治体が関与・要請分）が約2.3万人だ。

土曜日の診療能力は最大で約55万人（従来は約45万人）、日曜祝日は最大で約23万人（約12万人）にそれぞれ強化する。

発熱外来等の強化のために、▽診療時間の拡大（計画する都道府県数は42）▽発熱外来の箇所数の増加（33）▽かかりつけ患者以外への対応（16）—などの対応を組み合わせる方針だ。医療関係者の協力を得て、地域外来・検査センターの強化（16）に取り組む地域もある。

●臨時オンライン発熱診療センター開設も

電話・オンライン診療では、大都市部を中心に14都道府県が、外来の逼迫時に備えて対面診療を補完する体制を強化する。例えば東京都では、今後の感染状況に応じて、臨時オンライン発熱診療センターを開設する予定だ。大阪府では、24時間対応可能なオンライン診療・往診センターの運用をすでに始めている。

健康フォローアップセンターの体制強化も図る。登録内容の確認に従事する医師、看護師、事務職らの増強（31都道府県が計画）などにより、最大で1日当たり約20万人（従来は約8万人）を登録できるようにする。加藤厚労相は、

各都道府県は策定された計画に基づき、すでに取り組みを進めていることも紹介。「厚労省としても、この冬に向けて引き続き都道府県と緊密な連携を図りながら、多数の発熱患者が生じた場合にも、必要な方に必要な医療を提供できる保健医療体制の確保に万全を期していきたい」と話した。(令和4年12月6日)

■かかりつけ医機能の結論は持ち越し — 全社を踏まえ議論継続・医療部会 —

厚生労働省の社会保障審議会・医療部会(部会長＝永井良三・自治医科大学長)は12月5日、前回に続いて「かかりつけ医機能が発揮される制度整備」を議論したが、取りまとめには至らなかった。

今後、政府の全世代型社会保障構築会議の動きを踏まえながら、年内にも結論をまとめる予定だ。

厚生労働省医政局は前回、「かかりつけ医機能報告制度の創設による機能の充実・強化」「医療機能情報提供制度の拡充」を柱とした制度整備案を提示。

前回の議論を踏まえて5日に再び示した案では、患者との「かかりつけ関係」について、「医師により継続的な医学管理が必要と判断される患者に対して、患者が希望する場合に、医療機関が書面交付などにより、かかりつけ医機能として提供する医療の内容を説明する」と、文言を微修正した。

河本滋史委員(健保連専務理事)は、継続的な医学管理が必要と医師が判断した患者しか、かかりつけ医の書面交付を受けられないとの考え方を問題視。全社会議の「かかりつけ医機能の活用は、医療機関、患者それぞれの手上げ方式とすべき」との方針に合致していないと指摘した。「入り口で対象を狭めずに、国民・患者が希望した場合、書面交付を受けられるように

するべきだ」と訴えた。

相澤孝夫委員(日本病院会長)は、「診療を受けたいと言えば、その患者を包括的、全身的、あるいは総合的に診てくれる機能を持っている診療所が必要」だと説明。継続的な医学管理が必要と判断した患者へのかかりつけ医機能だけでなく、「最初に訪れる医療機関としてのかかりつけ医機能」も重要だと強調した。

島崎謙治委員(国際医療福祉大大学院教授)も、全人的対応ができるかかりつけ医機能の重要性に言及した。これまでに医政局が「かかりつけの関係は複数になり得る」と説明したことを踏まえ、「個々の診療所が臓器別の診療を行い、そこを全人的に診るというそれ(医師)がないというのは、『今と何が違うのか』という話になってしまう」と懸念。全人的対応の必要性を制度に盛り込むべきだとした。

釜范敏委員(日医常任理事)は、「一つの医療機関で全て満足できなければ、かかりつけ医の資格がないということではない」と述べた。その上で、「それぞれの医療機関が担える機能を明確に表明して、それに対して患者の方がその医療機関にかかりたいという意思を示してもらう中で、それぞれの合意が徐々に形成されていくことが極めて大事だ」と語った。

(令和4年12月9日)

■電子処方箋「開始目前」説明会 — 厚労省、23日にYoutubeで —

厚生労働省は12月23日午後7時から、来年1月に全国で導入が始まる電子処方箋のオンライン説明会をYouTubeで開く。「開始目前!これならできる」と銘打ち、過去の説明会に参加していなくても理解できるように基本から説明するという。導入の準備を始めている人向けに質疑応答の時間も用意する。

(令和4年12月9日)

日医インターネットニュースは、日本医師会のホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会 (<http://www.med.or.jp/>) >メンバーズ>日医インターネットニュース

メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザ ID: 会員 ID (日医刊行物送付番号) の10桁の数字(半角)

◆パスワード: 生年月日の「西暦の下2桁, 月2桁, 日2桁」の6桁の数字(半角)

医師協同組合だより

メディカル法人カードのご案内

経費・請求書など バックオフィス業務を効率化

カード年会費永年無料
盗難保険自動付帯



経営管理と資金運用の効率化を目的とした

医療法人・個人開業医院を対象とした法人カード

-- メディカル法人カードは様々なシーンでご利用いただけます --



光熱費



保険料



給油代



ETC



通信費



交際費



ネットショッピング



出張旅費



寄付金

メディカル法人カードのメリット

① 公私のお支払いを分けられる

個人用と法人・事業用にカードを分けて利用することにより、別々の明細書が発行できるので公私の利用分を分けることができます。

② 経費削減になる

オフィス用品や公共料金等といった経費の支払いを法人カードに一本化すれば指定口座からまとめて自動引落されるため、振込手数料の削減になります。

③ 複数枚の法人カードが発行できる

法人カードは複数枚発行できることから、社員に渡しておけば、オフィス用品購入時や出張などで支払った経費も、法人カードの支払いとして一括管理できます。

④ 公共料金のお支払いもできる

光熱費・電気料金・通話料金のお支払いもでき便利です。

⑤ ETCカードも同時発行可能

ETCカードも年会費永年無料で複数枚発行できます。



法人カードご希望の方は、
上記二次元コードから
申込書をご請求ください。

カードお申込み
お問い合わせ先

宮崎県医師協同組合
宮崎市和知川原1-101(宮崎県医師会館1F)
TEL (0985) 23-9100

株式会社 宮崎信販
宮崎市高千穂通1-3-30
TEL (0985) 28-7753

医師国保組合だより

歩こう会の開催中止について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、参加される組合員並びにご家族の皆様方の安全を考慮し、今年度も開催を見送ることとしましたのでお知らせいたします。

保健事業のご案内

実施期間：令和5年3月末日まで 請求期限：令和5年5月19日まで（必着）

1 健康診断（特定健診）・特定保健指導 ※無料です

健康診断（特定健診）

◆対象者

組合員・高齢組合員およびその配偶者（被保険者） ※配偶者は75歳の誕生日前日まで
上記以外の被保険者は、年度中に40歳～74歳になる方（年度中に75歳になる75歳未満の方を含む）
※年度中に40歳になる方～74歳の方は、特定健診対象者です。

◆日曜健診について

場所：宮崎市郡医師会病院健診センター（宮崎市大字有田1173番地）

日程：令和5年2月19日・3月5日・3月12日

申込方法：①～③いずれかの方法でお申込みください。

- ① スマートフォンなどから二次元バーコードへアクセスし申込 ⇒
- ② 県医師国保組合のWebページから申込
- ③ 県医師国保組合へお電話で申込（TEL 0985-22-6588）



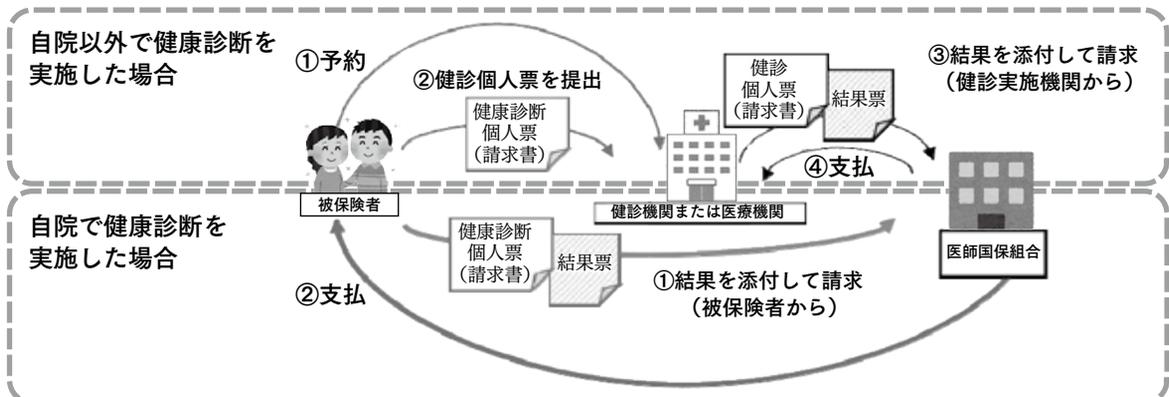
※日曜健診のオプション検査のうち、胃内視鏡検査および低ヘリカルCT肺がん検診は、すべての日程で定員に達しました。なお、マンモグラフィ検査は、2月19日のみ若干の空きがございます。

※平日・土曜日の健診のご予約・お問い合わせは健診センターへ直接お電話ください。
（TEL 0985-77-9108）

◆自家健診について

健康診断（特定健診を含む）を自院でも実施しても当組合に請求することができます。

その際は、健康診断個人票（黄色）の必須検査項目（★印の項目）を必ず実施してください。



特定保健指導

◆対象者

対象者には、当組合より利用券を送付します。

特定保健指導のご案内が届いた方は対象施設にご予約ください。

2 インフルエンザワクチン接種補助

◆対象者

被保険者全員並びに高齢組合員

◆補助金額

1人1回2,000円（高齢組合員は1,000円）

3 その他保健事業

請求方法などの詳細は、組合員宛に送付しております「保健事業のご案内」、または、当組合Webサイトをご覧ください。

- 1) 胃・大腸内視鏡検査の補助
- 2) 脳ドックなどの補助
- 3) 肺炎球菌ワクチン接種補助
- 4) 低線量ヘリカルCT肺がん検診（無料）
- 5) 乳がん検診（マンモグラフィ検査）の補助
- 6) 歯科健康診査（無料）

申請書は、
当組合Webサイトからもダウンロードできます。
<http://www.miyazaki.med.or.jp/kokuho/>

<国民健康保険 保険料納付済証明書の送付について>

確定申告の際に必要なとなります令和4年分国民健康保険 保険料納付済証明書について、組合員の先生方へ1月中旬に送付いたします。

証明書は、再発行いたしかねますので紛失しないようご注意ください。

<医師国保組合へのご加入について>

会員の先生にとって、廉価な保険料で充実した保健事業を提供する医師国保組合への加入をご検討ください。詳細については、当組合までお問合せください。

<健康保険適用除外申請の手続きについて>

医師国保組合にすでにご加入の方は、事業所が法人化するなどで健康保険の適用となる場合でも、健康保険適用除外の承認を受けることにより、引き続き当組合に残ることができます。

健康保険の適用除外承認申請が必要になったときは、事実の発生した日から必ず14日以内に年金事務所に届け出なければなりませんので、まずは当組合までお問い合わせください。

(問合せ先) 宮崎県医師国民健康保険組合
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地
TEL : 0985-22-6588 FAX : 0985-27-6550

12月のベストセラー（宮崎県）

集計：2022年12月1日～12月20日

1	変な絵	雨	穴	双葉社
2	小説すずめの戸締まり	新海	誠	KADOKAWA文庫
3	80歳の壁	和田	秀樹	幻冬舎新書
4	日々憶測	ヨシタケ	シンスケ	光村図書
5	変な家	雨	穴	双葉社
6	ラーゲリより愛を込めて	辺見	じゅん	文春文庫
7	20代で得た知見		F	KADOKAWA
8	死は存在しない	田坂	広志	光文社新書
9	運動脳	アンデシュ	・ハンセン	サンマーク出版
10	人は話し方が9割	永松	茂久	すばる舎



令和4年11月1日(火) 第13回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①県地方独立行政法人評価委員会委員の推薦について

→公立大学法人の業務実績に対して客観的な評価等を行う委員会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、山村副会長を推薦することが承認された。

2. 後援・共催名義等使用許可について

①健康教育講座事業「市民公開講座」ご後援のお願いについて

→「新型コロナウイルス感染症との共存・共生の時代に向けて身体的フレール予防」をテーマに開催される市民公開講座で、名義後援をすることが承認された。

3. R5.2/25(土)・26(日) 令和4年度日本医師会医療情報システム協議会の開催について

「医療DX2023 DX推進の現状と将来の展望-DX推進のためにできること、すべきこと-」をテーマに医師会会員および事務職員を対象に開催される協議会で、荒木常任理事と嶋本常任理事の出席が承認された。

4. 日本医師会の委員会委員の委嘱について

日本医師会が設置する委員会について、

予防接種・感染症危機管理対策委員会に峰松理事が就任することが承認された。

5. 令和5年秋の叙勲候補者の推薦について

学校医に対する叙勲で、各郡市医師会に照会の結果、1名を推薦することが承認された。

6. 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導の実施に係る立会いについて

1 医療機関を対象に行われる個別指導で、玉置理事を立会人として派遣することが承認された。

(報告事項)

1. 10月末日現在の会員数について

2. 10/28(金) (県医) 県医療事故調査支援団体連絡協議会・県医医療事故調査支援委員会合同会議について

3. 10/25(火) (県医) 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会について

4. 11/1(火) (県医) 県警察本部と県医師会との意見交換会について

5. 10/28(金) 県感染症医療提供体制ワーキンググループ会議について

6. 10/27(木) 生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)について

7. 10/30(日) (県医) 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会について

8. 10/28(金) (県庁) 日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議について

9. 10/26(水) (九州厚生局宮崎事務所) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

10. 10/26(水) (宮崎労働局) 労災診療指導委員会について

11. 10/26(水) (県医) 健康スポーツ医学委員会について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 11/15(火) (東京) 参議院議員自見はなこ政経

セミナーLIVE配信同時開催のご案内について

自見はなこ参議院議員の国政報告会で、協力することが承認された。

2. 12/10(土) (福岡)「自見はなこ社会保障政策懇話会」のご案内について

前厚生労働事務次官を講師に開催される懇話会で、協力することが承認された。

令和4年11月22日(火) 第11回全理事協議会

医師会関係 (議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①宮崎県障がい者差別解消支援協議会委員の推薦及び就任承諾について

→「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい宮崎県づくり条例」に基づき設置される協議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き山村副会長を推薦することが承認された。

②宮崎県個人情報保護審議会委員の委嘱について

→保有個人情報の開示及び利用停止並びに不作為に対する審査請求の審議等を行うために設置される審議会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き荒木常任理事を推薦することが承認された。

2. 後援・共催名義等使用許可について

①「地域におけるがん対策」情報共有セミナーの後援について

→HPVワクチンに関する最新の情報共有等を目的に行政や医療従事者を対象に開催されるセミナーで、名義後援を行うことが承認された。

3. R5.1/4(水) (宮観ホテル) 2023年寿(ことぶき) 新年賀詞交歓会のお知らせ

宮崎商工会議所主催で開催される新年の賀詞交歓会で、河野会長が出席することが承認された。

4. 郡市医師会からの忘年会の案内について

1 郡市医師会から案内があり、日頃の御礼も兼ね可能な限り参加することが承認された。

5. 第36回宮崎県医師会医学賞の推薦について

県医師会医学賞選考委員会が推薦する「宮崎大学附属病院におけるがんゲノム医療の現状と今後の課題」西田卓弘先生(第45巻第2号)を医学賞とすることが承認された。

6. 業務委託について

①令和4年度宮崎県医療計画策定に係る調査業務(入院患者実態調査)の委託について

→第8次医療計画の基礎資料とするための調査業務で、契約を締結することが承認された。

7. 地域医療支援病院等における医科歯科連携推進事業「医療連携会議」の開催について

口腔ケアの重要性や効果的な実施方法を検討する会議で、金丸常任理事が出席することが承認された。

8. 宮崎県生活習慣病検診管理指導協議会委員の推薦について

専門的な見地から検診医療機関を指導すること等を目的に設置される協議会で、県医師会代表として役員から6名の推薦と医療従事者区分については現委員に再任の意向を確認した上で推薦手続きを進めることが承認された。

9. 12/8(木)・12/9(金) 厚生労働省並びに九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の特定共同指導の実施に係る立会いについて

1 医療機関を対象に行われる特定共同指

導で、荒木常任理事及び嶋本常任理事を立
会人として派遣することが承認された。

10. 宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦について

9/27の全理事協議会で選任基準の定めにより選任を行うことが承認され、県医師会及び郡市医師会並びに各専門分科医会
で人選した結果、保険医代表15名、保険者代表14名、欠員に伴う公益代表候補1名を推薦することが承認された。

11. 延岡看護専門学校（看護師養成課程3年）開設に伴うご賛同について

延岡看護専門学校開設までの流れが説明され、開設に賛同することが承認された。

（報告事項）

1. 週間報告について
2. 11/9(水) (日医) 日医有床診療所委員会について
3. 11/15(火) (県医) 日医理事会等について
4. 11/15(火) (県医) 都道府県医師会会長会議について
5. 11/12(土) (都城) 都城看護専門学校創立70周年記念式典について
6. 11/3(木・祝) (ハイビスカスG.C.) 県医親善ゴルフ大会について
7. 11/10(木) (県庁) 県個人情報保護審議会について
8. 11/14(月)・21(月) 広報委員会について
9. 11/14(月) (県医) 医学賞選考委員会について
10. 11/7(月) 県自殺対策推進協議会について
11. 11/16(水) 日医医療経営検討委員会について
12. 11/19(土) (県医) 県プライマリ・ケア研究会世話人会・総会・研修会について
13. 11/20(日) (イオンモール宮崎) 世界糖尿病デー in 宮崎2022県民公開講座について
14. 11/21(月) (宮大医学部) 宮大医学部附属病院医師研修管理委員会について
15. 10/27(木) 「医療機関の宿日直許可制度」に関

する研修会について

16. 11/9(水) (県看護協会) 県訪問看護推進協議会について
17. 11/11(金) (日医) 日医医療秘書認定試験委員会について
18. 11/4(金) (県医) 認知症サポート医・かかりつけ医スキルアップ研修会について
19. 11/7(月) (県医) 県認知症疾患医療センター合同会議について
20. 11/12(土) (県医) 生活習慣病検診従事者研修会（肺・乳・胃・大腸がん検診研修会）について
21. 11/18(金) (県医) 介護保険委員会について
22. 11/5(土) (福岡) 九州学校検診協議会専門委員会について
23. 11/5(土) (福岡) 九州各県医師会学校保健担当理事者会について
24. 11/20(日) (県医) かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修会について
25. 11/15(火) (県医) 県・市町村との妊婦健診等に関する協議会について
26. 医療・福祉分野における物価高騰対策緊急支援事業について
27. 11/7(月) (県医) 健康教育委員会について
28. 11/5(土) (県医) 全国有床診療所連絡協議会役員会・総会・講演会について
29. 10/26(水)・27(木) (県医) 女性医師等保育支援サービス事業サポート会員養成講座について
30. 11/19(土) (県医) 日医女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議について
31. 11/6(日) (日南市) 県総合防災訓練について
医師連盟関係
(議決事項)

1. 12/2(金) (JA-AZM) 経済危機突破総決起大会の開催について

開催趣旨に賛同し協力することが承認された。

2. 12/10(土) (北九州市) 吉田学前厚生労働事

務次官との意見交換会のご案内

河野委員長は別の公務があるため代理出席者を調整することが承認された。

3. 12/6(火) (東京)「参議院議員 松下新平政経セミナー」開催のご案内

松下議員の国政に舞台における更なる飛躍を願い開催される政経セミナーで、協力をすることが承認された。

4. 12/12(月) (東京) 令和4年武見セミナーのご案内

これからの武見議員の活躍を応援するために開催されるセミナーで、協力をすることが承認された。

5. 12/14(水) (東京) 衆議院災害対策特別委員長 自由民主党総合農林政策調査会長 衆議院議員 江藤 拓『希望ある未来を拓く』政経セミナー

江藤議員の更なる飛躍を期して開催される政経セミナーで、協力をすることが承認された。

6. R5.1/7(土) (宮観ホテル) 令和5年三師会合同新春懇談会の開催について

県薬剤師会の担当で開催される懇談会で、県医師連盟執行委員、県医師会顧問及び役員に案内することが承認された。

令和4年11月29日(火) 第12回全理事協議会

医師会関係**(議決事項)****1. 会費減免申請について**

高齢による日医会費減免2名が承認された。

2. 宮崎県医師会役員等報酬支給について

県医師会役員等の報酬等規程に基づき、28名の役員等に報酬を支給することが承認された。

3. 職員の冬季手当支給について

県医師会職員給与規程等に基づき、宮崎

県人事委員会の勧告を参考に、社会情勢等を踏まえて、19名の職員に期末・勤勉手当を支給することが承認された。

4. 管理職調整手当の支給について

管理職調整手当の支給に関する規程に基づき、期末勤勉手当に併せて5名の職員に支給することが承認された。

5. R5.2/11(土) (大分市)「九州医師会連合会第405回常任委員会」並びに「九州医師会連合会令和4年度第2回各種協議会」の開催について

常任委員会については、河野会長が出席することが承認され、議題があれば事務局経由で会長に提出し、取扱いについては会長に一任することが承認された。各種協議会については、提案事項の取りまとめ等の担当として、地域医療対策協議会は金丸常任理事、医療保険対策協議会は嶋本常任理事、介護保険対策協議会は石川常任理事が務めること、出席者については、後日事務局から照会することが承認された。

6. R5.1/17(火) 令和4年度第3回都道府県医師会長会議の開催について

河野会長が出席することが承認された。また、今回のテーマである「学校保健をめぐる諸課題について」に関し意見や質問があれば、事務局に提出し、取扱いについては会長一任とすることが承認された。

7. R5.1/24(火) 第3回各郡市医師会長協議会の開催について

開催することと、各郡市医師会に対し質問および提案事項を照会することが承認された。また、役員から議題があれば事務局に提出することとなった。

8. R5.5/3(水・祝)・5/4(木・祝) (岐阜) 第5回全国医師ゴルフ選手権大会について

日本医師会と全国医師協同組合連合会が共催する大会で、本会代表として、本年11

月に開催した県医親善ゴルフ大会の成績をもとに2名を選抜することが承認された。

9. R5.1/23(月) (県医) 令和4年度宮崎県感染症危機管理研修会について

共催することと、開催案内や会場使用等について協力することが承認された。なお、今回は感染対策向上加算に係るカンファレンス・訓練として開催される。

10. 宮崎県感染症発生動向調査事業における指定届出機関の推薦について

感染症発生動向調査事業に協力をする指定届出機関について、インフルエンザ定点医療機関の辞退に伴う推薦依頼があり、1医療機関を推薦することが承認された。

11. 令和6年度第55回全国学校保健・学校医大会実行委員会について

令和6年度に宮崎で開催される大会に向け、本会学校医部会を中心に実行委員会を立ち上げ準備をしていくことが承認された。

12. 令和4年度宮崎県保健医療福祉調整本部関係者会議の開催について

大規模災害時に設置される保健医療福祉調整本部の関係者が平時から連携強化を図り大規模災害に備えるための会議で、担当の山村副会長、副担当理事の池井常任理事が出席することが承認された。なお、主担当理事の落合理事はDMATの代表として参加をすることが報告された。

13. 母体保護法指定医師研修機関指定申請について

1医療機関からの申請があり承認をした。

14. 12・1月の行事予定について

15. その他

年末の役職員懇談会の開催を見送ることが確認された。

(報告事項)

1. 週間報告について

2. 11/25(金) (大分) 九医連常任委員会について

3. 11/25(金) (大分) 九医連臨時委員総会について

4. 11/26(土) (大分) 九医連委員・九州各県役員合同協議会について

5. 11/26(土)・27(日) (大分) 九州医師会総会・医学会について

6. 11/22(火) (県医) 各都市医師会長協議会について

7. 11/26(土) (宮大医学部) 宮崎大学医学部附属病院研修ローテート等説明会について

8. 11/29(火) (九州厚生局宮崎事務所) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

9. 11/12(土) (岩手) 全国学校保健・学校医大会について

10. 11/24(木) (県防災庁舎) 社会保険医療担当者の個別指導について

医師連盟関係

(報告事項)

1. R5.1/17(火) (日医) 日本医師連盟執行委員会開催について

河野委員長と吉田常任執行委員の出席が承認された。

あなたできますか？ (解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b	d	e	a	b	b	c	c, e	c	e

医師の求人・求職は 日本医師会 女性医師バンク をご利用ください！

日本医師会女性医師バンクは厚生労働省の委託事業です。
登録から紹介・成立まで、費用はすべて無料で利用できます。



女性医師バンクが選ばれる3つのポイント

ポイント

1

登録～成立まで費用はすべて無料

登録料、情報掲載料、紹介手数料、成立手数料、相談・サポートなど、
すべて無料でご利用いただけます。

ポイント

2

専任のコーディネーターによるサポート体制

経験豊富な専任のコーディネーターが、紹介～成立後の相談まで
きめ細かにサポートいたします。

ポイント

3

日本全国、日本医師会の会員・非会員を問わず利用が可能

まずはお気軽にご相談ください！

☎03-3942-6512 (平日10:00～17:00)

詳しくはWebサイトをご覧ください

日本医師会女性医師バンク

検索

日本医師会女性医師バンク 中央センター 〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16 日本医師会館B1F

県 医 の 動 き

(12月)

1	県医中間監事監査（会長他） 県新型コロナウイルス感染症対策協議会 （山村副会長他）	14	日医地域包括ケア推進委員会（Web会議） （石川常任理事） 支払基金審査運営協議会（会長） 日医定款・諸規程検討委員会（Web会議） （小牧副会長） 広報委員会（荒木常任理事他） 県特定行為に係る看護師の研修制度推進検討会 （池井常任理事他）
2	経済危機突破総決起大会（会長）	15	日医予防接種・感染症危機管理対策委員会（Web 会議）（峰松理事） 県医療審議会（会長他） 県医療審議会医療法人等部会（山村副会長他）
3	県産婦人科医会新生児蘇生法講習会 産業医研修会（TV会議）（大塚常任理事他）	16	日医未来医師会ビジョン委員会（Web会議） （大塚理事） 県地域医療対策協議会（会長他） 広報委員会（荒木常任理事他）
4	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会 （石川常任理事）	17	かかりつけ医認知症対応力向上研修会 （石川常任理事）
6	県健康長寿社会づくり推進会議（会長） 県保険者協議会（山村副理事長他）	18	河野しゅんじ候補拡大選対会議（河野委員長）
7	日医医療秘書認定試験委員会（池井常任理事） 外国人患者対応に関する研修会（Web会議） （金丸常任理事）	19	西諸地域医療構想調整会議（金丸常任理事） 自殺対策うつ病研修会（Web会議）（会長他）
8	河野しゅんじ候補必勝祈願祭・出陣式 （河野委員長） 社会保険医療担当者の特定共同指導 （荒木常任理事他） 都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会 （Web会議）（金丸常任理事） 性暴力被害者支援に係る意見交換会（上山理事） 県産婦人科医会全理事会（Web会議） （嶋本常任理事他）	20	日医監事会（Web会議）（会長） 日医役員勉強会（Web会議）（会長） 日医理事打合せ（Web会議）（会長） 日医理事会（Web会議）（会長） 県個人情報保護審議会（荒木常任理事）
9	日医医師会共同利用施設検討委員会（Web会議） （市来常任理事） 社会保険医療担当者の特定共同指導 （嶋本常任理事） 指導医のための教育ワークショップ打合せ会 （金丸常任理事） 労災部会自賠委員会（Web会議）（河原理事） 損害保険医療協議会（Web会議）（河原理事）	21	全国学校保健・安全研究大会準備委員会 （高木常任理事） 県保健医療福祉調整本部関係者会議 （山村副会長他）
10	指導医のための教育ワークショップ （金丸常任理事） 指導医のための教育ワークショップ記念撮影 （会長他） 県産婦人科医会性教育シンポジウム（上山理事） （福岡）自見はなこ社会保障政策懇話会 （小牧常任執行委員） （福岡）吉田学前厚生労働事務次官との意見交 換会（小牧常任執行委員）	22	県依存症対策推進協議会（吉田常任理事） 医師会立看護学校担当理事連絡協議会（Web 会議）（会長他） 県歯科医師会医療と介護における連絡調整会議 （石川常任理事）
11	指導医のための教育ワークショップ （金丸常任理事）	23	都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担 当理事連絡協議会（Web会議）（山村副会長他） 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 （嶋本常任理事） 医師会国保組合理事会（秦理事長他）
12	日医公衆衛生委員会（Web会議）（峰松理事） 生活習慣病検診従事者研修会（肺・乳・胃・ 大腸がん検診研修会）（Web会議）（金丸常任理事）	24	河野しゅんじ候補帰陣式（河野委員長）
13	医協理事会（河野理事長他） 医協理事・運営委員合同協議会（河野理事長他） 第13回全理事協議会（会長他）	25	河野しゅんじ候補開票速報会（河野委員長）
		26	全国国保組合協会臨時理事会（Web会議） （秦理事長）
		27	第14回全理事協議会（Web会議）（会長他）
		28	仕事納め式（会長） 労災診療指導委員会（赤須常任理事他）

ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

令和4年12月1日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み・お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1. 求職者登録数 13人

希望診療科目	求人数	常 勤	非常勤
内 科	9	4	5
脳 外	1	0	1
老 健	1	0	1
検 診	2	0	2

2. 斡旋成立件数 88人

	合 計
令 和 4 年 度	3
平成16年度から累計	88

3. 求人登録 89件 313人

(人)

募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤	募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤
内 科	86	71	15	消 化 器 外 科	3	2	1
外 科	26	21	5	乳 腺 外 科	3	3	0
整 形 外 科	31	24	7	健 診	3	2	1
精 神 科	9	8	1	泌 尿 器 科	5	3	2
脳 神 経 外 科	10	6	4	産 婦 人 科	1	1	0
循 環 器 科	11	8	3	検 診	3	1	2
消 化 器 内 科	16	14	2	皮 膚 科	4	2	2
麻 酔 科	12	9	3	婦 人 科	2	2	0
眼 科	9	7	2	呼 吸 器 外 科	4	3	1
放 射 線 科	9	8	1	人 工 透 析	8	6	2
小 児 科	4	2	2	リウマチ科	0	0	0
呼 吸 器 科	2	2	0	臨 床 病 理 科	1	1	0
在 宅 診 療	2	2	0	形 成 外 科	2	1	1
総合診療科・内科	6	5	1	診 療 科 目 不 問	3	3	0
脳 神 経 内 科	7	5	2	緩 和 ケ ア	1	1	0
呼 吸 器 内 科	9	8	1	内 分 泌 糖 尿 病 内 科	2	2	0
リハビリテーション科	5	5	0	そ の 他	5	5	0
救 命 救 急 科	9	9	0	合 計	313	252	61

求 人 登 録 者 (公 開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、
無料職業紹介所（ドクターバンク）へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	宮崎県赤十字血液センター	宮崎市	検診	3	常勤・非常勤
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	脳外,整,放,麻,内	9	常勤・非常勤
160017	医)宮崎博愛会 さがら病院宮崎	宮崎市	乳外,放,麻	3	常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮崎市	精,内	2	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	呼内,神内,総診,呼外,病理,乳外,整,麻,代内	9	常勤
170048	社医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内,放	2	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内,神内,整,消内,腫内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内,呼内,総診	6	常勤
190094	医)耕和会 迫田病院	宮崎市	内,外	2	常勤
190095	社医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	1	常勤
200104	社医)善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	内,外,救急,呼外,婦人,整,麻	12	常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	外,内,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
230139	介護老人保健施設 サンフローラみやざき	国富町	内,外	2	常勤
230144	宮崎医療生活協同組合	宮崎市	呼内,消内,健診,麻	7	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮崎市	内,外,整,脳外,リハ,麻,救急,緩和	13	常勤
230148	医)コムロクリニック	宮崎市	美外,形成外,外,麻(いずれか)	2	常勤・非常勤
230161	医)健心会 滝口内科医院	宮崎市	精	2	常勤・非常勤
230164	宮崎県保健所	宮崎市	公衆衛生	3	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮崎市	内,消内,消外,放(いずれか)	1	常勤
230185	医)朋詠会 獅子目整形外科病院	宮崎市	整,内	2	常勤
230194	医)財団シロアム 新城眼科医院	宮崎市	眼	2	常勤
230196	医)社団高信会 辰元病院	高岡町	内	1	常勤
230209	財)弘潤会 野崎東病院	宮崎市	内	1	常勤
230213	医)聖美会 南宮崎ヤマモト腎泌尿器科	宮崎市	泌,内,透(いずれか)	1	常勤
230214	医)聖美会 青島リゾートクリニック	宮崎市	内,リハ(いずれか)	1	常勤
230215	医)社団紘和会 平和台病院	宮崎市	糖内,消内	3	常勤
230217	医)けいあい かいクリニック	宮崎市	内,整	4	常勤・非常勤
230220	医)社団 宮崎医療センター病院	宮崎市	総診	1	常勤
160010	特医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内,消内,整,神内	7	常勤・非常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	外,脳外,内,透,眼皮,放,腎内,総診,泌,整	22	常勤・非常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内,外,整	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都城市	呼内,総診,消内,腫内	4	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都城市	内,呼内,消内	5	常勤
210114	一社)藤元メディカル藤元病院	都城市	精,内	3	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	消内,消外,乳外	5	常勤・非常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都城市	内	1	常勤
230162	一社)藤元メディカル藤元総合病院	都城市	内,透,循内,救急,放,呼内	12	常勤
230179	医)与州会 柳田病院	都城市	内	1	常勤
230181	介護老人保健施設 はまゆう	三股町	内	1	常勤
230192	医)社団明晴会 速見泌尿器科内科医院	都城市	内	1	常勤・非常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230199	医) 社団アブラムクラブ ベテスタクリニック	都城市	糖内, 心内	2	常勤
230208	医) 社団樺の葉 ホームクリニックみまた	三股町	内	1	常勤・非常勤
230216	一社) 藤元メディカルシステム大悟病院	三股町	精, 内	2	常勤
160012	医) 伸和会 延岡共立病院	延岡市	内	2	常勤
160021	医) 建悠会 吉田病院	延岡市	精	1	常勤
160034	医) 健寿会 黒木病院	延岡市	消外, 消内	2	常勤
190086	医) 早田病院	延岡市	消内, 循内	2	常勤
200100	医) 育生会 井上病院	延岡市	産婦, 内, 小	3	常勤・非常勤
200102	延岡市医師会病院	延岡市	消内, 消外, 内	3	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延岡市	内, 小	2	非常勤
230186	医) 隆誠会 延岡保養園	延岡市	精	1	常勤
230189	特医) 健腎会 おがわクリニック	延岡市	泌, 透	4	常勤・非常勤
230203	医) 杉杏会 杉本病院	延岡市	内	1	非常勤
230210	医) あつきこころ 大貫診療所	延岡市	内, 外 (いずれか)	1	常勤
230219	延岡リハビリテーション病院	延岡市	内, 整, リハ	3	常勤
160039	医) 誠和会 和田病院	日向市	外, 整	4	常勤
210111	福) 恩賜財団宮崎県済生会 日向病院	門川町	内, 外, リハ	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美郷町	内, 整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美郷町	内, 整	2	常勤
230200	医) おざきメディカルアソシエイツ 尾崎眼科	日向市	眼	1	常勤・非常勤
230201	医) 洋承会 今給黎医院	日向市	内, 循内	2	常勤
160023	医) 宏仁会 海老原総合病院	高鍋町	内, 麻, 外, 眼, 健診	5	常勤・非常勤
230187	国立病院機構宮崎病院	川南町	呼内, 循内, 糖内, 神内, 小, 整	12	常勤・非常勤
230223	医) 聖山会 川南病院	川南町	内, 腎内	3	常勤
160024	医) 隆徳会 鶴田病院	西都市	内, 外, 整, 総診, 透	5	常勤
230204	医) 昇山会 上山医院	西都市	内, 整 (いずれか)	1	非常勤
150002	社医) 慶明会 おび中央病院	日南市	内	4	常勤・非常勤
160022	医) 愛鍼会 山元病院	日南市	内	1	常勤
160037	医) 十善会 県南病院	串間市	精, 内	2	常勤
170047	日南市立中部病院	日南市	内, 外, 整, 在宅	4	常勤
180071	串間市民病院	串間市	内, 外, 総診, 消内, 腎内	5	常勤
230149	介護老人保健施設 おびの里	日南市	内	1	常勤
230188	医) 春光会 春光会記念病院	日南市	外, 内	5	常勤・非常勤
230211	医) 秀英会 介護老人保健施設長寿の里	串間市	不問	1	常勤
230221	医) 文誠会 百瀬病院	日南市	内, 外, 消内	6	常勤・非常勤
230222	宮崎県立日南病院	日南市	消内	2	常勤
160019	医) 相愛会 桑原記念病院	小林市	内, 皮	4	常勤・非常勤
170043	医) 和芳会 小林中央眼科	小林市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小林市	救急, 総診, 放, 麻	6	常勤
180076	医) けんゆう会 園田病院	小林市	外, 循内, 整, 脳外	9	常勤・非常勤
190091	医) 友愛会 野尻中央病院	小林市	整, 内, 脳外	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設 さわかセンター	小林市	内	1	非常勤
230169	医) 連理会 和田クリニック	小林市	内	1	常勤
230197	医) 友光会 整形外科押領司病院	小林市	整, 内, 麻	5	常勤・非常勤
230218	医) 養気会 池井病院	小林市	腎内	1	常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内, 外	2	常勤
180070	高千穂町国民健康保険病院	高千穂町	内, 透	3	常勤
190088	日之影町国民健康保険病院	日之影町	内, 外 (いずれか)	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡、賃貸希望の物件を紹介いたします。

令和4年12月1日現在

1. 譲渡物件	① 宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番,2634番 土地のみ：2,022.17㎡ (612.77坪)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	② 西都市中央町2丁目6番地 土地：2,280.83㎡ (691.16坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ 2階 547.79㎡ 3階 177.95㎡ 計 1,400.48㎡ (424.38坪) ※別途駐車場あり(20台)	所有者：西都市西児湯医師会員 図師医院跡
2. 譲渡又は 賃貸物件	① 児湯郡川南町大字平田1402-74 土地：4,449㎡ (1,348.18坪) 建物：鉄骨セメント造平屋建 1階 825.66㎡ (250.20坪) ※駐車場あり(70台)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	② 宮崎市上野町5-1 土地：1,260.55㎡ (381.98坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根5階建 1階 378.60㎡ 2階 391.80㎡ 3階 374.04㎡ 4階 374.04㎡ 5階 363.13㎡ 計1,881.61㎡ (570.18坪) ※駐車場あり(22台) 2階は事務所 3階は宿舍・寮8室使用可 4階は貸倉庫	所有者：宮崎市郡医師会員 谷口 二郎 たにくちレディースクリニック
3. 賃貸物件	① 延岡市無鹿町1丁目710 土地：1,654.58㎡ (501.38坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根4階建 1階 145.76㎡ 2階 338.70㎡ 3階 330.69㎡ 4階 14.25㎡ 計 829.40㎡ (251.33坪) ※駐車場あり(50台)	所有者：(医) 社団 隆豊会 江崎医院跡
	② 西臼杵郡高千穂町大字上野264番地 土地：875㎡ (265.15坪) 建物：木造瓦葺平屋建 1階 114㎡ (34.54坪) ※駐車場あり(20台)	所有者：西臼杵郡医師会員 後藤医院跡
	③ 宮崎市柳丸町32 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階部分の約半分のスペース：213.68㎡ (64.75坪) (1階は老人ホームと併設, 2・3階は老人ホーム) ※駐車場あり(14台)	所有者：宮崎市郡医師会員 野辺医院跡

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し、求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は、月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は、所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は、「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 (宮崎県医師協同組合)

TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179

E-mail: isikyout@miyazaki.med.or.jp

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

宮崎県医師会広報委員会

E-mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX : 0985-27-6550

きりとりせん

お名前：

ご所属：

TEL：

FAX：

宮崎県医師会行事予定表

令和4年12月22日

1		月				
1	日	(年始休業)	20 金	19:00 県産婦人科医会HTLV-1母子感染対策事業研修会 (Web会議)	↑	
2	月	(年始休業)				
3	火	(年始休業)	21 土	13:30 県訪問看護ステーション連絡協議会管理者向け研修会 (大分)九州ブロック災害医療研修会	↑	
4	水	13:00 新年賀詞交歓会 14:00 仕事始め式		15:30 (大分)九州ブロック災害医療研修会		
5	木			16:45 (大分)九医連救急・災害医療担当理事連絡協議会		
6	金	15:00 九州各県アイバンク連絡協議会		17:30 自賠責保険研修会 (Web会議)		
7	土	19:00 (※中止)三師会合同新春懇談会	22 日	9:00 (大分)九州ブロック災害医療研修会	国保審査	
8	日			9:00 かかりつけ医等発達障がい対応力向上研修会		
9	月	(成人の日)				
10	火	19:00 第14回常任理事協議会	23 月	19:00 広報委員会	社保審査	
11	水	16:00 支払基金審査運営協議会		19:00 県感染症危機管理研修会 (Web会議)		
12	木	19:00 県産婦人科医会常任理事会 (Web会議) 19:00 子ども救急医療電話相談に関する意見交換会 (Web会議)	24 火	18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会	↓	
13	金	19:00 医療安全対策 (Web) セミナー (Web会議)		18:00 医協理事会 18:30 医協理事・運営委員合同協議会 終了後 第15回全理事協議会 19:00 各郡市医師会長協議会		
14	土	10:30 保育支援事業スキルアップ研修会/全体顔合わせ会	25 水	13:30 宮大経営協議会		
15	日	9:00 人体シミュレータを用いた小児在宅医療実技講習会		15:00 労災診療指導委員会		
16	月	19:00 広報委員会		19:00 県歯科医師会地域医療支援病院等における医科歯科連携推進事業「医療連携会議」		
17	火	10:30 (日医)日医監事会	26 木	14:30 九州各県学校保健会長及び学校保健担当者連絡会 (Web会議)	↓	
		12:00 (日医)日医理事打合会				
		12:30 (日医)日医理事会				
		14:20 (日医)都道府県医師会長会議 16:30 (日医)日医連執行委員会 17:30 (日医)都道府県医師会長協議会・日医連執行委員会合同新年会				
18	水	13:00 日医地域医療対策委員会 (Web会議)	28 土	15:00 県産婦人科医会冬期総会・講演会 (Web会議)		
		13:30 県後期高齢者医療広域連合運営懇話会		15:00 九州各県内科医会会長会議 (Web会議)		
		19:00 臨床検査精度管理調査実行委員会 (Web会議)	29 日	9:00 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会		
		19:00 高次脳機能障がい講演会 (Web会議)				
19	木	18:30 病院部会・医療法人部会合同理事会	30 月	19:00 日医認定産業医制度関係小委員会 (Web会議)		
※都合により、変更になることがあります。 行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。				31 火	19:00 第16回全理事協議会 (Web会議)	

宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

令和4年12月22日

2		月							
1	水	18:45	スポーツドクター連盟総会 (Web会議)	15	水	19:00	広報委員会		
		19:00	健康スポーツ医学セミナー (Web会議)	16	木	15:00	(日医) 日医医療秘書認定試験委員会		
2	木	15:00	日医有床診療所委員会	17	金	14:00	(日医) 都道府県医師会事務局長連絡会	↑	
		15:00	県看護協会新人看護職員研修推進協議会			18:30	介護保険に関する主治医研修会 (Web会議)		
3	金			18	土	13:00	(福岡) 九州地区医師国保組合連合会全体協議会	国保審査	
4	土						レジナビFairオンライン宮崎県2023～臨床研修プログラム～		
5	日								14:30
6	月	13:30	県障害者施策推進協議会				16:00		病院部会・医療法人部会医療従事者研修会
7	火	19:00	宮大医学部5年生未来の医療を語る全員交流会	19	日				
		19:00	第15回常任理事協議会						
8	水	13:00	日医年金委員会 (Web会議)	20	月	19:00	広報委員会		
		16:00	支払基金審査運営協議会			19:00	JMAT・JRAT合同研修会 (Web会議)		
9	木	19:00	県産婦人科医会常任理事会 (Web会議)	21	火	10:00	(日医) 日医監事会	↑	
						11:00	(日医) 日医役員勉強会		
10	金	14:00	県ナースセンター事業運営委員会	22	水	15:00	労災診療指導委員会		
		15:00	(日医) 日医医師会共同利用施設検討委員会			15:00	産業保健総合支援センター運営協議会		
11	土	12:30	(熊本) 日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・学術大会 (建国記念の日)	23	木		(天皇誕生日)	社保審査	
		16:00	(大分) 九医連常任委員会			24	金		18:00
		16:00	(大分) 九医連各種協議会					15:00	医神祭 創立134周年記念医学会/県民健康セミナー (Web会議)
12	日	8:30	(熊本) 日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・学術大会	25	土	12:00	日医医療情報システム協議会 (Web会議)		
		14:00	緩和ケアチーム研修会 (Web会議)					10:00	日医医療情報システム協議会 (Web会議)
13	月	13:30	県社会福祉審議会	26	日				
		19:00	救急災害医療対策委員会 (Web会議)			27	月		
14	火	19:00	第17回全理事協議会 (Web会議)	28	火	18:30	医協理事会		
						19:00	医協理事・運営委員合同協議会		
						終了後	第18回全理事協議会		

※都合により、変更になることがあります。
行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

医 学 会 ・ 講 演 会

日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会 (胃)・(大腸)・(肺)・(乳)

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

※新型コロナウイルス感染症拡大のため，中止や延期となる場合があります。
参加前には開催の有無を主催元にお確かめいただきますようお願いいたします。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会 1月13日(金) 14:00~16:00 県医師会館	石綿(アスベスト)関連疾患診断技術研修会(専門研修) 「石綿関連疾患胸部画像診断の読影実習」 長崎大学 医師薬学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤 和人 他 生涯研修の現地研修：2単位	9 (0.5) 45 (0.5) 46 (0.5) 79 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
【8/5延期分】 延岡医学会学術講 演会 (Web講習会) 1月13日(金) 19:00~20:15 延岡コワーキング スペース ※受講は現地また はWeb	肥満糖尿病における摂食と運動，薬物治療の新たな理解 宮崎大学医学部 生体制御医学研究講座 大阪大学 蛋白質研究所 特任教授 中里 雅光	76 (1.0)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 大正製薬(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
南那珂医師会生涯 教育医学会 (Web講習会) 1月17日(火) 19:00~20:30 南那珂医師会館 ※受講は現地また はWeb	関節リウマチの呼吸器病変について 宮崎大学医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野 助教 川口 剛 ----- 関節リウマチ診療の地域連携について 宮崎大学医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学講座 准教授 梅北 邦彦	73 (0.5) 13 (1.0)	◇主催 ※南那珂医師会 ☎0987-23-3411 ◇共催 アッヴィ合同会社

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 がん検診)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
第2回宮崎肝硬変セミナー (Web講習会) 1月20日(金) 18:45~20:40 宮崎観光ホテル ※受講はWebのみ	肝硬変のトータルマネジメント～肝性脳症を中心に～ 岐阜大学 医学系研究科 消化器内科学 教授 清水 雅仁	32 (1.0)	◇主催 宮崎肝硬変セミナー ◇共催 ※あすか製薬(株) ☎096-322-0771
	当院における肝性脳症の診断・治療 ～改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略～ 宮崎大学医学部 内科学講座 消化器内科学分野 准教授 永田 賢治 他	19 (0.5)	
宮崎県遺伝性血管性浮腫 (HAE) セミナー～その腫れもしかして…遺伝性血管性浮腫～ 1月20日(金) 19:00~20:15 宮崎大学医学部附属病院	遺伝性血管性浮腫のOver view 昭和大学医学部 皮膚科学講座 主任教授 猪又 直子	24 (0.5)	◇主催 宮崎県皮膚科医会 ◇共催 ※武田薬品工業(株) ☎092-261-2001
第91回宮崎大学眼科研究会 1月21日(土) 16:00~18:30 KITEN	難治性網膜硝子体疾患に対する治療Update 近畿大学医学部 眼科学教室主任教授 日下 俊次	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎大学医学部眼科学教室 ☎0985-85-2806
令和4年度宮崎県感染症危機管理研修会 (感染症対策向上加算訓練・カンファレンス) 【TV会議】 1月23日(月) 19:00~21:00 県医師会館2階 【TV会議場：都城, 延岡, 日向, 児湯, 西都, 南那珂, 西諸, 西白杵】	予防接種に係る最新の知見等について 日本ワクチン産業協会 上村 浩	11 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎県 (連絡先) 宮崎県健康増進課感染症対策室 ☎0985-44-2620
	国内外における輸入感染症の動向と新型インフルエンザ等について 国立感染症研究所感染症疫学センター 第一室 室長 松井 珠乃	8 (0.5) 26 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会 1月24日(火) 19:00~21:00 延岡市職業訓練支 援センター	この一年間(令和4年)の産業保健の動向 産業保健相談員 労働衛生コンサルタント 矢崎 武 生涯研修の更新研修: 2単位	3 (0.5) 6 (0.5) 7 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
令和4年度宮崎県 産婦人科医会・宮 崎県産科婦人科学 会冬期定時総会・ 講演会 (Web講習会) 1月28日(土) 15:00~17:00 県医師会館 ※受講は現地また はWeb	次回妊娠を見据えた帝王切開術の工夫 新潟大学歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 教授 西島 浩二	3 (1.0)	◇主催 ※宮崎県産婦人科医会 ☎0985-22-5118 ◇共催 宮崎県産科婦人科学会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月2日(木) 19:00~21:00 県医師会館	この一年間(令和4年)の産業保健の動向 産業保健相談員 労働衛生コンサルタント 矢崎 武 生涯研修の更新研修: 2単位	3 (0.5) 6 (0.5) 7 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
宮崎県医師会産業 医研修会 2月3日(金) 19:00~21:00 県医師会館	精神科医から見たメンタルヘルス連携の在り方(Ⅱ) 産業保健相談員 西都病院 医師 植田 勇人 生涯研修の専門研修: 2単位	1 (0.5) 6 (0.5) 9 (0.5) 11 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※=連絡先	
令和4年度介護保険に関する主治医研修会 【Web講習会】 2月17日(金) 18:30~22:00 県医師会館 ※受講は現地またはWeb	主治医意見書に関する総論 早稲田クリニック 院長	12 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118	
	身体機能, 移動能力に関連した主治医意見書の記載 宮崎大学医学部附属病院 リハビリテーション部 教授	80 (0.5)		荒川 英樹
	老年期の精神障害~主治医意見書記載時のポイント~ 若草病院	29 (0.5)		水野 恵三子
第68回宮崎県スポーツ学会 3月11日(土) 15:20~19:00 JA-AZMホール	アスリートのメディカルサポート 国立スポーツ科学センター 副センター長 スポーツメディカルセンター センター長	10 (0.5)	◇主催 宮崎県スポーツ学会 ◇共催 宮崎県整形外科医会 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986	
		61 (0.5)		中嶋 耕平

宮崎県医師会メーリングリストのご案内

宮崎県医師会では「MMA通信」と「MMA交流（会員交流用）」の2本立てでのメーリングリストの運用をしています。

◆MMA通信

目的：県医師会から会員への情報提供（各種通知文書，研修会の案内など）

対象：会員本人，医療機関代表のアドレスなど

◆MMA交流

目的：会員同士の意見交換，会員からの情報提供

対象：会員本人のみ

◆登録方法について

県医師会事務局宛 office@miyazaki.med.or.jpにメールを送信してください。

折り返し，事務局から登録に関するメールを送信いたします。

災害が発生した場合，情報の収集および発信手段は複数確保することが必要です。

まだ登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

お問い合わせ先：宮崎県医師会 学術広報課

TEL 0985-22-5118

医師年金

<認可特定保険業者>公益社団法人 日本医師会

ご加入のおすすめ

加入資格 64歳6カ月未満の日本医師会会員 (会員区分は問いません)

☑年金検討チェックリスト

- 公的年金では現役時代の生活水準を維持できない
- コツコツ積立てて十分な年金を確保しておきたい
- 一生涯受け取れる年金が望ましい
- 受け取れる年金の額を効率的に増やしたい
- 医師独自のライフスタイルにあった年金がいい
- 加入前に受取年金額のシミュレーションを確認したい

1つでも該当したら…

医師年金ご加入をおすすめします!

医師年金ホームページで、
簡単シミュレーション!

医師年金 検索

<http://www.med.or.jp/nenkin/>

ご希望の受給額や保険料、生年月日を入力するだけで、簡単に受取年金月額のシミュレーションができます。ぜひお試しください。

個別プランの設計や詳しい資料のご請求はこちら

JMA 公益社団法人
日本医師会 年金福祉課

TEL : 03-3942-6487(直通)

FAX : 03-3942-6503

受付時間: 午前9時30分~午後5時(平日)

E-mail : nenkin@po.med.or.jp

保険料からプラン作成

【保険料】	
●基本: 月払 加算: 月払	月払保険料
加算年金 (10万円)	60,000円
基本年金	月払保険料 12,000円
支払期間 19年 2ヶ月 (230期)	
合計月払保険料 72,000円	

設定条件をご確認ください。

試算日	令和2年 9月 10日
生年月日	昭和50年 1月 1日
試算日年齢	45歳
加入申込期間	令和2年 10月 15日
加入予定年月	令和2年 11月
加入時年齢	45歳 10ヵ月
加算払込開始年月	令和2年 11月
年金受取開始年月	令和22年 1月
年金受取開始年齢	65歳
払込保険料累計	16,560,000円

注意事項です。お読みください。

- ・加入申込期間は、15日が土日・祝祭日の場合は、その前日となります。
- ・「終身年金」は、加入者ご本人であれば一生涯受け取ることができます。
- ・「保証期間15年」では、受給者ご本人が保証期間中にお亡くなりになった場合、15年の残りの期間について、ご遺族の方が必ず受け取ることができます。
- ・「受取コースの選択(国へ割)」は、受取開始の時に選択する必要があります。
- ・受取開始年齢は、75歳まで延長できます。
- ・「受取年金月額」は概算です。現在は年利率1.5%での計算となっており、将来、年金の制度改定が行われる時は、変更になる場合があります。

【受給年金】	
●81コース	保証期間15年 終身
加算年金	64,600円
基本年金	保証期間15年 終身 12,900円
毎月	77,500円
15年受取総額	13,950,000円

●82コース	保証期間15年 終身
加算年金	5年確定型 276,500円
基本年金	保証期間15年 終身 12,900円
毎月	289,400円
15年受取総額	18,912,000円

●83コース	保証期間15年 終身
加算年金	10年確定型 143,400円
基本年金	保証期間15年 終身 12,900円
毎月	156,300円
15年受取総額	19,530,000円

●84コース	保証期間15年 終身
加算年金	15年確定型 99,100円
基本年金	保証期間15年 終身 12,900円
毎月	112,000円
15年受取総額	20,160,000円

診療メモ



不眠症の薬物療法

宮崎大学医学部臨床神経科学講座 精神医学分野 治田 彩香

不眠症とは

誰しも、心配事がある時・試験前日・旅行先などで「眠ろうとしてもどうしても眠れない」という不眠体験があると思います。通常は数日から数週のうちにまた眠れるようになりますが、時には不眠が改善せず1か月以上続く場合があります。不眠が続くと、倦怠感・意欲低下・集中力低下・抑うつ・めまいなど日中にさまざまな不調が出現するようになります。「1. 長期間にわたり夜間の不眠が続く」「2. 日中に精神や身体の不調を自覚して生活の質が低下する」、このふたつが認められたとき不眠症と診断されます。

不眠症治療のアルゴリズム

～原因の検索と睡眠衛生指導の充実～

不眠の訴えのある方に対しては、まず不眠の症状と日中の機能障害を評価し、治療の可否を判定します(図1)。不眠の原因には、①身体的原因(さまざまな身体疾患、痛み、咳、頻尿、発熱など)②薬理学的原因(アルコールやカフェイン、治療のために用いている薬剤など)③精神医学的原因(アルコール依存症、不安、パニック障害、うつなど)④心理学的原因(ストレス、重篤な疾患、人生の大きな変化など)⑤生理学的原因(時差ぼけ、交代勤務、入院による生活リズムの変化など)があり、可能な限り原因の緩和を試みます。治療にあたっては、生活習慣や睡眠環境などを確認し、十分に睡眠衛生指導を行ったうえで、その後の治療法を検討していきます。睡眠衛生指導の内容の詳細に関しては、ここでは割愛しますが、「健康づくりのための睡眠指針2014～睡眠12箇条～」(厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000047221.pdf>)が参考になるかと思います。睡眠薬を導入した場合も、治療効果を認め寛解した人に対しては休薬トライアルを行うという、出口を見据えた不眠治療のアルゴリズムが推奨されています。

薬物療法における注意点

～リスクのある薬の使用をいかに控えるか～

不眠自体が認知機能や平衡機能に悪影響を及ぼすとされ、適切な治療導入が必要となります。従来のベンゾジアゼピン受容体作動薬(以下、BZ系睡眠薬)は、抑制系のGABA神経系の作用を増強することで鎮静・催眠効果を発揮する薬です。作用発現が早く、患者さんの満足感も得られやすい反面、健忘や反跳性不眠を起こしやすく、用量の範囲内であっても投与を継続するうちに依存・耐性の形成に陥りやすいとされます。認知機能の低下、翌日への持ち越し効果による日中の倦怠感、せん妄、脱抑制(抑制がとれてしまう状態、易興奮性など)、筋弛緩作用によるふらつき、転倒・転落のリスクなどから、診療ガイドライン上も特に高齢者では推奨されておらず、近年は処方控える傾向にあります。ただ、患者さんから処方継続を強く求められ、断りにくいケースも多いのが現状です。その場合でも、患者さんには服用に際して起こり得るリスクを説明し、できるだけ使用しないほうが良いことを伝えます。ふらつき・健忘の自覚はないか、認知機能低下の心配を抱いていないかなど時々お尋ねし、患者さんからそれらの相談を受けた時が薬剤調整について話し合う良いタイミングかと思います。やむを得ずBZ

系睡眠薬を継続していく場合は、治療上の必要性を検討し漠然とした長期投与を避け、用量を遵守し類似薬の重複処方がないことを確認することが必要です。エチゾラム、アルプラゾラムなどのBZ系抗不安薬も同様の副作用リスクがあり、処方の際は慎重さが求められます。「非BZ系睡眠薬」のエスゾピクロンやゾルピデムはBZ系睡眠薬と比較し筋弛緩作用が少なく転倒のリスクは低いとされますが、BZ受容体への作用を有するため、投与継続の際は前述の副作用を生じていないかの評価は必要となります。

医療安全面から考える不眠症の薬物療法

近年は新規作用機序の睡眠薬が用いられるようになっていきます。ラメルテオンはメラトニン受容体作動薬で、概日リズム調整作用をもち、自然な眠りを誘発するようなイメージの薬です。内服開始から効果発現まである程度の日数を要し、不眠時頓用での使用適応はないのですが、BZ系睡眠薬の使用歴のないケースで有効とされ、せん妄の予防効果も示唆されています。レンボレキサントやスポレキサントなどのオレキシシン受容体拮抗薬は、覚醒の維持に重要

な物質であるオレキシシンの作用を抑制することで睡眠を促すと考えられており、こちらもせん妄の発現率の抑制との関連が示唆されています。いずれもBZ系睡眠薬と比較し離脱症状や転倒のリスクが低く、不眠症状の改善に伴い無理なく減量・休薬できる印象です。副作用の不安から睡眠薬内服を躊躇される患者さんや、睡眠薬の使用歴のない患者さんへのファーストラインとしては新規作用機序の睡眠薬が勧められます。すでに年単位でBZ系睡眠薬を服用している患者さんで、減薬・休薬を望まれる方に対しては、離脱症状や反跳性不眠に留意し、まず1～2週間程度新規作用機序の睡眠薬を併用して、そこからゆっくりと漸減/隔日投与などで前薬を減薬するようにします。BZ系睡眠薬を完全に0にする、休薬するのが理想ですが、なかなか難しく時間もかかるものです。減量すればそれだけ有害事象を軽減できる、というハーム・リダクションという考え方にに基づき、少しずつでも休薬に向けて減量できたことを喜び合いながら、医師・患者さん双方が休薬に向けたモチベーションを維持してゆけるとよいのではないかと思います。

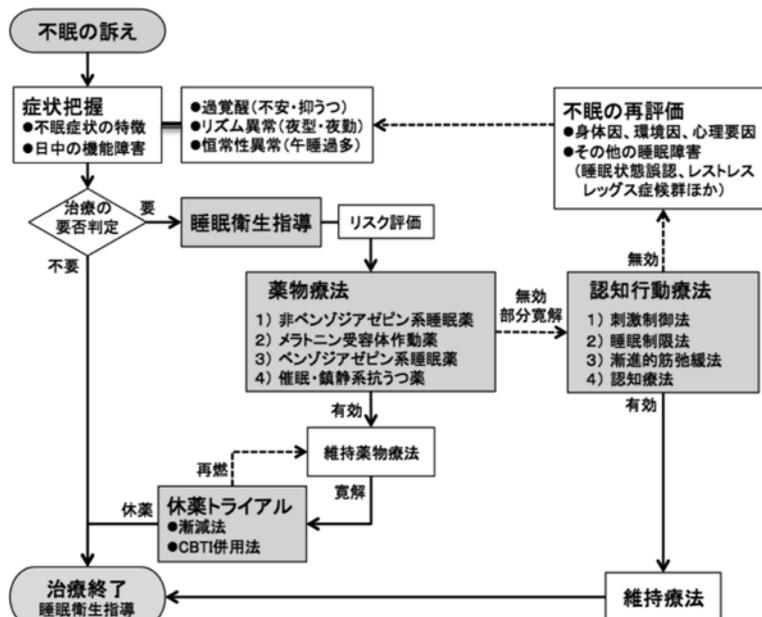


図1. 不眠症の治療アルゴリズム
 睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン (2013)
 (https://www.jssr.jp/data/pdf/suiminyaku-guideline.pdf)より

※本ガイドライン作成時には、まだオレキシシン受容体拮抗薬が国内未承認であったため、それについての記載はない。

宮大医学部学生のページ

宮崎大学清花祭 第18回～撥雲見天～ 開催報告

清武キャンパス実行委員長

医学科4年 村社 優介

第18回清花祭が、令和4年11月19日、20日の二日間、清武・木花の両キャンパスにて開催されました。残念ながら天候に恵まれず、雨天時案での開催となりましたが、コロナ禍で初めて、学外のお客様を交えて開催することができました。体育館でのイベントや前夜祭・後夜祭が行えたのも4年ぶりでした。いまだ新型コロナウイルスの勢いが収束を見せないこの状況で、このようにして清花祭を成り立たせることができたのは、病院関係者の方々をはじめ、教職員の方々、後援会、さまざまな企業の他、多くのご支援、ご協力のおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回の清花祭は、軽音楽部の演奏により幕を開けました。息のあったバンドの演奏に多くの観客が魅了され、会場は大きな拍手に包まれました。次に行われた「ミスキャンパス」は、例年どおり大盛況の企画となりました。各学年から選出された女性10名が、数々のゲームを通して、美しさや女性らしさを競い合いました。入賞者には企業様から豪華な景品が送られ、出場者、観客ともに笑顔で溢れていました。「キズナ企画」では約20チームが出場し、互いの仲のよさを競い合いました。ゲームには伝言ゲームやリレーなどがあり、勝敗を問わず各チームの絆が固く結ばれた素晴らしい時間であったように思います。そのほか、各チーム独特の衣装で競い合う「仮装コンテスト」、地域の子どもたちを集め運動会を行う「子ども企画」、迫力満点の演奏で観客を魅了したすずかけ太鼓、ダンス部による華麗で力強いダンスなど、体育館内で行われたイベントはどれも例年以上の盛り上がりを見せました。

講義棟で行われた医学展も、体育館でのイベントに劣らない賑わいでした。患者さんや医療従事者の気持ちを本という1つの形にして配布する「気持ち企画」は、患者や医療従事者の気

持ちちにスポットライトを当てることで、お互いの『伝えたかったのは伝えられなかった思い』に近づく機会になったことと思います。主に児童を対象に医師・看護師体験ができる「なつてみよう企画」では、例年稀に見る大人数の児童で賑わい、医師や看護師のイメージがより明るく身近なものになったことと思います。脳、肌、血管など体の状態を『年齢』という数字を通して測定する「年齢企画」では、多くの方にご来場いただき、友人や家族と自身の健康について楽しそうに語り合う姿を見て大変嬉しく思いました。そのほか、身体の構造や身近な病気について理解を深めることのできる「解剖・病理展」、近年話題となっている免疫についての知識を深めることのできる「免疫展」など、日頃私たちが学んでいる医学の知識を、地域の方と楽しく共有できた医学展でした。

私ごとですが、今回清花祭の実行委員長を務めさせていただき、楽なことばかりではありませんでした。天候によるスケジュール変更や、学園祭を無事成功させることができるのかという委員長としてのプレッシャーなど、頭を悩ませる日もありました。しかし、それでも本番まで期待に胸を膨らませながら、準備し当日を迎えることができたのは、やはり幹部の存在が大きかったように感じます。苦しいときには常に幹部の誰かが側にいてくれ、労いの言葉や励ましの言葉をかけてくれました。学生生活終盤に



後夜祭終了後の幹部学年集合写真

て、ようやく本当の意味で仲間がいることの大切さを実感し、それに気付けた私は本当に貴重な経験ができたと思います。

最後になりましたが、このようにして今年も清花祭を開催することができたのは宮崎県医師会の先生方、地域の皆様にいただきましたご後援のおかげです。学年を代表し、重ねて感謝申し上げます。宮崎大学医学部の伝統的な学園祭が後世に引き継がれるよう、来年度以降もご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



ステージ企画の司会をする学祭幹部

医学展実行委員長 医学科4年 野村新太郎

医学展では今年も多く企画が発足し、医学に関する展示物や体験コーナー、スタンプラリーなどお子様からご年配の方まで皆様に楽しんでいただけるような医学展を開催することができました。新型コロナウイルスの第8波に対す

る警戒がなされる中、清花祭ならびに医学展の開催にあたってさまざまな困難がありましたが、今年は昨年とは異なり学外の方にも開放されたということで我々医学生一同心よりうれしく思っております。普段なかなか接する機会の少ない医学に対して医学展を通じて身近に感じていただけたのではないかと思います。また、我々医学生も、日頃お世話になっている清武町をはじめとする地域の方々に感謝を示すとともに、より一層の交流を深めることができました。

当日は2日ともあいにくの天気ではありましたが、11月19日、20日の2日間で1,000人近くの方々に来場していただくことができました。特に2日目は昼過ぎから次第に雲の隙間から日の光が差すときもあり、今年のテーマ「撥雲見天」のように、コロナ禍、経済不安など暗い雲を吹き払って、明るい日の光が差すよう、将来への希望につながる医学展になったのではないかと思います。

来年は後輩たちが医学展の運営に携わりますが、皆様には来年もぜひ会場に足を運んでいただければと思います。

最後に、今年の医学展を開催するにあたり、非常に多くの方にご協力いただきましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。今後も医学展をよろしくお祈りします。



学祭期間中の
医学展の様子

お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会地域医療課（TEL 0985-22-5118）にお問い合わせください。

またMMA通信（県医師会から会員への情報提供メーリングリスト）でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員の方はぜひご登録をお願いします。

送付日	文 書 名
11月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ Withコロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直しについて（一部改正） ・ 直近の感染状況等を踏まえた国民の皆様への呼びかけについて ・ 令和4年度新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業（医療分）の実施に当たっての取扱いについて ・ 「オミクロン株対応ワクチンの接種に関する児童生徒や保護者への情報提供について（協力依頼）」の送付について ・ オミクロン株による流行対応を踏まえた「保健・医療提供体制確保計画」の入院体制を中心とした点検・強化について ・ 新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬（ゾコーバ錠125mg）の医療機関及び薬局への配分について ・ 季節性インフルエンザとの同時流行を想定した外来医療体制等を踏まえた新型コロナウイルス抗原検査キットの発注等について ・ 医療事故調査制度の普及・啓発に関する協力依頼について ・ 産後ケア事業における安全管理の推進について ・ 「医療用物資の備蓄体制の強化について」に係る医療用物資の追加配布について ・ 「ケアプランデータ連携システム」の概要等の周知について（情報提供） ・ 第三者行為に係る診療報酬明細書（レセプト）の特記事項欄記載依頼文書の送付について（お願い）
12月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症における中和抗体薬「チキサゲビマブ及びシルガビマブ」の医療機関への配分について（別紙及び疑義応答集の修正） ・ Withコロナの新たな段階への移行に向けた全数届出の見直しについて（一部改正） ・ 厚生労働省委託事業「訪日外国人受診者医療費未払情報の報告に関する説明会（第5回）のご案内」につきまして ・ 降積雪期における防災態勢の強化等について ・ 予防接種法に基づく副反応疑い報告制度について ・ 令和4年度「人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査」の実施について ・ スキサメトニウム注射剤が安定供給されるまでの必要な患者への優先的な使用等の対応への協力について ・ 厚生労働省「疑義解釈資料の送付について（その33）」の送付について ・ エンハーツ点滴静注用100mgの医薬品医療機器等法上の効能・効果等の変更に伴う留意事項の一部改正等について

送付日	文 書 名
12月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・療養病床の人員配置標準に係る経過措置等に関する調査について ・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について ・ドネペジル塩酸塩製剤の保険適用に係る留意事項について
12月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・一般用SARSコロナウイルス抗原・インフルエンザウイルス抗原キットに係る一般用検査薬の製造販売承認申請の取扱いについて ・医療従事者のオミクロン株対応ワクチン接種の接種促進について（依頼） ・新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザへの対応に係るオンライン診療活用のための医療法上の臨時的な取り扱いについて ・新型コロナワクチンをまだ接種されていない妊娠中の方への接種の啓発について ・第27回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会の開催について ・厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会におけるヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する議論について（情報提供） ・令和4年度衛生環境研究所研究発表会の開催について（通知） ・エバシールド筋注セットの使用期限の取扱いについて（周知） ・「病原微生物検出情報」の送付について ・電子処方箋に関するオンライン説明会の実施等について ・材料価格基準の一部改正等について ・「介護職員処遇改善支援補助金に関するQ&A（Vol.4）（令和4年12月2日）」の送付について ・ジフテリア，百日せき，急性灰白髄炎及び破傷風に係る定期の予防接種の接種対象者拡大について ・医師法第17条，歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について（その2）
12月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・アセトアミノフェン製剤の在庫逼迫に伴う，成人患者への解熱鎮痛薬処方時のご配慮のお願い
12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年9月17日から同月24日までの間の暴風雨及び豪雨による災害により被害を受けた医療関係施設等に対する災害復旧に係る融資について ・令和4年度病床機能報告及び外来機能報告の報告期間について ・「不育症検査費用助成事業」の助成対象検査について ・看護師等業務従事者届についてのご協力をお願い ・「使用上の注意」の改訂について ・准看護師試験基準の一部を改正する件について ・「肺がん検診のための胸部X線読影・自己演習システム」について ・亡失した組合員証の無効通知について

送付日	文 書 名
12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナワクチン 予診票の確認のポイント Ver 9.0」について ・新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬（ゾコーバ錠125mg）の医療機関及び薬局への配分について（一部改正） ・「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律等の一部を改正する法律」の公布及び一部施行について ・感染対策における業務継続計画（BCP）の策定のための「集団研修（オンライン研修）」に係る二次募集について ・新型コロナウイルス感染症及び季節性インフルエンザ同時流行下における「薬局での医療用抗原定性検査キットの取扱い」及び「一般用新型コロナウイルス・インフルエンザウイルス抗原定性検査キットの販売時における留意事項」について ・今後の新型コロナワクチン接種について ・オミクロン株に対応した新型コロナワクチンの接種体制確保について（その8） ・予防接種法の改正等に伴う通知について ・年末年始の感染対策についての考え方のポイントについて ・「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施について（指示）」の一部改正について（通知） ・休日夜間急患センター・在宅当番医の体制及び診療・検査医療機関の指定は受けていないが小児の発熱患者に対応する医療機関の住民への周知について ・独立行政法人福祉医療機構の令和4年9月17日から同月24日までの間の暴風雨及び豪雨による災害により被害を受けた医療関係施設等に対する災害復旧資金の特例措置について ・季節性インフルエンザワクチンの供給について ・令和4年度診療報酬改定において経過措置を設けた施設基準の取扱いについて ・マイナンバーカードの取得、健康保険証利用申込及び公金受取口座登録の促進について（周知依頼） ・文部科学省発出「『脊柱側弯症検診に関する調査研究事業』における脊柱側弯症機器検診に関する調査と機器検診モデル事業実施自治体の公募について」の送付について（情報提供） ・厚生労働省「疑義解釈資料の送付について（その34）」の送付について ・医療扶助における向精神薬の重複処方の適正化に係る取組の徹底について ・令和4年犯罪収益移転危険度調査書の公表及びテロ資金供与に係る対策の好事例の提供について ・令和4年度介護事業実態調査（介護従事者処遇状況等調査）への御協力依頼について ・使用薬剤の薬価（薬価基準）の一部改正等について
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師のキャリアアップに伴う処遇改善の推進について ・日本看護学校協議会「教務主任養成講習会」のご案内 ・「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について（通知） ・「予防接種実施規則第5条の2第2項に基づき行われる児童相談所長等の予防接種に係る同意について」の一部改正について ・「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施について（指示）」の一部改正について（通知）

日州医事原稿募集のお知らせ

日州医事では、会員の皆様から随筆、旅行記、ご意見などさまざまな投稿を随時受け付けております。以下の要領に沿ってご投稿ください。

■ 随想・随筆・旅行記

字数：3,000字以内

写真：執筆者顔写真，その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 短歌・俳句・川柳・詩

字数：それぞれの一般的な文字数（500字以内）

写真：執筆者顔写真，その他本文に関連した写真・イラストなども掲載可

■ 宮崎グルメ探訪

題材：お気に入りのお店をご紹介ください。お店の雰囲気やお薦めの料理、思い出話など

字数：800字程度

写真：執筆者顔写真，その他料理などの写真（2枚程）

※掲載は白黒

■ 私の本/私が推薦する本

題材：書物の紹介，読みどころ，執筆の思い出・思い入れなど

字数：800字以内

写真：執筆者顔写真，書物の表紙写真

■ その他

- ・夏の「はまゆう随筆」，新年の「新春随想」はその時期に本誌で原稿募集の案内をいたします。
- ・随筆などに掲載する，カット・イラストも随時募集しています。

～上記のコーナーにご投稿いただくにあたっての留意事項～

■掲載の可否・方法につきましては広報委員会にご一任ください。

■原稿の趣旨を変えない範囲で，日州医事のルールにしたがって表記などの修正をさせていただきます場合があります。

■日州医事は，各都道府県医師会や行政・図書館・報道機関などにも配布しています。

■すべての投稿について

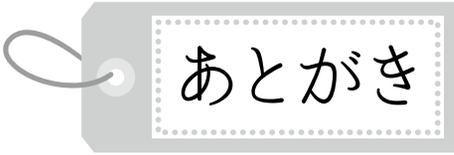
広報委員会で以下のいずれかに該当すると判断した場合には，修正または掲載をご遠慮いただくことがあります。

- ・著作権をはじめ，法令に定める権利やプライバシーを侵害するもの
- ・誹謗中傷や差別など，他の団体，個人または読者に不利益や嫌悪感を与える可能性があるもの
- ・布教や政治活動など，特定の宗教上や政治上の信条に偏ったもの
- ・公序良俗に反し，法律で禁止されている行為など，その他不適切と判断されるもの
- ・事実誤認，難解，過度な宣伝広告など

【原稿送付・問合せ先】 ご投稿は主にメールで受け付けております。

宮崎県医師会広報委員会 日州医事担当（弓削）

Tel 0985-22-5118 Fax 0985-27-6550 E-mail genko@miyazaki.med.or.jp



あとかぎ



11月21日～12月16日までの4週間、東京慈恵医科大学附属病院の救急部で実習させていただきました。慈恵医科大学救急部では、めまいや転倒などの一次救急から、CPAなどの三次救急まで幅広い症例を診ることができ、私にとって大変貴重な経験となりました。

慈恵医科大学の創設者、高木兼寛先生が宮崎出身であるということから、宮崎大学と慈恵医科大学の交流

実習が昨年から行われるようになりました。まだ開始されてはいませんが、宮崎と慈恵をVRでつないで実習を行うことも今後できるようになるそうです。

私が実習させていただいた救急部では、問診や診察だけでなく、今までしたことなかったルートの取り方で学ぶことができ、もっといろいろな手技をできるようになりたいと思いました。

実習がない日には、東京観光やご飯屋さん巡りをすることができました。慈恵の先生や学生におすすめを聞いては食べに行っていたので、宮崎に帰ってきた今、怖くて体重を測ることができません。特に、慈恵医科大学病院のすぐ近くにあるペルー料理屋さんのチキン煮込みは、とても美味しくくて心に残っています。ミシュランガイドにも載っているそうなので、近くに行った際には一度行ってみたいですね。

最後になりましたが、実習を受け入れてくださった慈恵医科大学病院救急部の皆様方に心より感謝申し上げます。慈恵の実習で学ばせていただいたことを、今後の実習または将来に活かしていきます。 (安藤)

* * * * *

「えーもう今年も終わりかあ…」などというセリフを、ここ数年、12月になると決まって言っているような気がします。そして、今後も毎年言い続けていくような気もしています。“振り返ってみればあつという間”というのも確かなのでしょうか、その中で一つでも何かを成し遂げたという充実感が得られるよう、これからの人生を過ごしていきたいとあらためて思っています。 (早川)

* * *

コロナウイルスの流行が始まってしばらくは妊娠を控える人が多い印象がありました。2021年末くらいから妊娠して受診される方が少し増えてきた傾向を感じていましたが、残念ながらコロナ前ほどには戻っていないようです。インフレもあり子どもを産み育てるにはなかなか厳しい時代になってきたようですが、2023年が子どもを持つことを希望する人たちにとって少しでも優しい環境が整えられる年になることを願っています。 (高橋)

* * *

サッカーW杯、日本代表ありがとうございます。日本代表といえば、ロスタイムで同点に追いつかれ念願のW杯に行けなかったドーハの悲劇や終了間際に同点、逆転負けとなった過去のW杯が思い出されます。今回ドイツ、スペインといった強豪国に勝利できたのは、辛い、悔しい経験があったからです。人生、うまくいかないこと、辛いことがあります。すべて糧となり、成功へとつながります。見たことがない景色、そう、見たいですね。 (石田)

コスパならぬタイパという言葉があります。タイムパフォーマンス、すなわち時間効率を意味するもので、例えば無駄と考える飲み会には行かない、本はあらずじだけ読む、映画やドラマなどは録画して1.5倍速でみる、などです。主にZ世代(10～20代前半)で重視される指標とのこと。彼らは生まれた時からネットやスマホ、SNSがあるため、情報があふれており、短時間で大量のコンテンツをこなすことが重要とされるようです。昨今、診療報酬単価は右肩下がり、人件費などは右肩上がりであり、我々もタイパを意識しなければならぬ時代に来ているのかもしれない。一人ひとりに向き合い、寄り添い、背景も考えながら最適な選択肢を探す、そういう医療は時代錯誤となるのでしょうか。 (稲倉)

* * *

11月の終わりから、ついに臨床実習が始まりました。これまで座学で学んできたたくさんの知識を基本にしつつ、実際の現場では実はこうなっている、といったようなことを新たに学べることを大変楽しみにしていましたが、実習が始まって1か月です。まだまだ勉強が足りないかと痛感することが多いと感じます。やるべきことは多いですが、引き続き頑張っていきたいです。 (鍛冶川)

* * *

2022年最後のあとかぎを書くこととなった。昨年同様コロナに振り回された1年であった。しかし私事では次男に男の子が授かり、長男におそらく年内に女の子が授かる予定である。自分では万年青年のつもりであるが現実はおじいちゃん。先行き不安な時代であるが孫たちの成長を楽しみに頑張っていきたい。 (高木)

今月のトピックス

年頭所感

日本医師会の松本吉郎会長をはじめ、宮崎県医師会幹部の先生方、羽生田俊先生や自見はなこ先生をはじめ政治家の方々から寄稿をいただいております。ほぼほぼコロナ関連の話題であり、まだまだ終息には遠い印象でしょうか。 3 ページ

新春随想

今年も多数のご投稿をいただいております。谷口先生：私もシャトレゼが好きです。宮尾先生：当クリニックにも余白が欲しいです。中山先生：天が先生に生きろといっているのです。眞柴先生：皮膚科はまさに触れるのが仕事です。鳥原先生：国際交流、素晴らしいです。など多数な投稿です。来月号と2回に分けての掲載となります。 26ページ

診療メモ 不眠症の薬物療法

不眠症の薬物療法について、治田彩香先生にご教授いただいております。当科ではほぼ非ベンゾジアゼピン系しか処方することはありませんが、新しい睡眠薬についてもあらためて勉強させていただきました。 92ページ

日 州 医 事 第881号 (令和5年1月号) (毎月1回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会 長 河 野 雅 行
〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 稲 倉 琢 也

副 委 員 長 菊 池 英 維

委 員 植 田 雄 一, 高 橋 典 子, 石 田 康 行,
長 井 慎 成, 早 川 学, 横 山 晃 子

学 生 委 員 平 井 昂 也, 安 藤 菜 々 子, 鍛 冶 川 雄 登, 山 本 樹

担 当 副 会 長 山 村 善 教

担 当 理 事 荒 木 早 苗, 高 木 純 一, 佐 々 木 究

事 務 局 学 術 広 報 課 弓 削 圭 介, 牧 野 諭

印刷所 有限会社 中川印刷 落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円 (但し, 県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)